

## 第4章 男女が互いの性を理解し尊重しあえる社会づくりについて

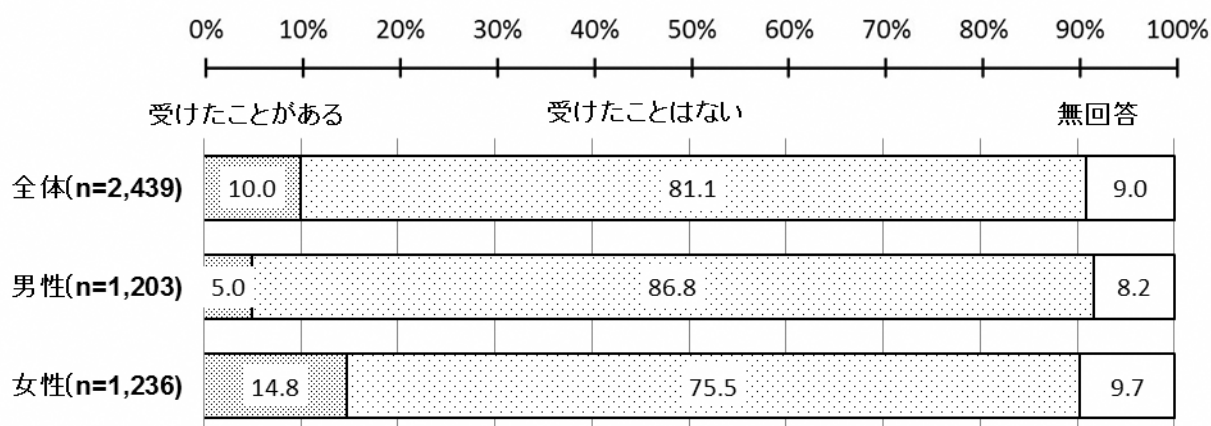
### 1 セクシュアル・ハラスメントと思う行為を受けた経験（問17）

この3年間に、職場や学校、地域活動の場のいずれかの場所で、セクシュアル・ハラスメントと思う行為を受けた経験があるかをたずねた。

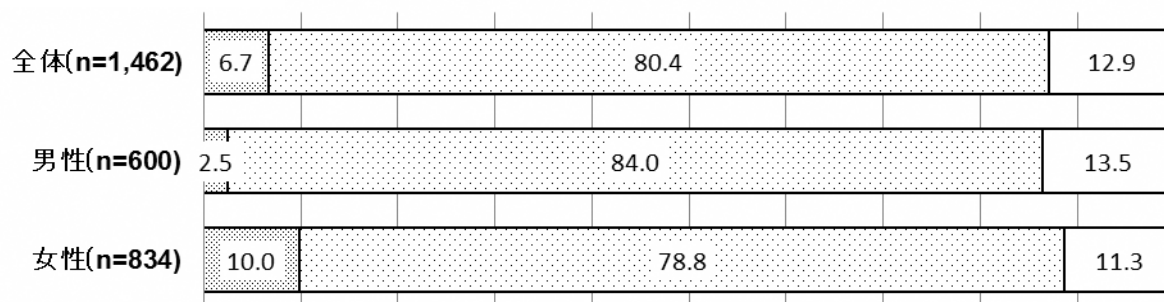
「受けたことがある」割合は、全体で10.0%、性別にみると、女性では14.8%で、男性（5.0%）よりも高くなっている。

経年比較をみると、全体、男性、女性いずれも「受けたことがある」は前回調査より、上がっている。

図表4-1 セクシュアル・ハラスメントと思う行為を受けた経験



【参考】平成26年度調査



(注) 今回の調査から、集計結果を横浜市の年齢構成比に合わせウエイトバック集計をかけています。平成26年度以前の調査結果は参考値となります。

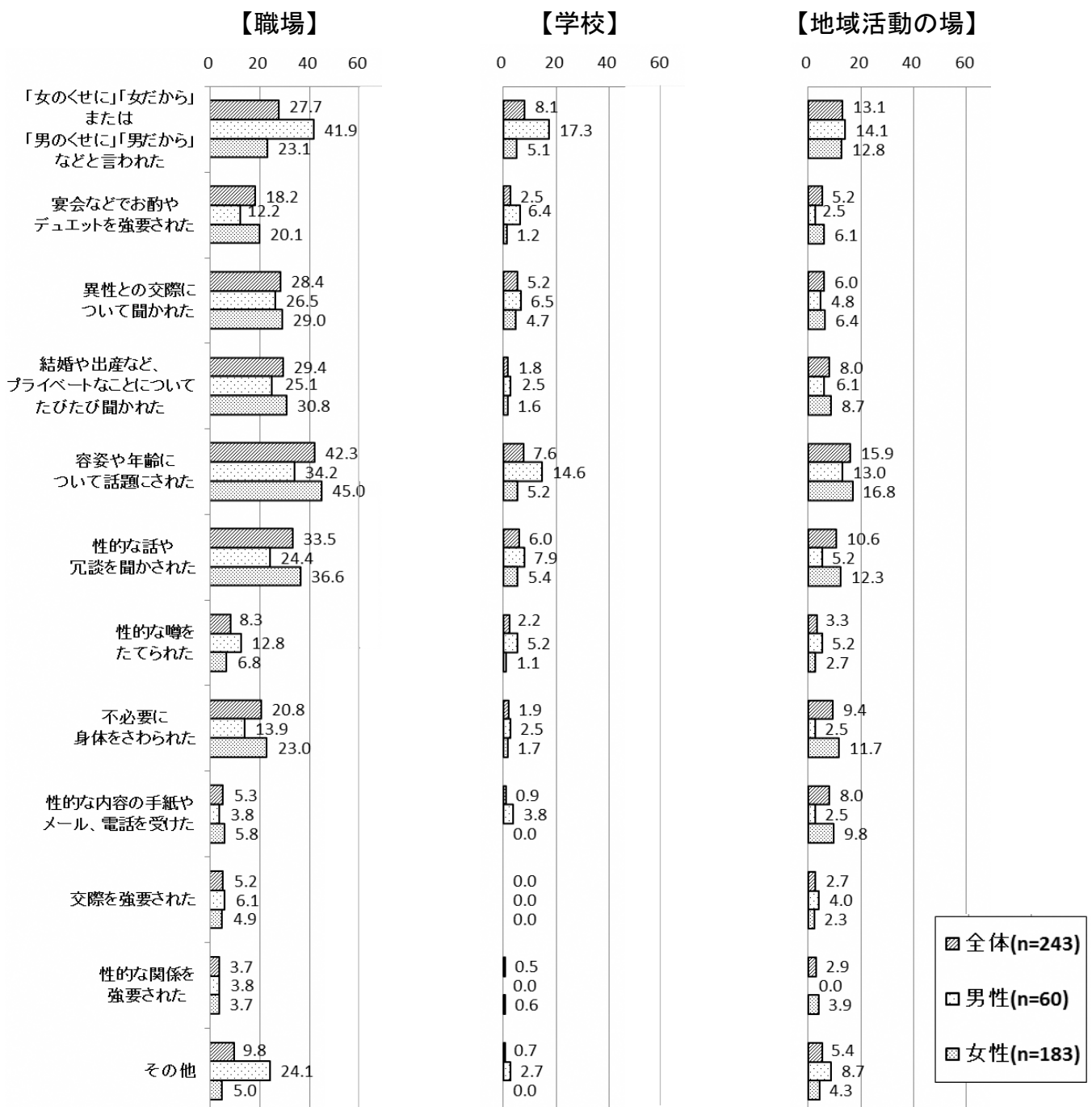
(1) 受けたことがあるセクシュアル・ハラスメントと思う行為 【職場】【学校】【地域活動の場】

この3年の間に、セクシュアル・ハラスメントと思う行為を「受けたことがある」と回答した人(243人)に、どのような行為を受けたのかをたずねた。

全体で見ると、【職場】では「容姿や年齢について話題にされた」(42.3%)、【学校】では『女のくせに』『女だから』または『男のくせに』『男だから』などと言われた(8.1%)、【地域活動の場】では「容姿や年齢について話題にされた」(15.9%)が最も高くなっている。

性別にみると、男性はどの場面においても『男のくせに』『男だから』などと言われたが最も高く、女性は【職場】及び【地域活動の場】では「容姿や年齢について話題にされた」が、【学校】では「性的な話や冗談を聞かされた」が最も高い。

図表4-1-1 受けたことがあるセクシュアル・ハラスメントと思う行為  
【職場】【学校】【地域活動の場】 - 性別(複数回答)



【参考】 受けたことがあるセクシュアル・ハラスメントと思う行為

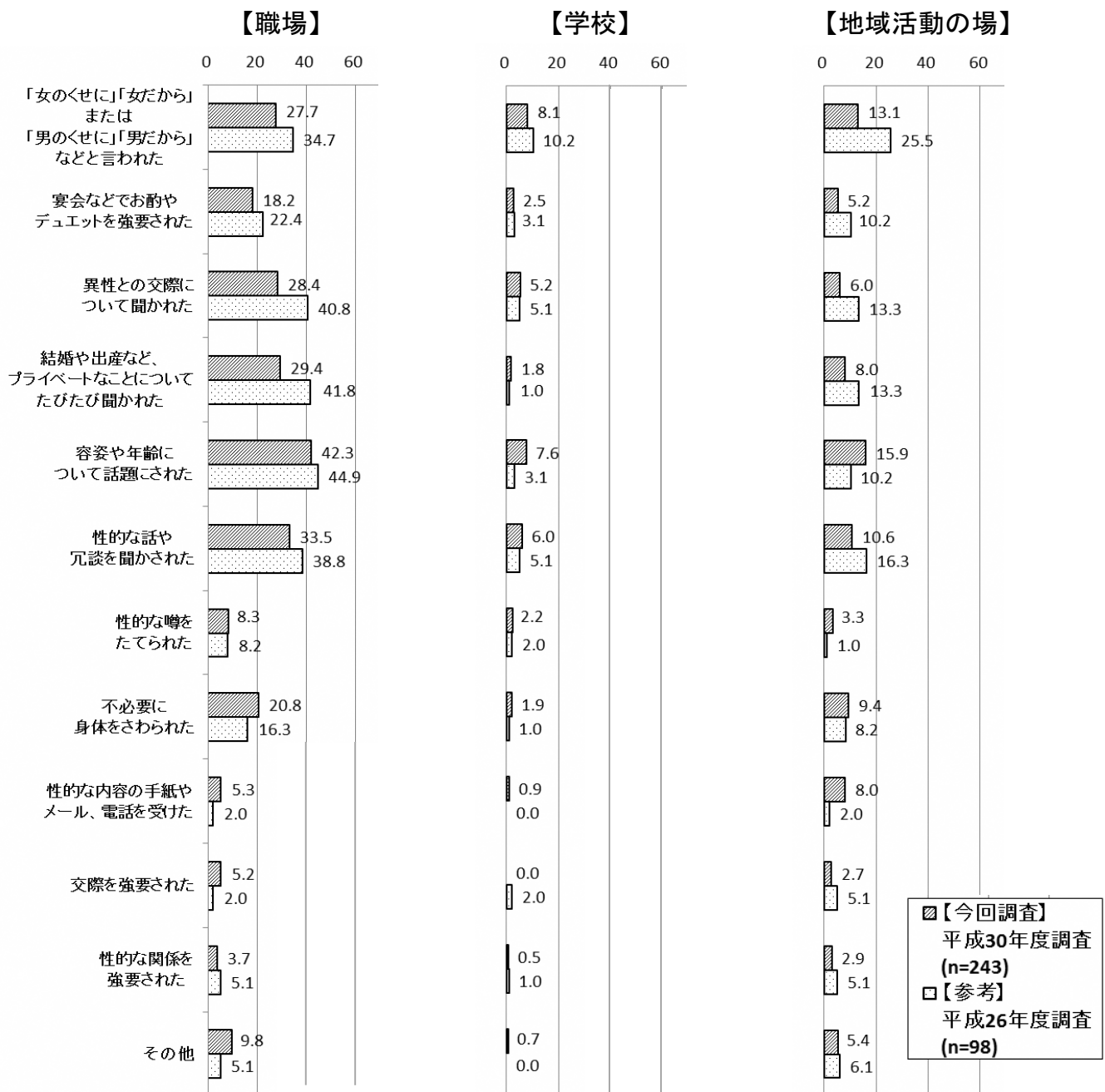
【職場】【学校】【地域活動の場】〔経年比較〕

参考として、経年比較をみる。「職場」については「異性との交際について聞かれた」と「結婚や出産など、プライベートなことについて」は前回調査より、12.4ポイント下がっている。

「学校」では、「容姿や年齢について話題にされた」が前回調査より、4.5ポイント上がっている。

「地域活動の場」では、『女のくせに』『女だから』または『男のくせに』『男だから』などと言われた」が前回調査より、12.4ポイント下がっている。

図表4-1-1-① 受けたことがあるセクシュアル・ハラスメントと思う行為  
【職場】【学校】【地域活動の場】－ 経年比較（複数回答）



(注) 今回の調査から、集計結果を横浜市の年齢構成比に合わせウエイトバック集計をかけています。平成26年度以前の調査結果は参考値となります。

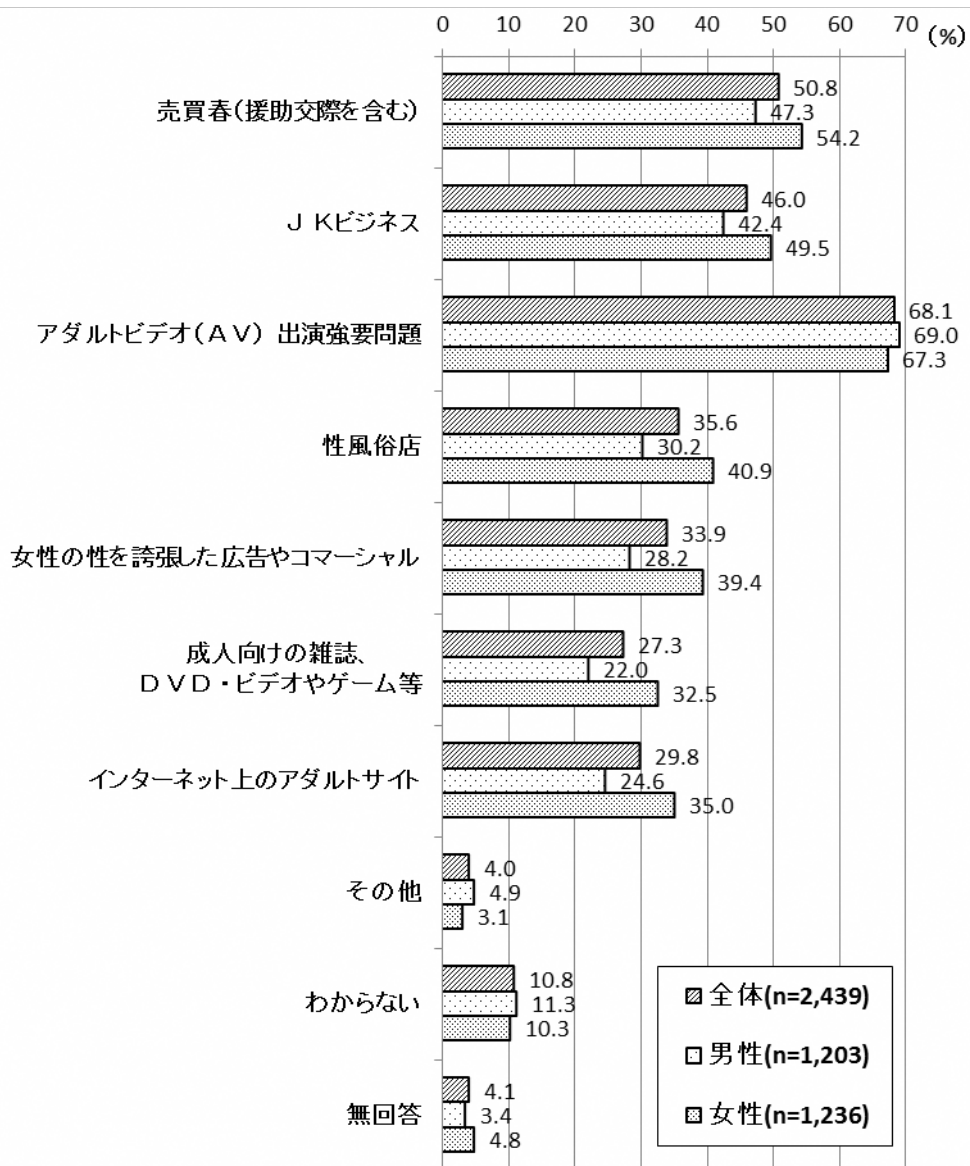
## 2 女性の性が商品として扱われ、女性の人権が侵害されていると思うこと（問 18）

女性の性が商品として扱われ、女性の人権が侵害されていると思うことは、どのようなことかをたずねた。

全体としては、「アダルトビデオ（AV）出演強要問題」（68.1%）の割合が最も高く、次いで「売買春（援助交際を含む）」（50.8%）、「JKビジネス」（46.0%）となっている。

性別にみても、男女とも上記3項目の割合が高くなっている。

図表 4-2 女性の性が商品として扱われ、女性の人権が侵害されていると思うこと（複数回答）





## 第5章 DV(配偶者等からの暴力)について

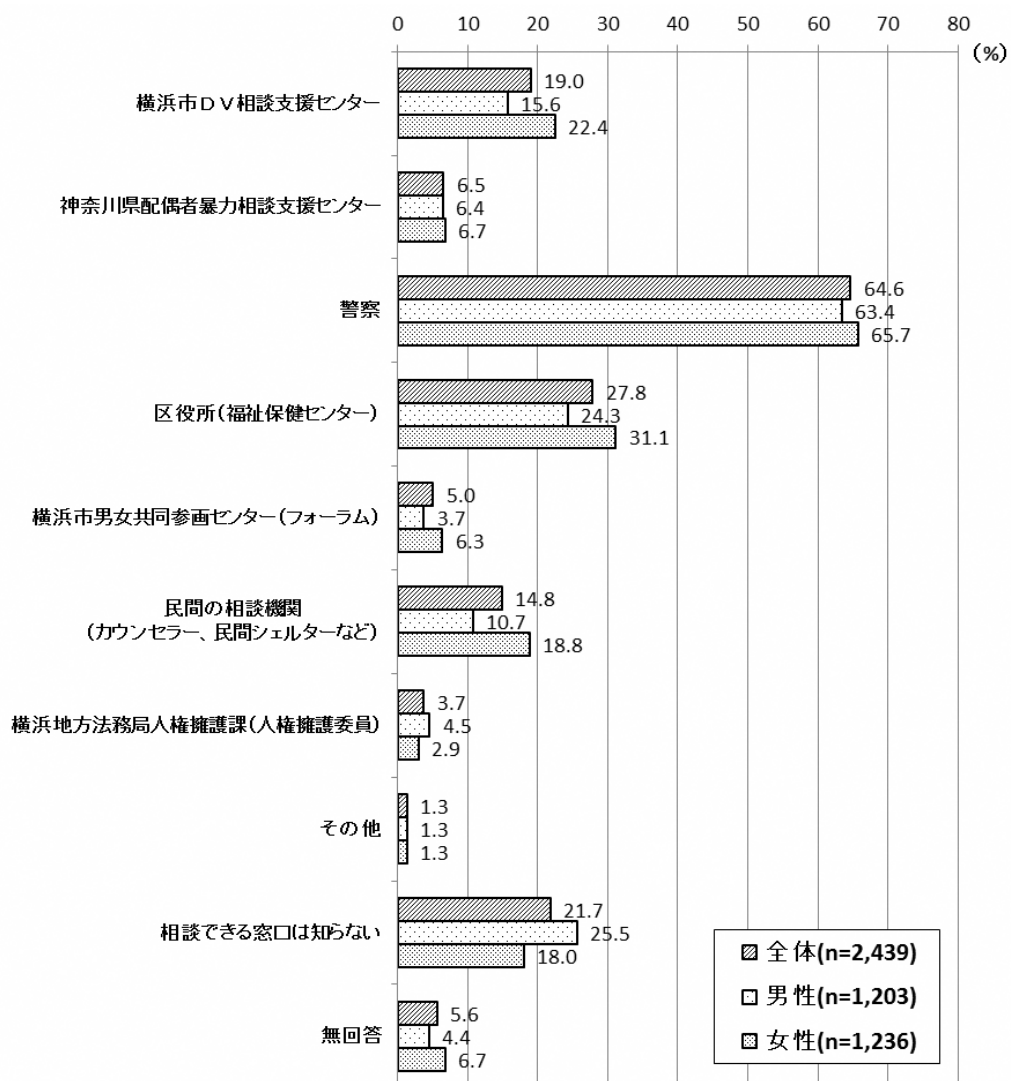
### 1 配偶者やパートナーからの暴力についての相談窓口の認知度(問19)

配偶者やパートナーからの暴力についての相談できる窓口を知っているかをたずねた。

知っている窓口として最も多かったのは「警察」で、全体の64.6%、次いで「区役所(福祉保健センター)」(27.8%)、「横浜市DV相談支援センター」(19.0%)の順となっている。また、約2割(21.7%)の人が「相談できる窓口は知らない」と回答している。

性別にみると、「横浜市DV相談支援センター」(男性15.6%、女性22.4%)や「区役所(福祉保健センター)」(男性24.3%、女性31.1%)、「民間の相談機関(カウンセラー、民間シェルターなど)」(男性10.7%、女性18.8%)では男女の差がみられる。

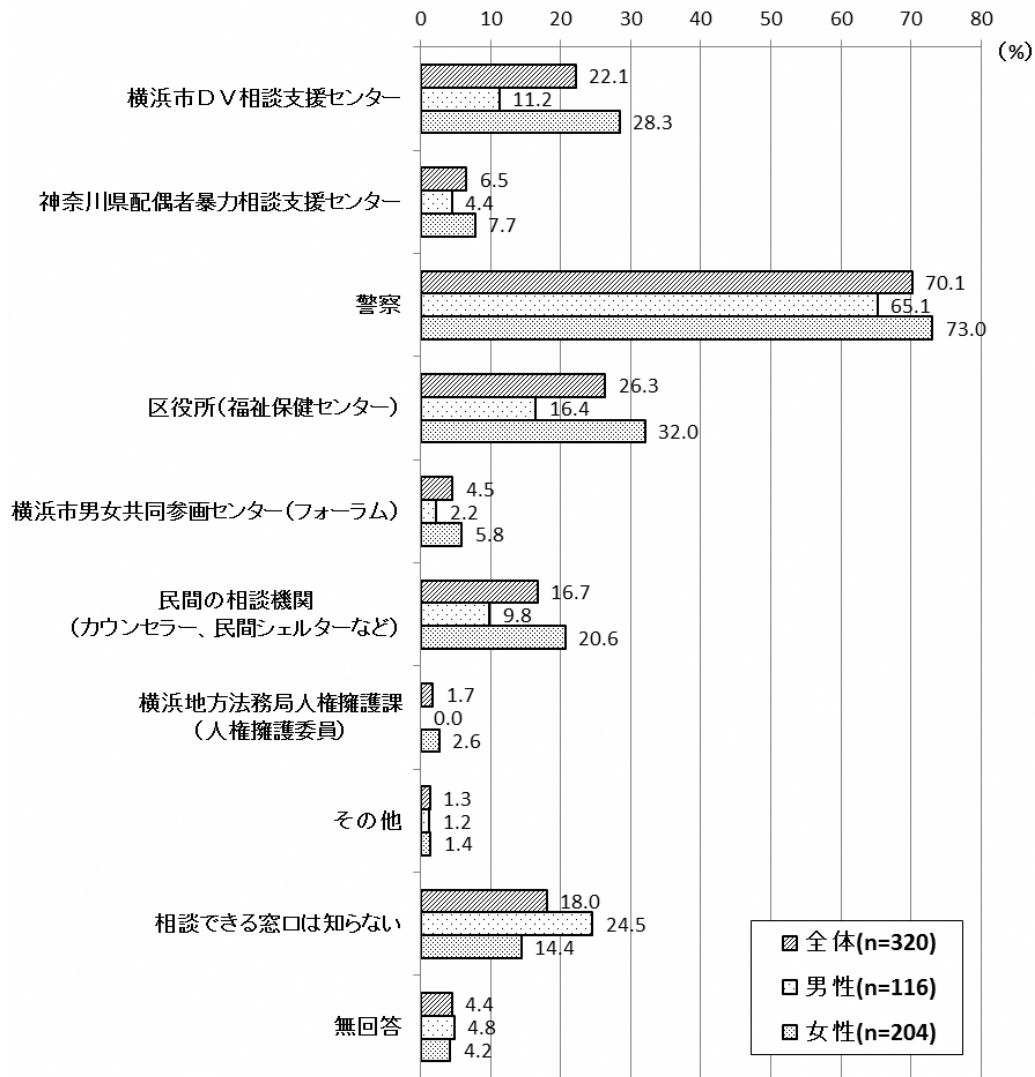
図表5-1 配偶者やパートナーからの暴力についての相談窓口の認知度(複数回答)



(1) 配偶者やパートナーからの暴力についての相談窓口の認知度と暴力にあたる行為を受けた経験について

問 20 ②で、何らかの暴力にあたる行為を受けた人（320 人）について、相談窓口の認知度をみると、すべての項目で女性より男性の方が認知度が低く、「相談できる窓口は知らない」割合も高くなっている。

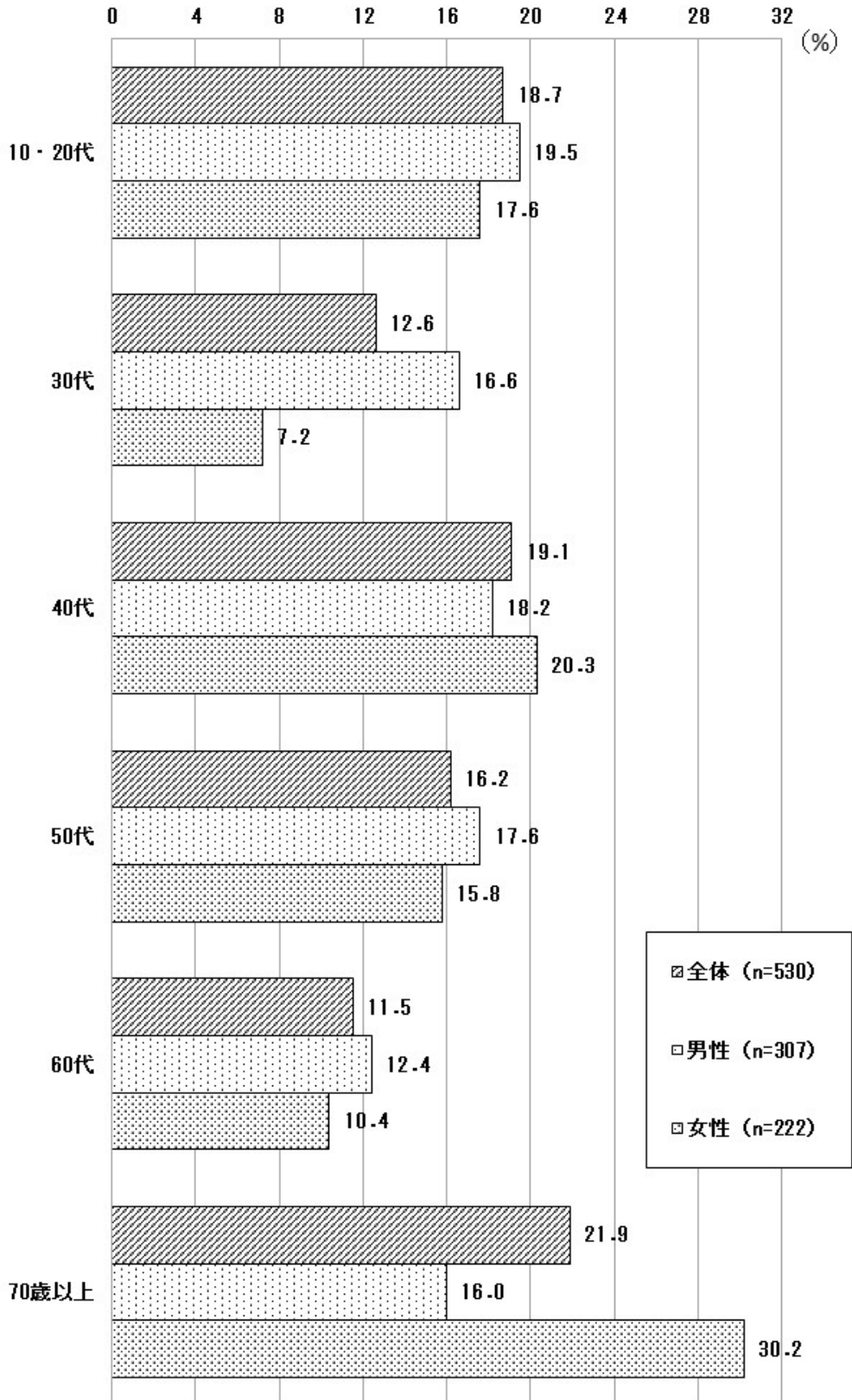
図表 5-1-1-① 配偶者やパートナーからの暴力についての相談窓口の認知度と暴力にあたる行為を受けた経験について  
(複数回答、DV被害1つでも「何度もあった」人)



(2) 配偶者やパートナーからの暴力についての相談窓口を知らない人 - 性・年代

相談窓口を知らない人を、性・年代別にみると、60代までの年代では全て男性が女性を上回っている。70歳以上のみ女性が男性を上回った。

図表5-1-② 配偶者やパートナーからの暴力についての相談窓口を知らない人 - 性・年代別



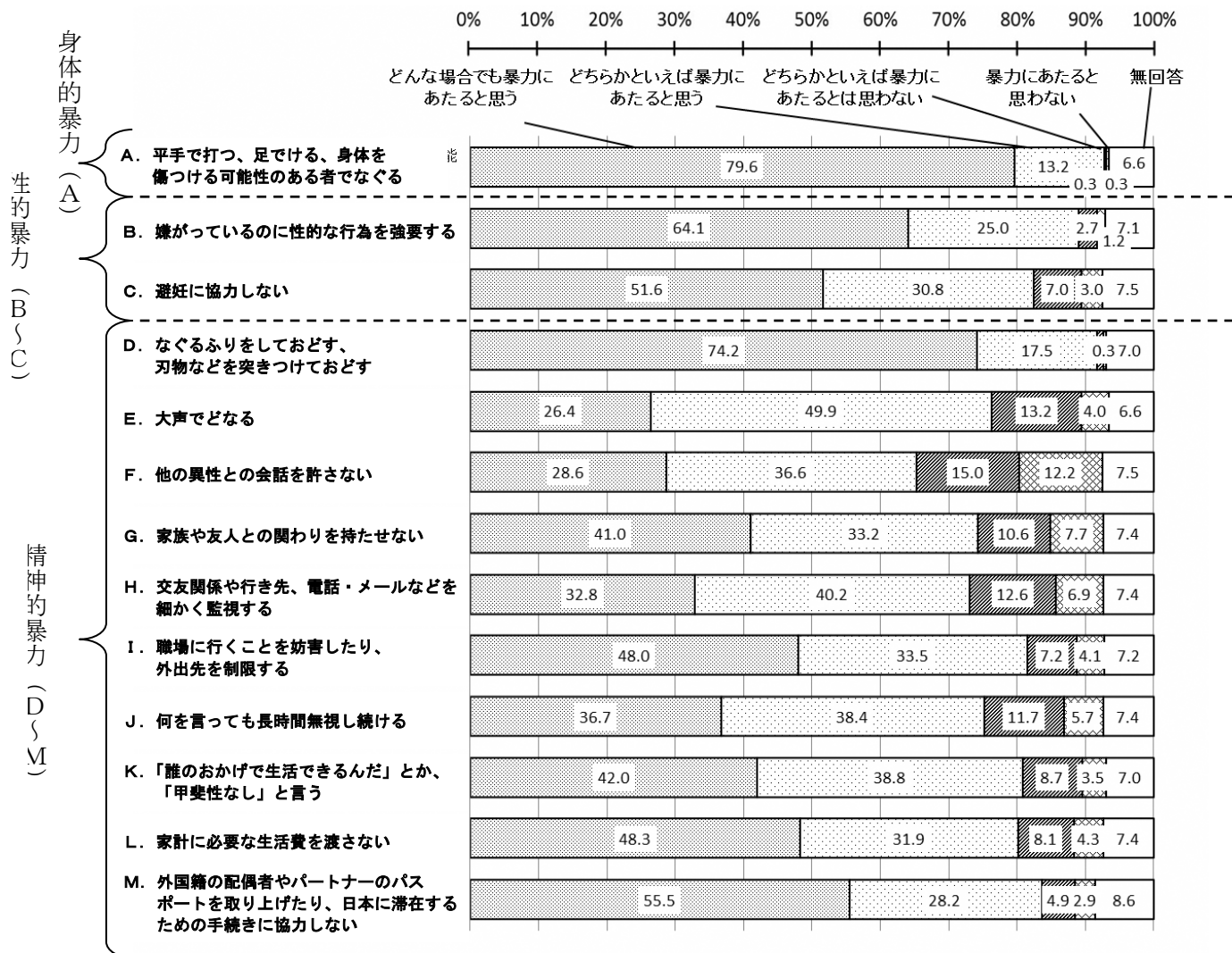
## 2 配偶者やパートナーの間での暴力と思われる行為（問 20 ①）

配偶者やパートナーの間で行われるそれぞれの行為が、暴力にあたると思うかをたずねた。

「どんな場合でも暴力にあたると思う」行為は、「平手で打つ、足でける、身体を傷つける可能性のある物でなぐる」（79.6%）で8割近く、「なぐるふりをしておどす、刃物などを突きつけておどす」（74.2%）で7割台半ばになっている。

全体的には、精神的暴力において、身体的・性的暴力に比べ暴力であるとの認識が低いものもみられ、特に、「大声でどなる」（26.4%）、「他の異性との会話を許さない」（28.6%）、「交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する」（32.8%）及び「何を言っても長期間無視し続ける」（36.7%）などは、暴力と認識される割合が低い。性的行為の強制や避妊に非協力などの性的暴力も、「どんな場合でも暴力にあたると思う」割合は7割には達しておらず、身体的暴力ほど高くない。

図表 5-2 配偶者やパートナーの間での暴力と思われる行為

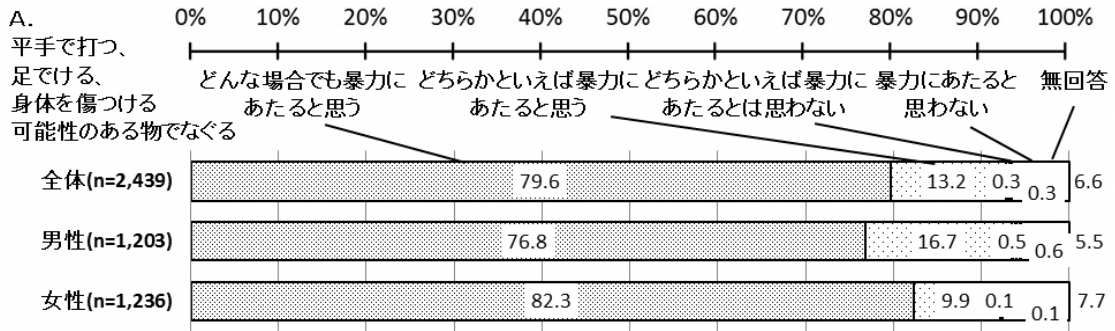


(1) 配偶者やパートナーの間での暴力と思われる行為（身体的暴力）

身体的暴力についてみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」割合が、8割近くとなっている。

性別にみると、男性、女性ともに同様の認識であるが、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合は女性の方が若干高くなっている。

図表5-2-1 配偶者やパートナーの間での暴力と思われる行為（身体的暴力）

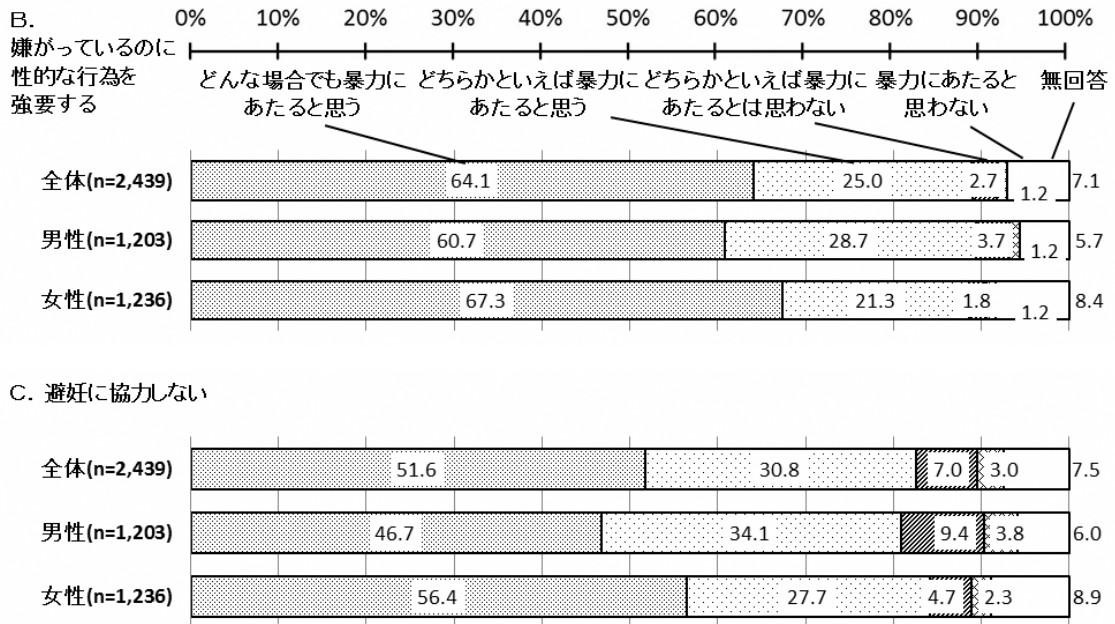


(2) 配偶者やパートナーの間での暴力と思われる行為（性的暴力）

性的暴力についてみると、全体では「嫌がっているのに性的な行為を強要する」（64.1%）、「避妊に協力しない」（51.6%）のどちらも、「どんな場合でも暴力にあたると思う」割合が半数以上となっている。

性別にみると、双方で「どんな場合でも暴力にあたると思う」割合の男女差が大きく、男性の方がこれらの行為が暴力であるという認識が低い。

図表5-2-2 配偶者やパートナーの間での暴力と思われる行為（性的暴力）

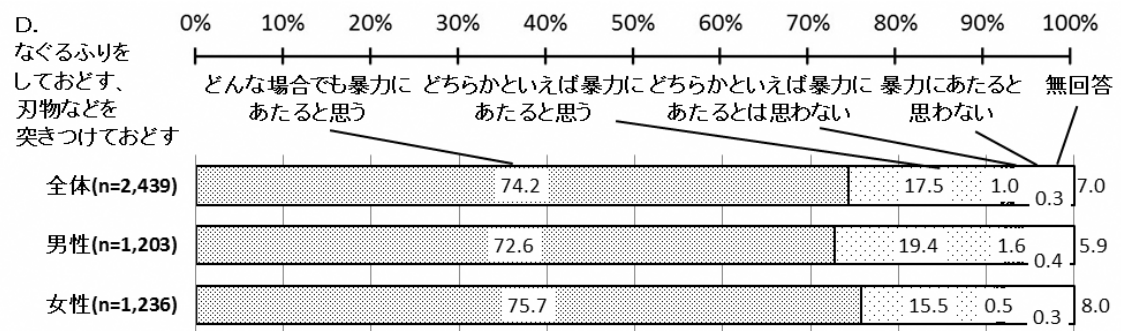


(3) 配偶者やパートナーの間での暴力と思われる行為（精神的暴力）

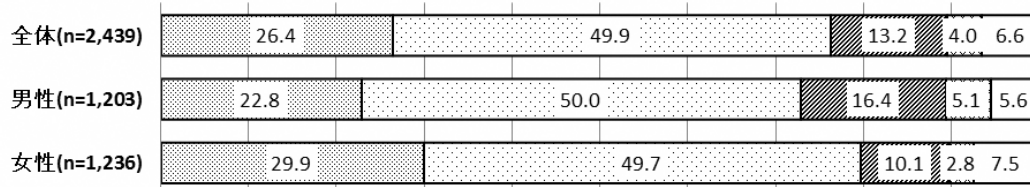
精神的暴力についてみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」割合は全体では「なぐるふりをしておどす、刃物などを突きつけておどす」（74.2%）が最も高くなっている。

性別にみると、いずれの行為についても、女性の方が男性よりも「どんな場合でも暴力にあたると思う」という認識が高く、特に「家族や友人との関わりを持たせない」（男性 35.1%、女性 46.8%）、「『誰のおかげで生活できるんだ』とか、『甲斐性なし』と言う」（男性 36.3%、女性 47.5%）、「家計に必要な生活費を渡さない」（男性 42.2%、女性 54.2%）などの項目で男女の認識の差が 10 ポイント以上と大きくなっている。

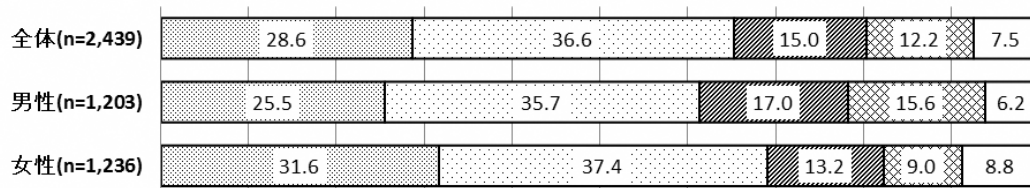
図表 5-2-3-① 配偶者やパートナーの間での暴力と思われる行為（精神的暴力）（1/2）



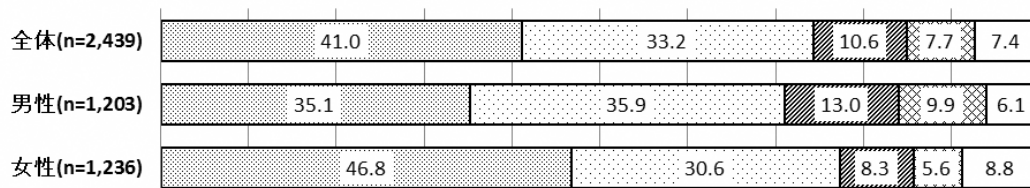
E. 大声でどなる



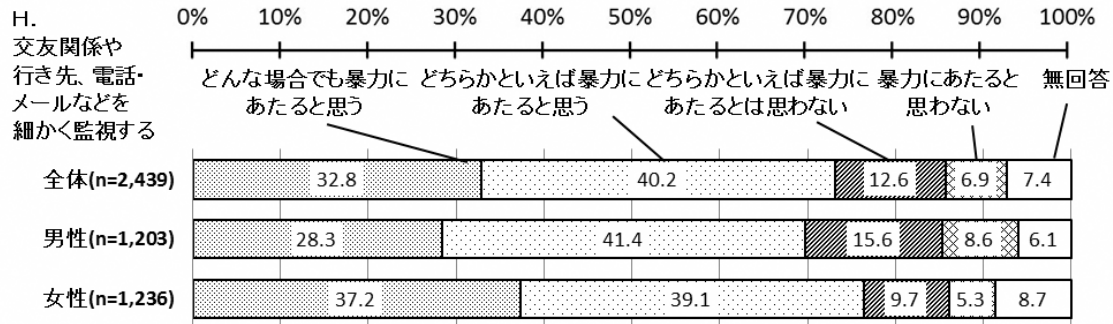
F. 他の異性との会話を許さない



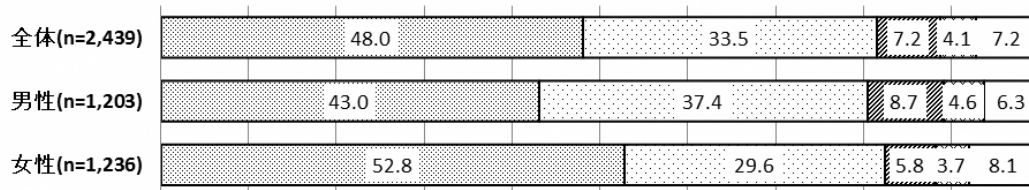
G. 家族や友人との関わりを持たせない



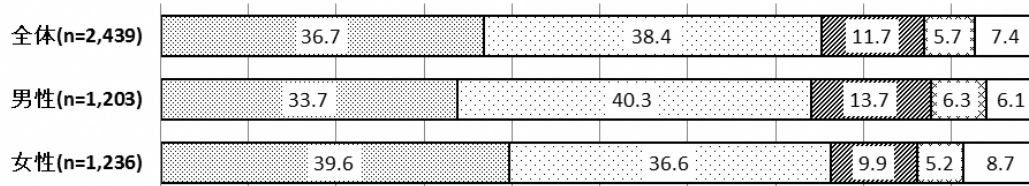
図表 5-2-3-② 配偶者やパートナーの間での暴力と思われる行為  
(精神的暴力) (2/2)



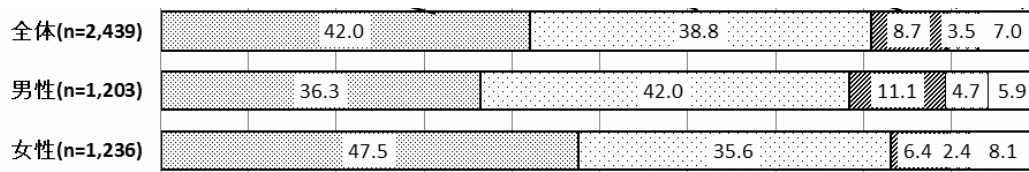
I. 職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する



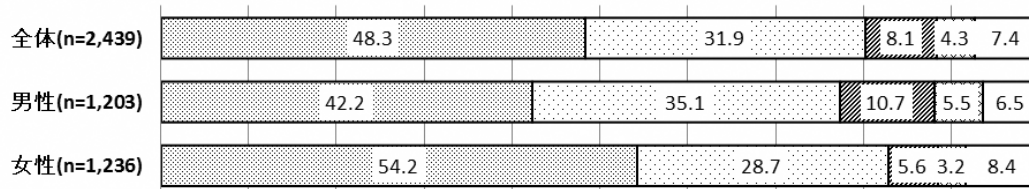
J. 何を言っても長期間無視し続ける



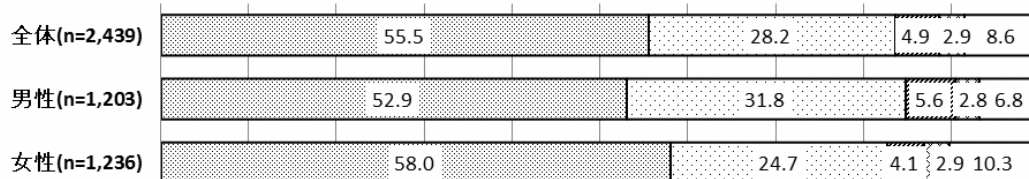
K. 「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「甲斐性なし」と言う



L. 家計に必要な生活費を渡さない



M. 外国籍の配偶者やパートナーのパスポートを取り上げたり、日本に滞在するための手続きに協力しない





### 3 配偶者やパートナーから暴力にあたる行為を受けた経験（問20 ②）

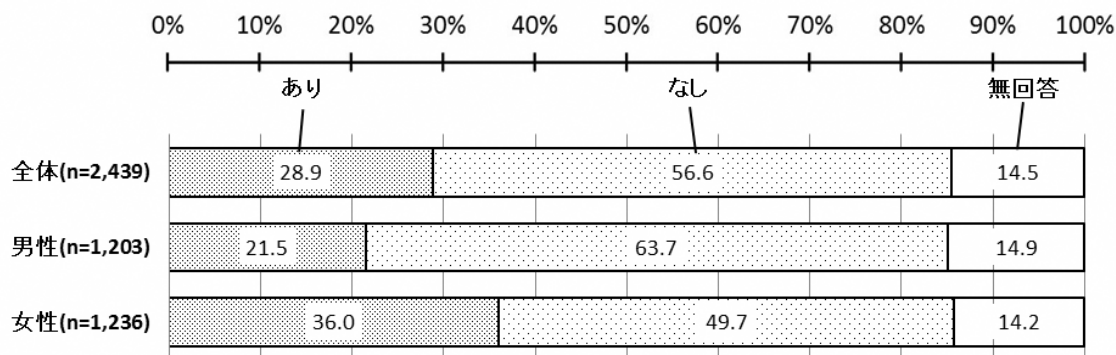
何らかの暴力を受けたことがある（全体、男女別）

身体的暴力、精神的暴力、性的暴力に関わらず、何らかの暴力を受けたことがある割合

配偶者やパートナーから暴力にあたる行為を受けたと答えた人（「1，2度あった」と「何度もあった」の合計）は、全体で28.9%であった。

性別にみると、男性21.5%に対し、女性は36.0%で、女性の方が暴力にあたる行為を受けた経験の割合が高くなっている。

図表5-3 配偶者やパートナーから暴力にあたる行為を受けた経験

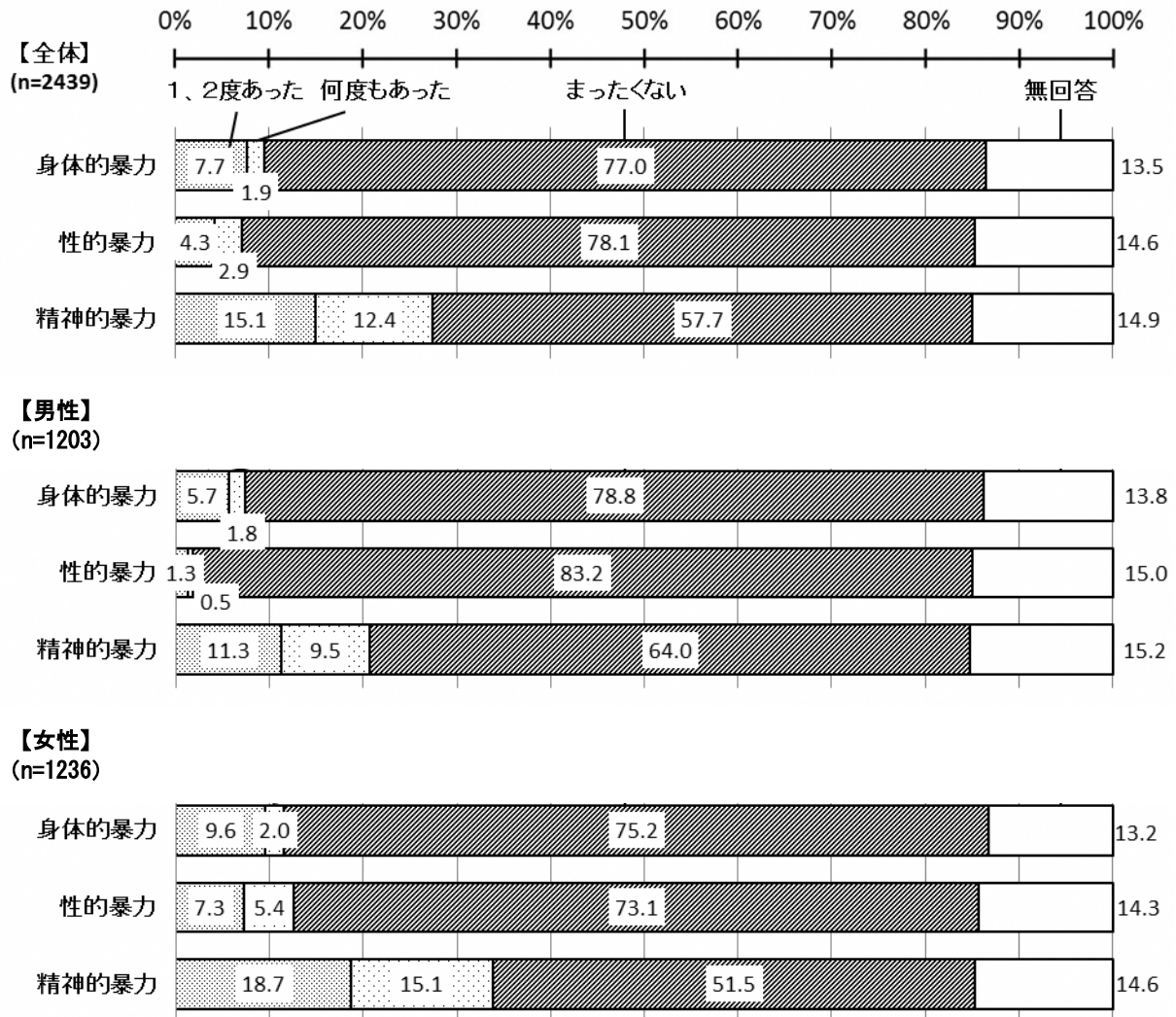


(1) 身体的暴力、精神的暴力、性的暴力の類型別経験

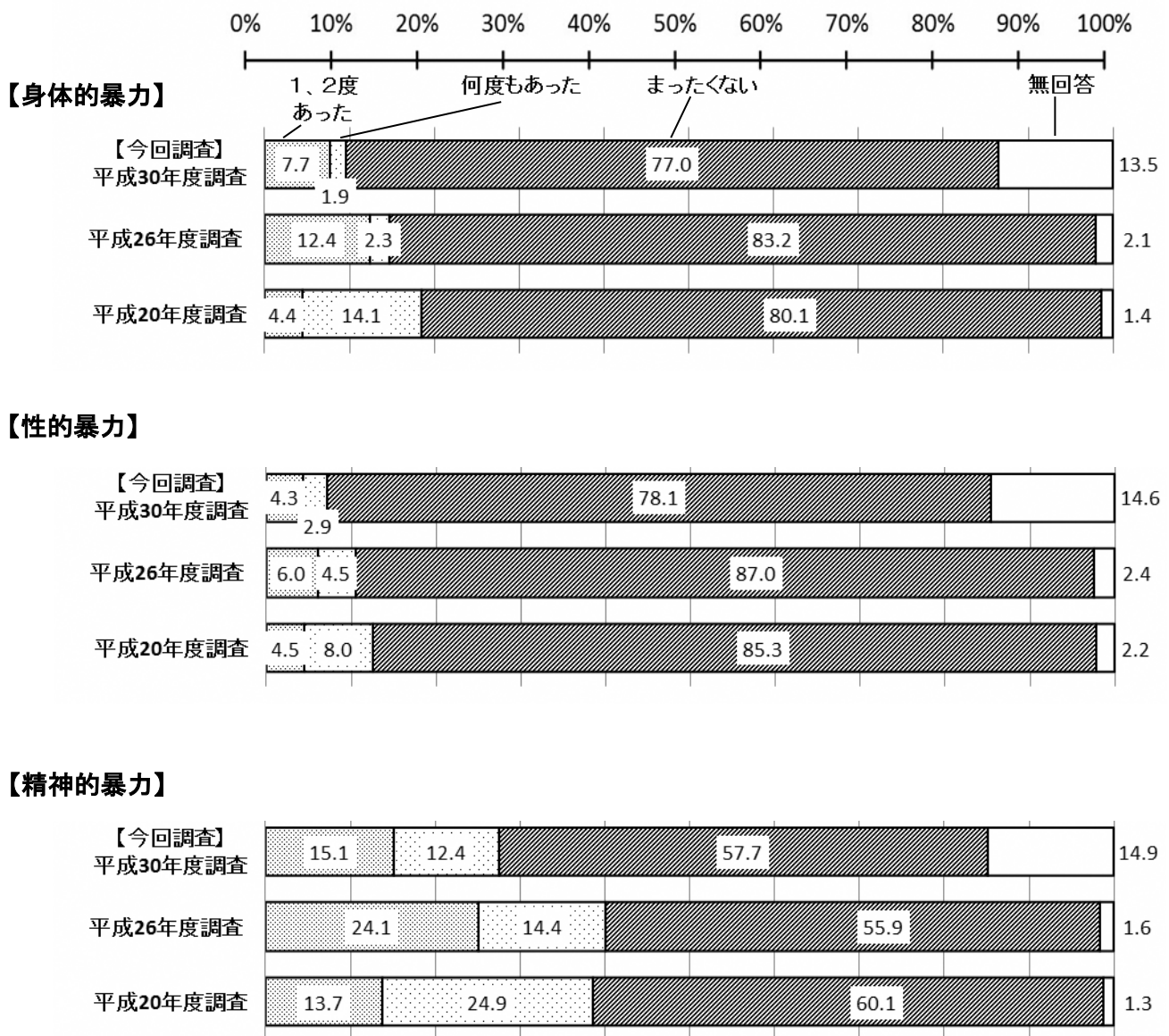
配偶者やパートナーから暴力にあたる行為を受けたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）は、身体的暴力では9.6%、性的暴力では7.2%、精神的暴力では27.5%あった。精神的暴力にあたる行為を受けた人は3割近くあり、多い。

性別にみると、いずれの暴力についても、女性の方が男性よりも暴力にあたる行為を受けた率が高くなっている。特に、精神的暴力では男女差が大きい。

図表5-3-① 配偶者やパートナーから暴力にあたる行為を受けた経験 - 性・類型別



図表5-3-② 配偶者やパートナーから暴力にあたる行為を受けた経験 - 経年比較

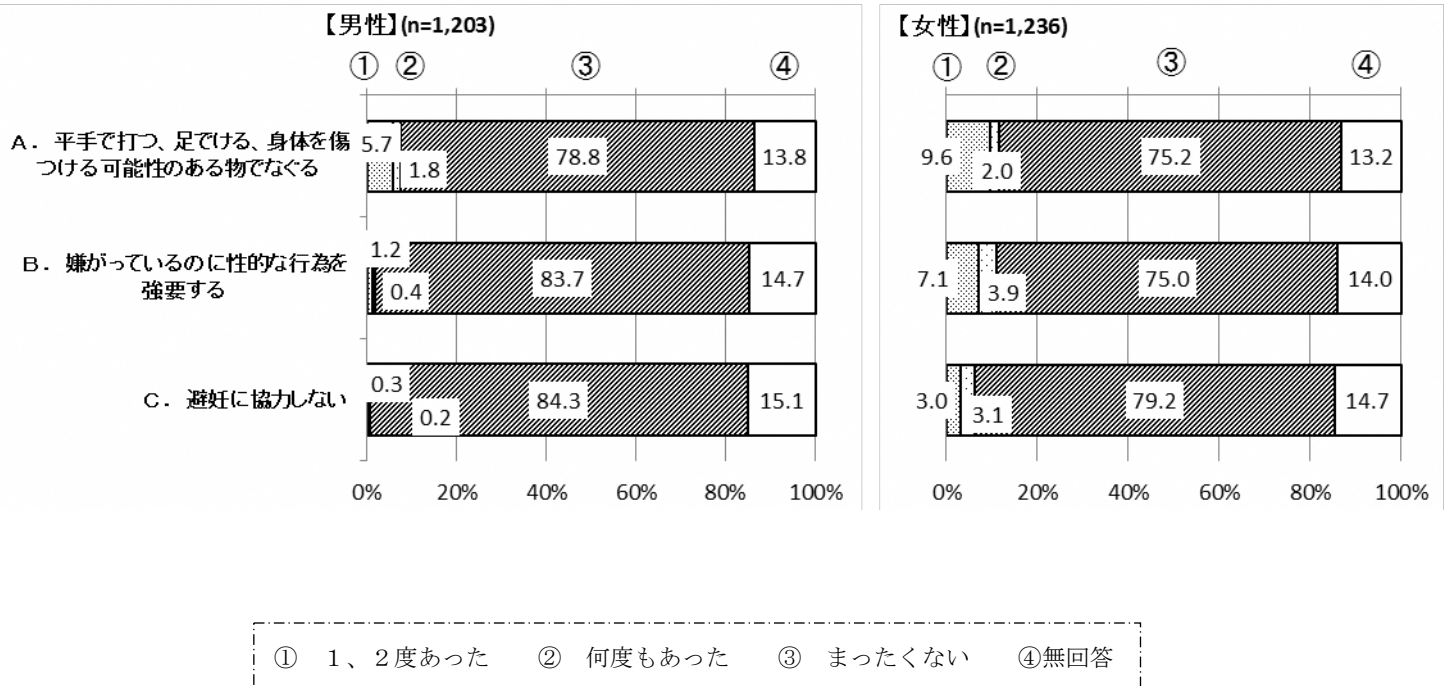


(2) 配偶者やパートナーから暴力にあたる行為を受けた経験 - 性・行為別 (問 20 ②)

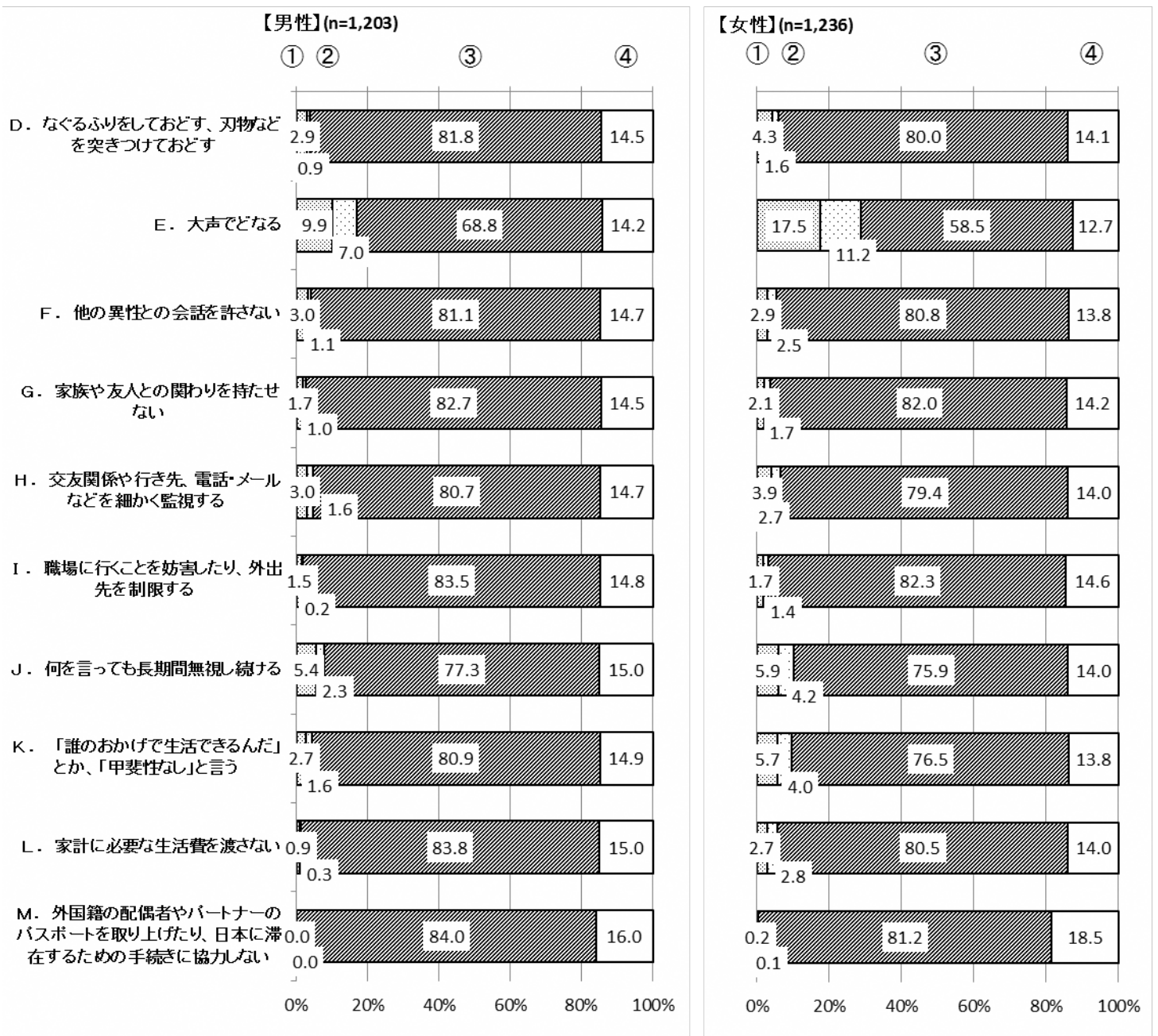
性別にみると、暴力にあたる行為を受けたと答えた人(「1、2度あった」と「何度もあった」の合計)の割合は、全ての項目で男性よりも女性の方が高くなっている。

特に男女差が大きいのは、「嫌がっているのに性的な行為を強要する」(「1、2度あった」と「何度もあった」の合計が、男性 1.6%、女性 11.0%)、「大声でどなる」(「1、2度あった」と「何度もあった」の合計が、男性 16.9%、女性 28.7%) である。

図表 5-3-③ 配偶者やパートナーから暴力にあたる行為を受けた経験 - 性・類型別 (1/2)



図表5-3-④ 配偶者やパートナーから暴力にあたる行為を受けた経験 性・類型別 (2/2)



① 1、2度あった ② 何度もあった ③ まったくない ④ 無回答

(3) 配偶者やパートナーからの暴力にあたる行為を受けた経験 — 性・年代別

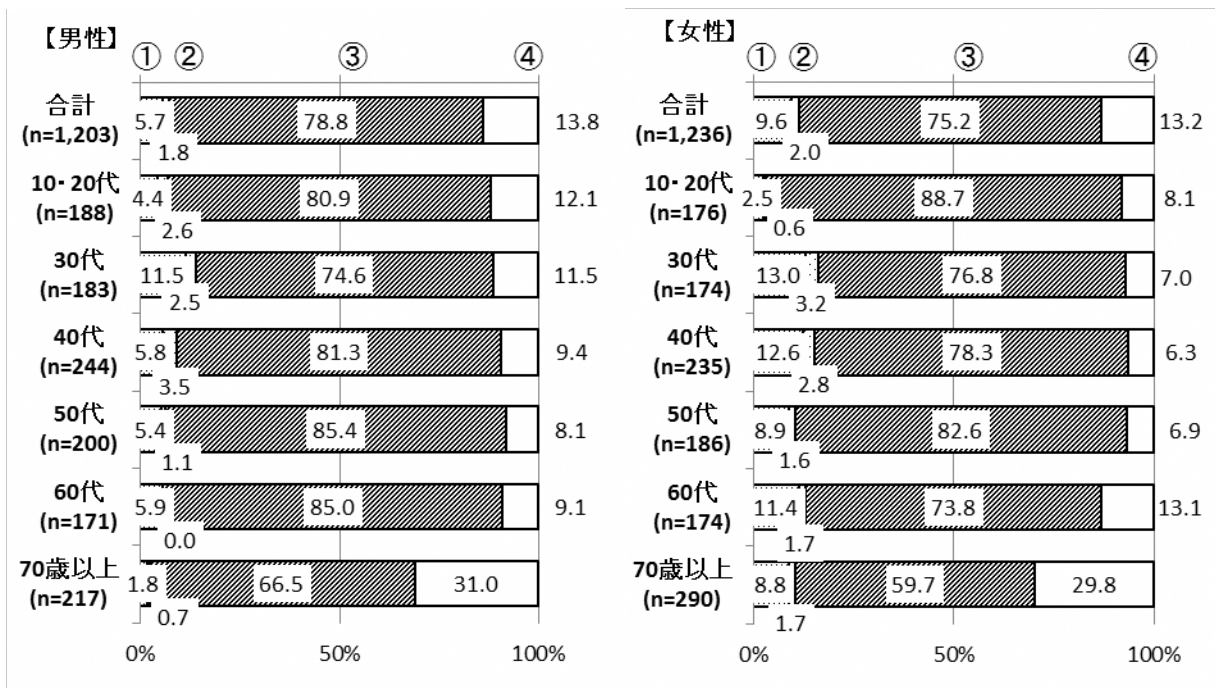
A～Mの行為それぞれについて、その行為を受けた経験を性・年代別にみてる。

A 「平手で打つ、足でける、身体を傷つける可能性のある物でなぐる」

性別にみると、「平手で打つ、足でける、身体を傷つける可能性のある物でなぐる」行為を受けたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）の割合は、女性11.6%に対して男性は7.5%と、女性の方が高くなっている。

性・年代別にみると、30代の女性で、行為を受けたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）が16.2%と全体の中で最も高い。

図表5-3-2-1 配偶者やパートナーからの暴力にあたる行為を受けた経験  
A 「平手で打つ、足でける、身体を傷つける可能性のある物でなぐる」  
(身体的暴力) — 性・年代別 (1/13)



① 1、2度あった ② 何度もあった ③ まったくない ④ 無回答

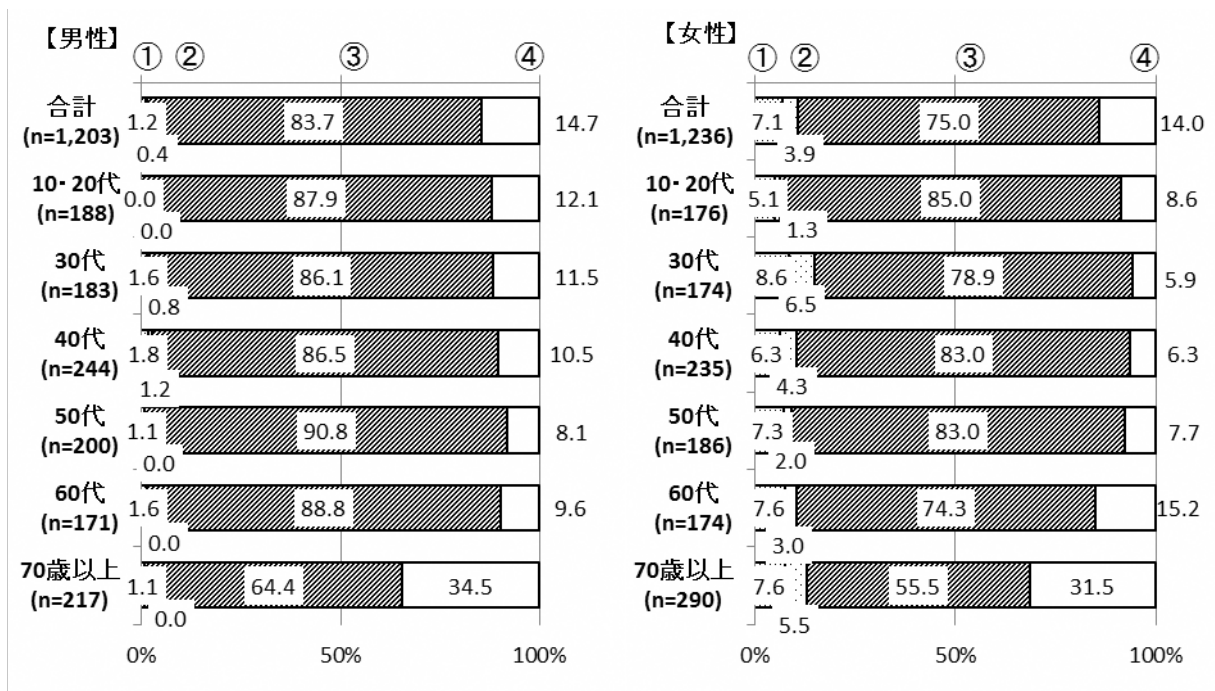
## B「嫌がっているのに性的な行為を強要する」

性別にみると、「嫌がっているのに性的な行為を強要する」行為を受けたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）の割合は、女性 11.0%に対し男性は 1.6%で、女性の方が高くなっている。

性・年代別にみると、30代女性で、行為を受けたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）が 15.1%と全体の中で最も高い。

図表5-3-2-2 配偶者やパートナーからの暴力にあたる行為を受けた経験

B「嫌がっているのに性的な行為を強要する」（性的暴力）－ 性・年代別（2/13）



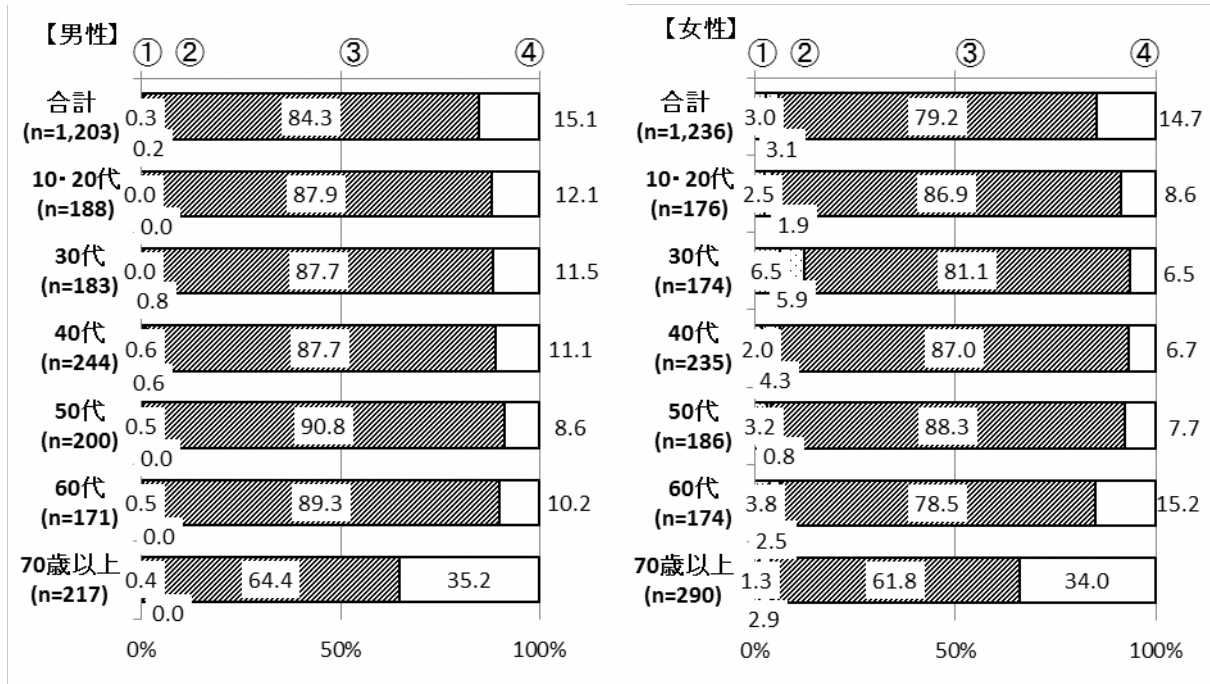
① 1、2度あった ② 何度もあった ③ まったくない ④ 無回答

### C 「避妊に協力しない」

性別にみると、「避妊に協力しない」行為を受けたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）の割合は、女性6.1%に対し男性は0.5%となっている。

性・年代別にみると、30代女性で、行為を受けたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）が12.4%と全体の中で最も高い。

図表5-3-2-3 配偶者やパートナーからの暴力にあたる行為を受けた経験  
C 「避妊に協力しない」（性的暴力）－ 性・年代別（3/13）



① 1、2度あった    ② 何度もあった    ③ まったくない    ④ 無回答

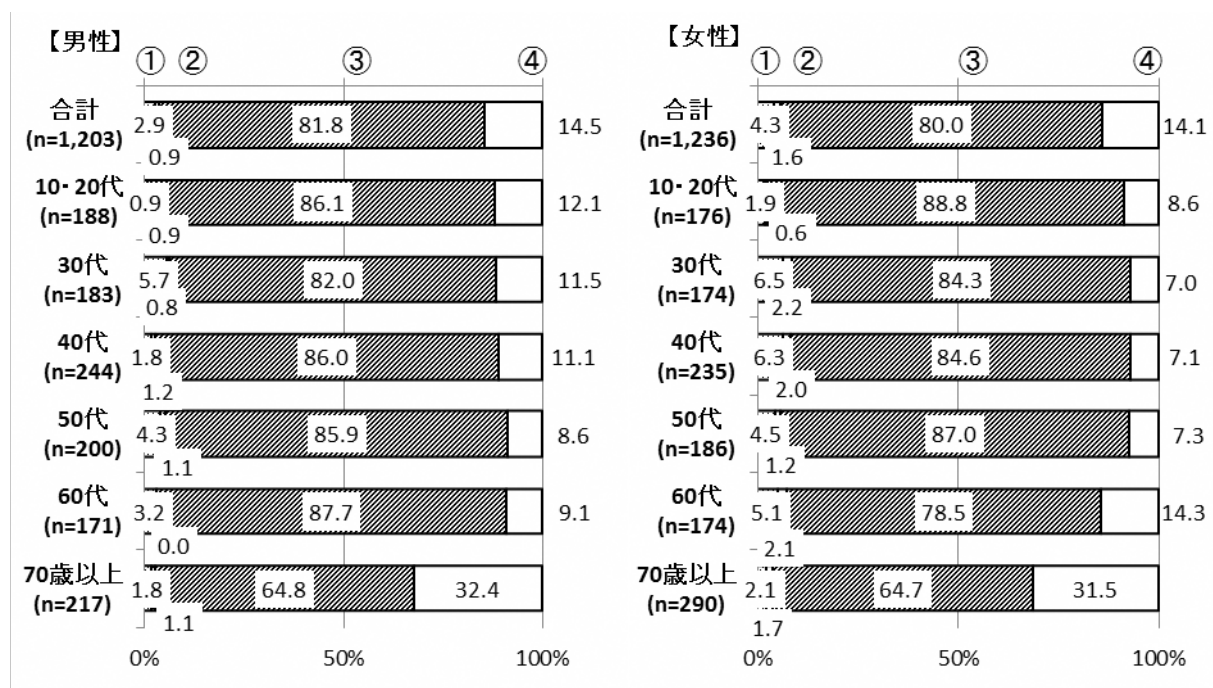


### D 「なぐるふりをしておどす、刃物などを突きつけておどす」

性別にみると、「なぐるふりをしておどす、刃物などを突きつけておどす」行為を受けたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）の割合は、女性5.9%に対し男性は3.8%で、女性の方が少し高くなっている。

性・年代別にみると、30代の女性で、行為を受けたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）が8.7%と全体の中で最も高い。

図表5-3-2-4 配偶者やパートナーからの暴力にあたる行為を受けた経験  
D 「なぐるふりをしておどす、刃物などを突きつけておどす」  
(精神的暴力) - 性・年代別 (4/13)



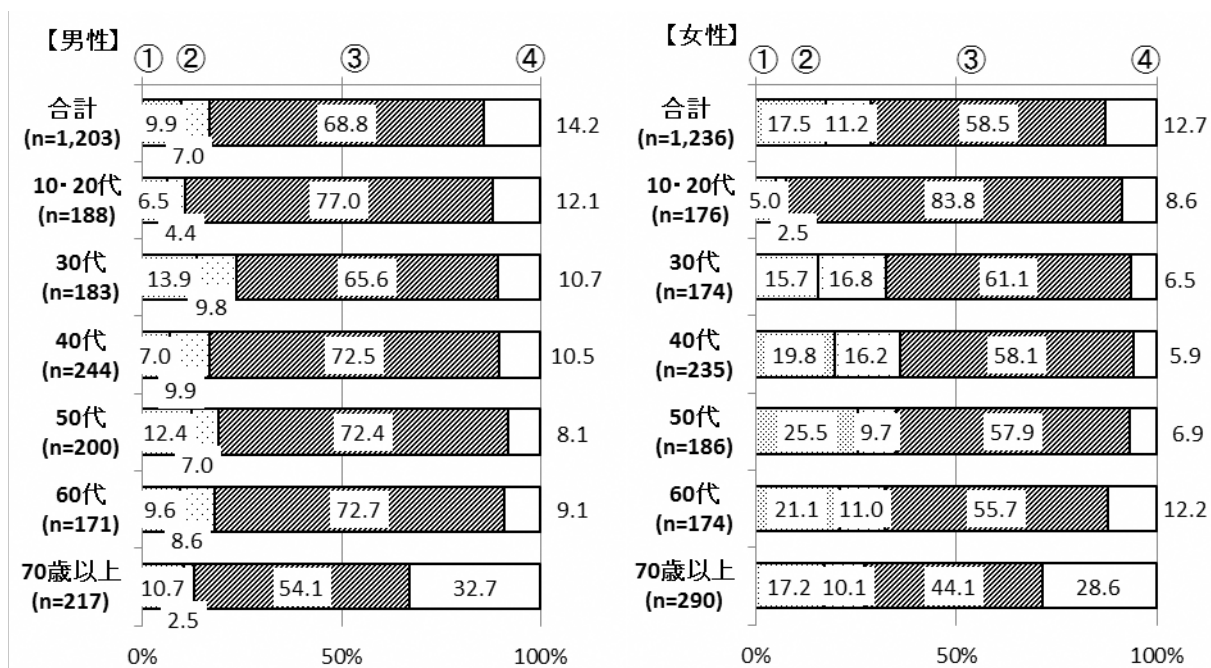
① 1、2度あった ② 何度もあった ③ まったくない ④ 無回答

### E 「大声でどなる」

性別にみると、「大声でどなる」行為を受けたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）の割合は、女性 28.7%に対し男性は 16.9%で、女性の方が高くなっている。

性・年代別にみると、40代の女性で、行為を受けたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）が 36.0%と全体の中で最も高い。

図表5-3-2-5 配偶者やパートナーからの暴力にあたる行為を受けた経験  
E 「大声でどなる」(精神的暴力) - 性・年代別 (5/13)



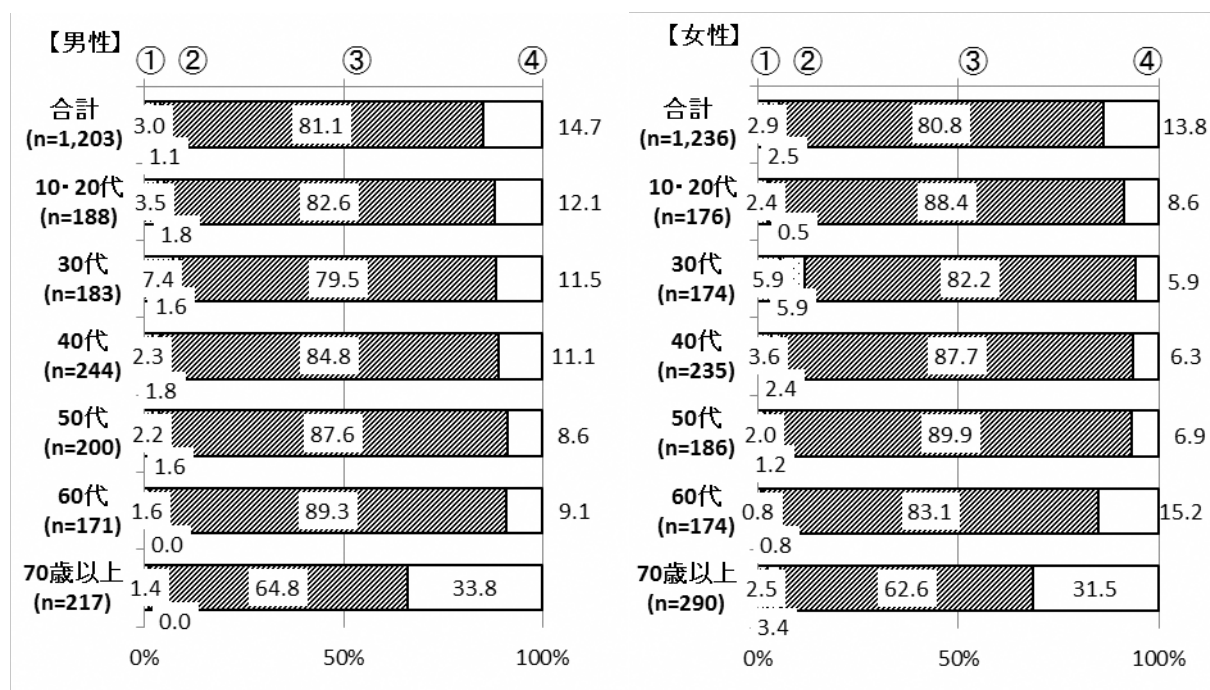
① 1、2度あった ② 何度もあった ③ まったくない ④ 無回答

## F 「他の異性との会話を許さない」

性別にみると、「他の異性との会話を許さない」行為を受けたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）の割合は、女性 5.4%に対し男性は 4.1%で、女性の方が高くなっている。

性・年代別にみると、30代の女性で、行為を受けたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）が 11.8%と全体の中で最も高い。

図表 5-3-2-6 配偶者やパートナーからの暴力にあたる行為を受けた経験  
F 「他の異性との会話を許さない」（精神的暴力）－ 性・年代別（6/13）



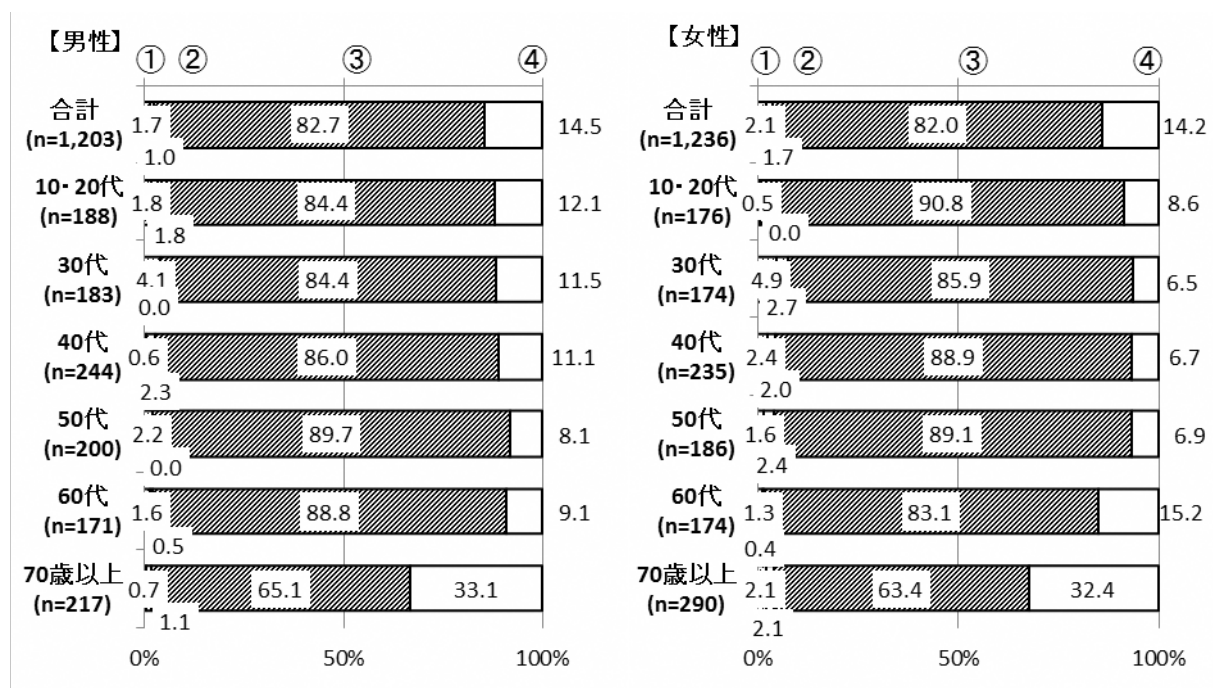
① 1、2度あった ② 何度もあった ③ まったくない ④ 無回答

### G 「家族や友人との関わりを持たせない」

性別にみると、「家族や友人との関わりを持たせない」行為を受けたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）の割合は、女性 3.8%に対し男性は 2.7%で、女性の方が高くなっている。

性・年代別にみると、30代の女性で、行為を受けたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）が 7.6%と全体の中で最も高い。

図表 5-3-2-7 配偶者やパートナーからの暴力にあたる行為を受けた経験  
G 「家族や友人との関わりを持たせない」  
(精神的暴力) - 性・年代別 (7/13)



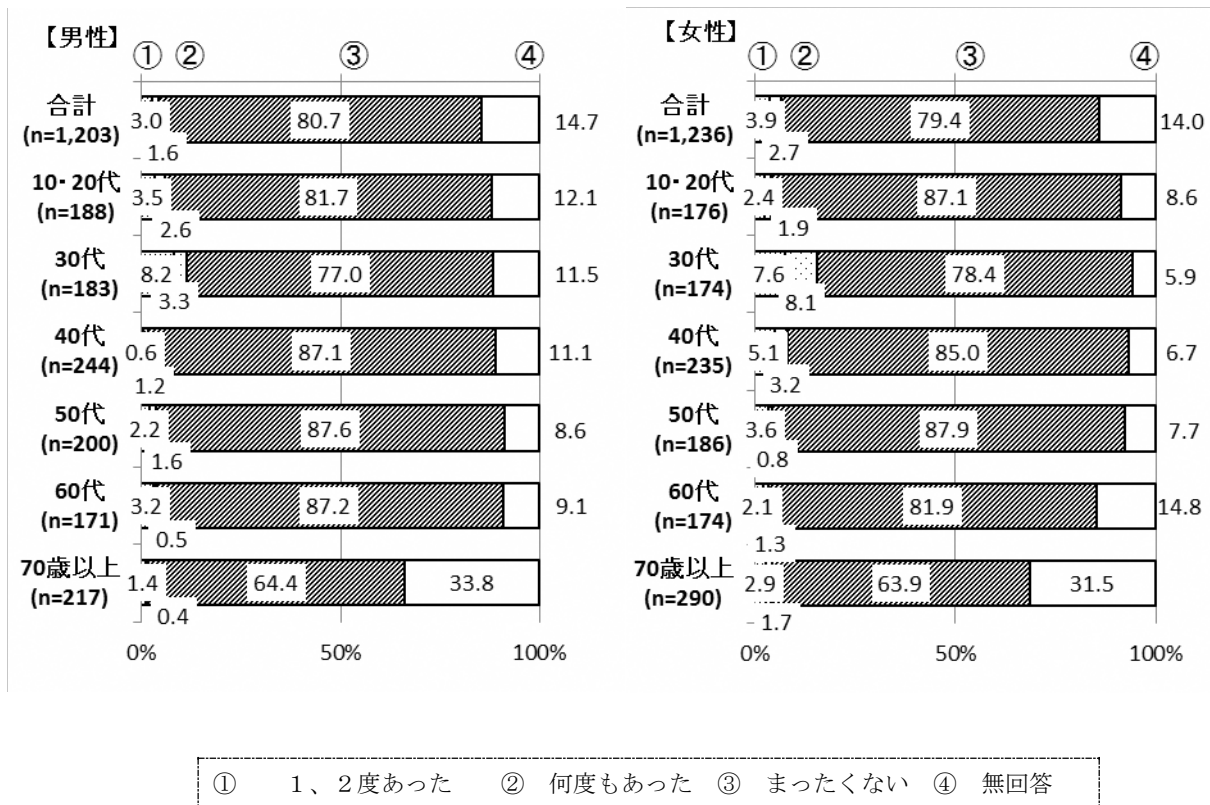
① 1、2度あった ② 何度もあった ③ まったくない ④ 無回答

## H 「交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する」

性別にみると、「交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する」行為を受けたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）の割合は、女性6.6%に対し男性は4.6%で、女性の方が高くなっている。

性・年代別にみると、30代の女性で、行為を受けたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）が15.7%と全体の中で最も高い。

図表5-3-2-8 配偶者やパートナーからの暴力にあたる行為を受けた経験  
F 「交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する」  
(精神的暴力) - 性・年代別 (8/13)



### I 「職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する」

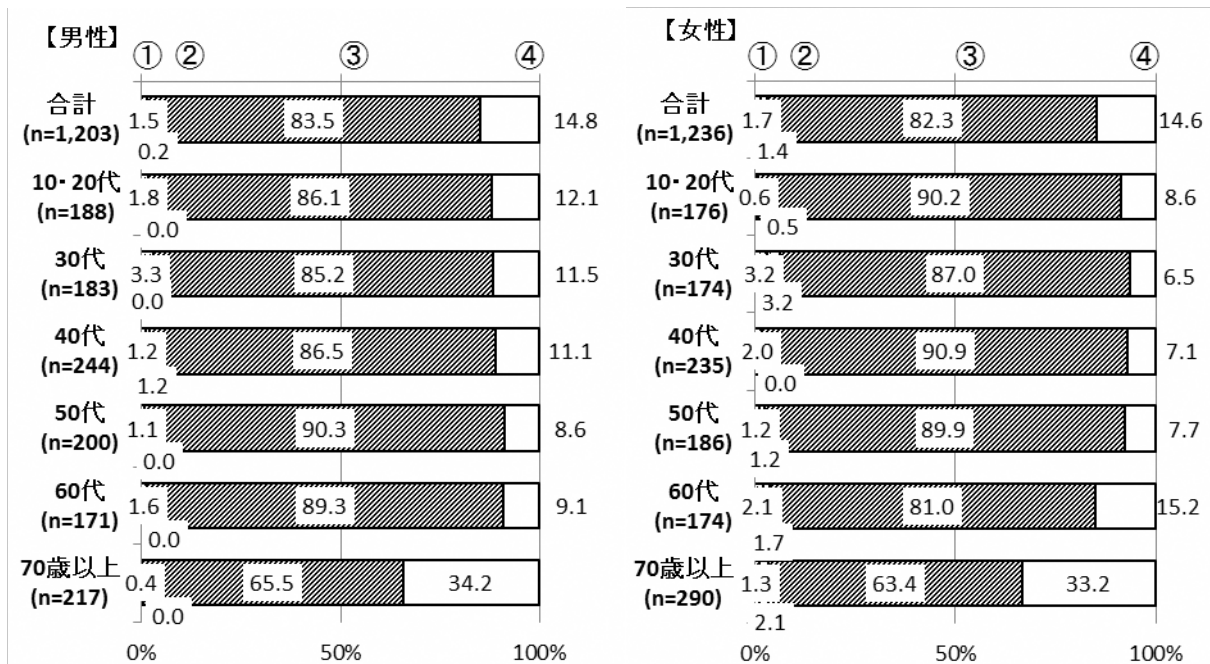
性別にみると、「職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する」行為を受けたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）の割合は、女性 3.1%に対し男性は 1.7%で、女性の方が高くなっている。

性・年代別にみると、30代の女性で、行為を受けたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）が 6.4%と全体の中で最も高い。

図表 5-3-2-9 配偶者やパートナーからの暴力にあたる行為を受けた経験

#### I 「職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する」

（精神的暴力）－ 性・年代別（9/13）



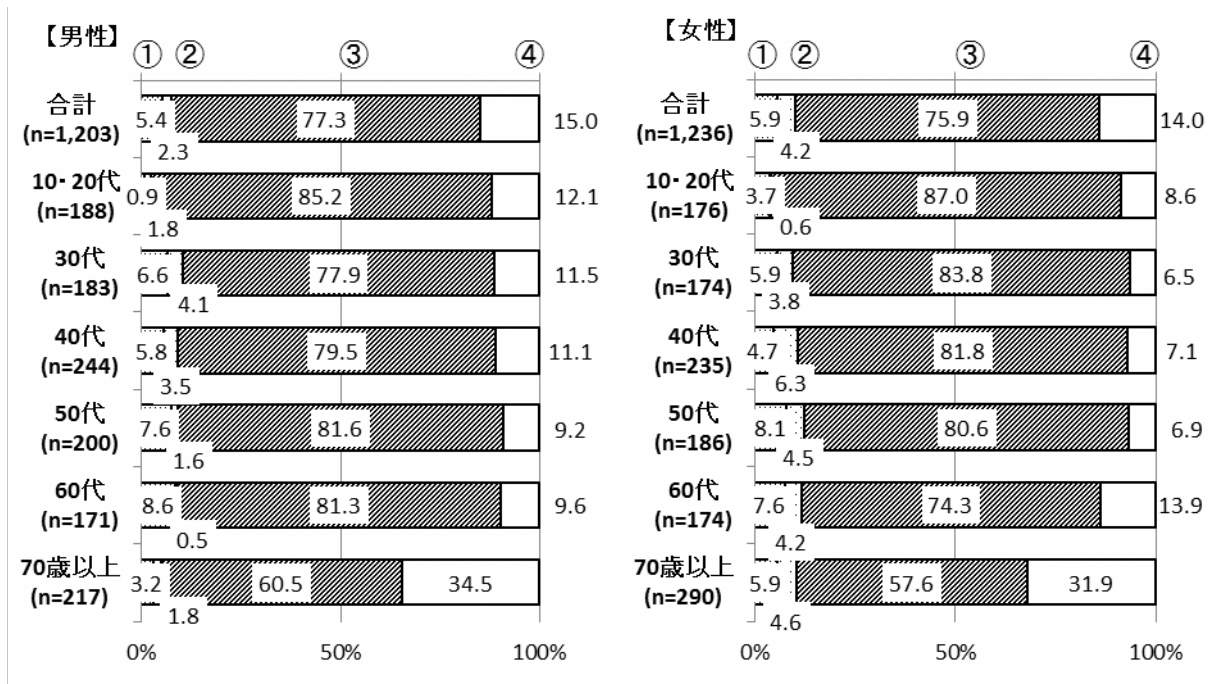
① 1、2度あった ② 何度もあった ③ まったくない ④ 無回答

### J「何を言っても長期間無視し続ける」

性別にみると、「何を言っても長期間無視し続ける」行為を受けたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）の割合は、女性 10.1%に対し男性は 7.7%で、女性の方が高くなっている。

性・年代別にみると、50代の女性で、行為を受けたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）が 12.6%と全体の中で最も高い。

図表 5-3-2-10 配偶者やパートナーからの暴力にあたる行為を受けた経験  
J「何を言っても長期間無視し続ける」  
(精神的暴力) - 性・年代別 (10/13)



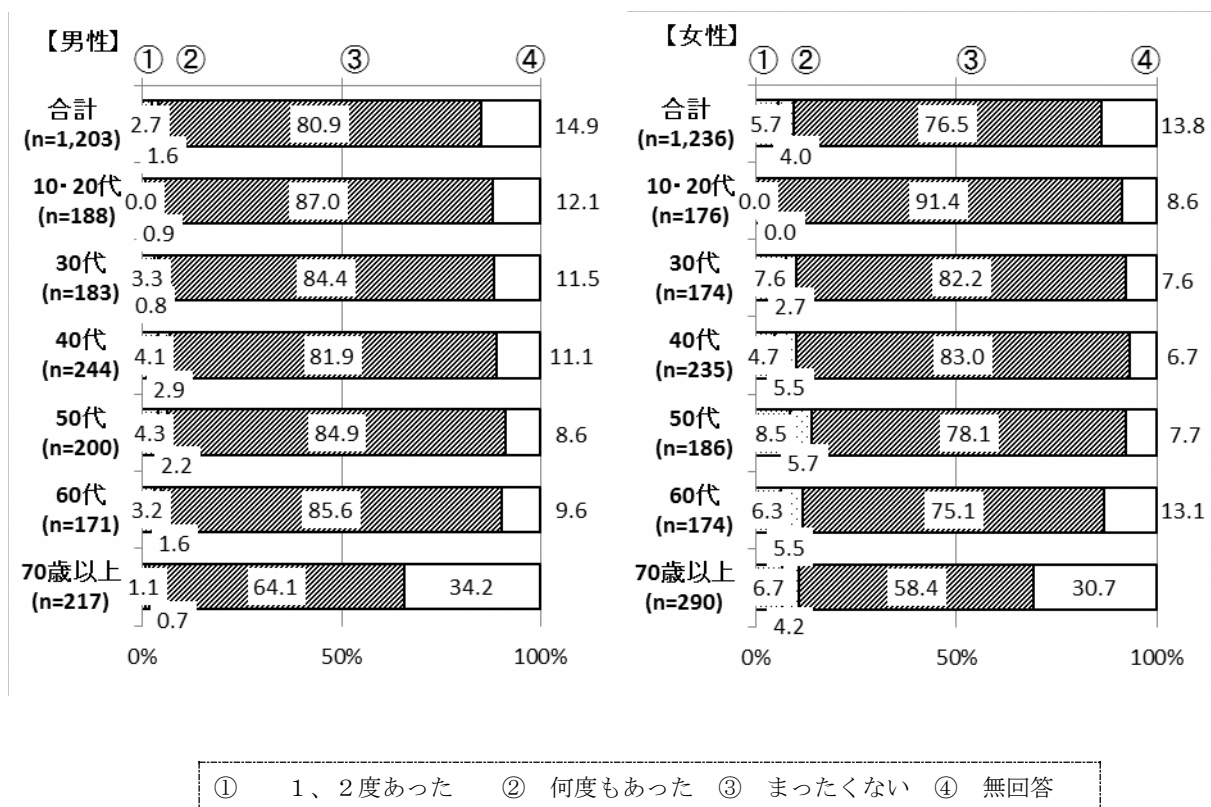
① 1、2度あった ② 何度もあった ③ まったくない ④ 無回答

### K 『誰のおかげで生活できるんだ』とか、『甲斐性なし』と言う

性別にみると、『誰のおかげで生活できるんだ』とか、『甲斐性なし』と言う」行為を受けたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）の割合は、女性 9.7%に対し男性は 4.3%で、女性の方が高くなっている。

性・年代別にみると、50代の女性で、行為を受けたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）が 14.2%と全体の中で最も高い。

図表 5-3-2-11 配偶者やパートナーからの暴力にあたる行為を受けた経験  
K 『誰のおかげで生活できるんだ』とか、『甲斐性なし』と言う  
(精神的暴力) - 性・年代別 (11/13)



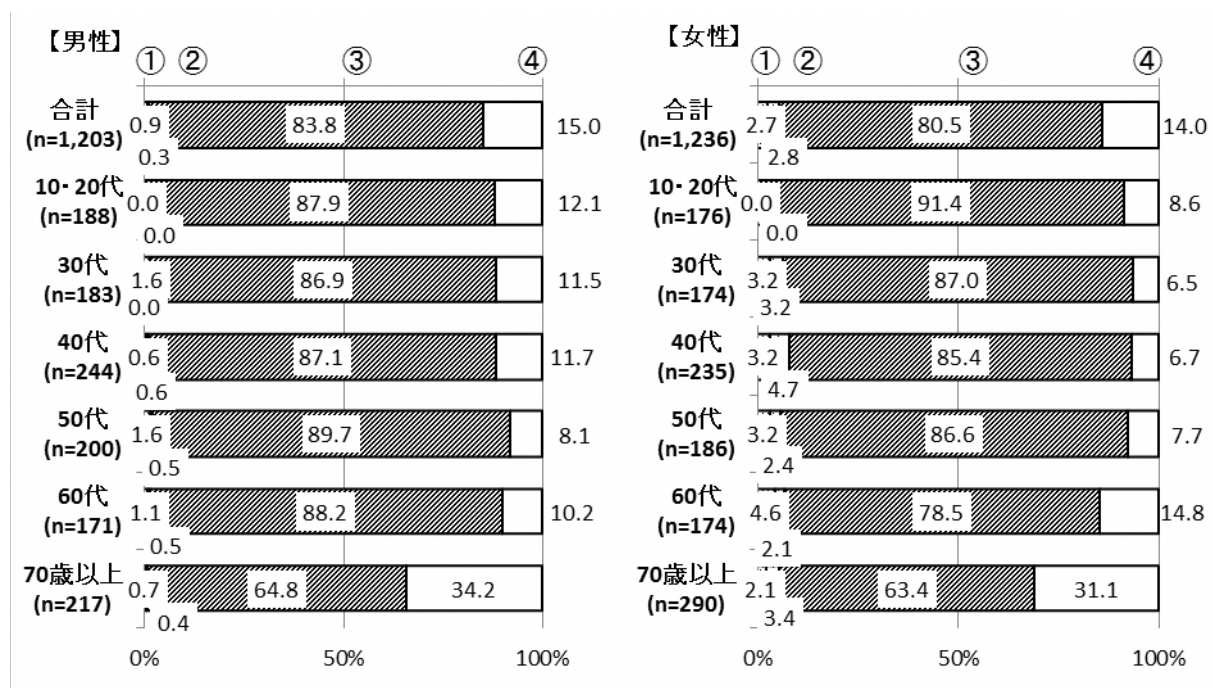


## L 「家計に必要な生活費を渡さない」

性別にみると、「家計に必要な生活費を渡さない」行為を受けたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）の割合は、女性 5.5%に対し男性は 1.2%で、女性の方が高くなっている。

性・年代別にみると、40代の女性で、行為を受けたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）が 7.9%と全体の中で最も高い。

図表 5-3-2-12 配偶者やパートナーからの暴力にあたる行為を受けた経験  
L 「家計に必要な生活費を渡さない」  
(精神的暴力) - 性・年代別 (12/13)



① 1、2度あった ② 何度もあった ③ まったくない ④ 無回答

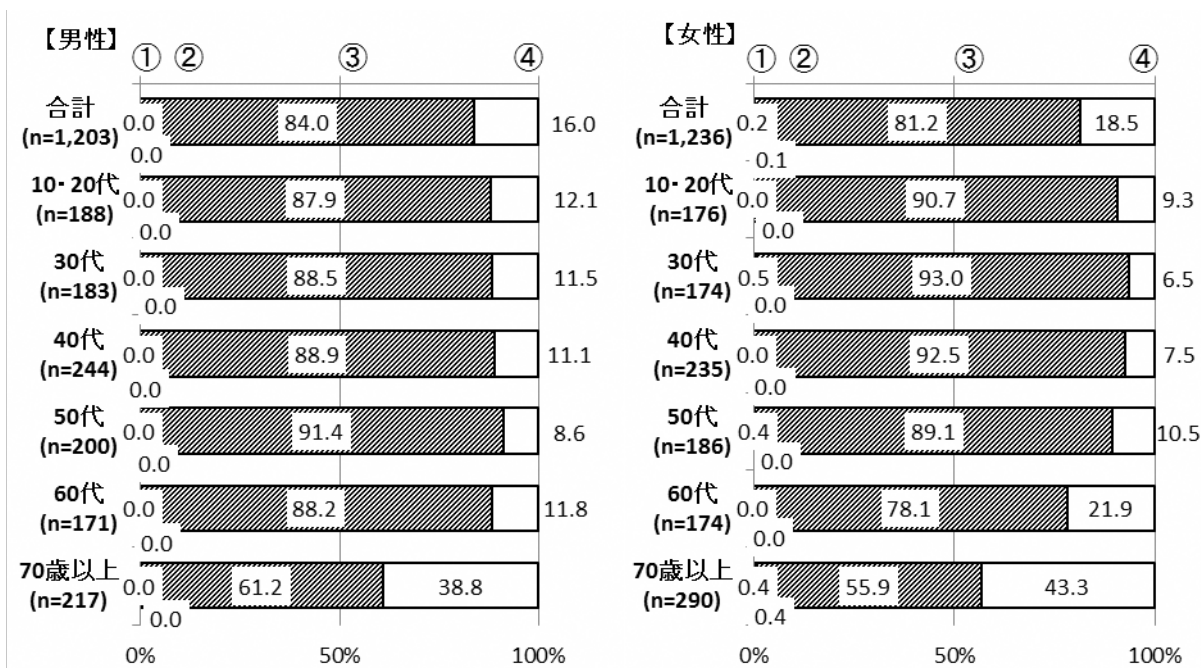
M 「外国籍の配偶者やパートナーのパスポートを取り上げたり、

日本に滞在するための手続きに協力しない」

「外国籍の配偶者やパートナーのパスポートを取り上げたり、日本に滞在するための手続きに協力しない」行為を受けたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）の割合は、女性0.3%のみであった。

図表5-3-2-13 配偶者やパートナーからの暴力にあたる行為を受けた経験

M 「外国籍の配偶者やパートナーのパスポートを取り上げたり、日本に滞在するための手続きに協力しない」（精神的暴力）－ 性・年代別（13/13）



① 1、2度あった ② 何度もあった ③ まったくない ④ 無回答

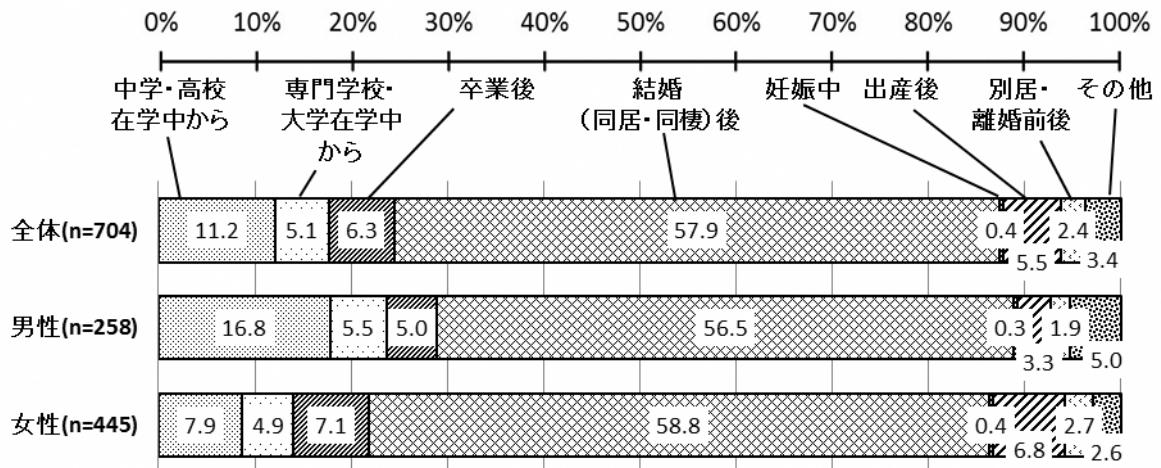
#### 4 暴力にあたる行為を最初に受けた時期（問 20-1）

問 20 ②の暴力にあたる行為を「1、2度あった」および「何度もあった」と回答した人（704人）に、その行為を最初に受けた時期をたずねた。

最初に受けた時期は、「結婚（同居・同棲）後」が57.9%で最も多く、次いで「中学・高校在学中から」（11.2%）、「卒業後」（6.3%）の順となっている。

男性は女性と比べて、学生時代の割合が高い。

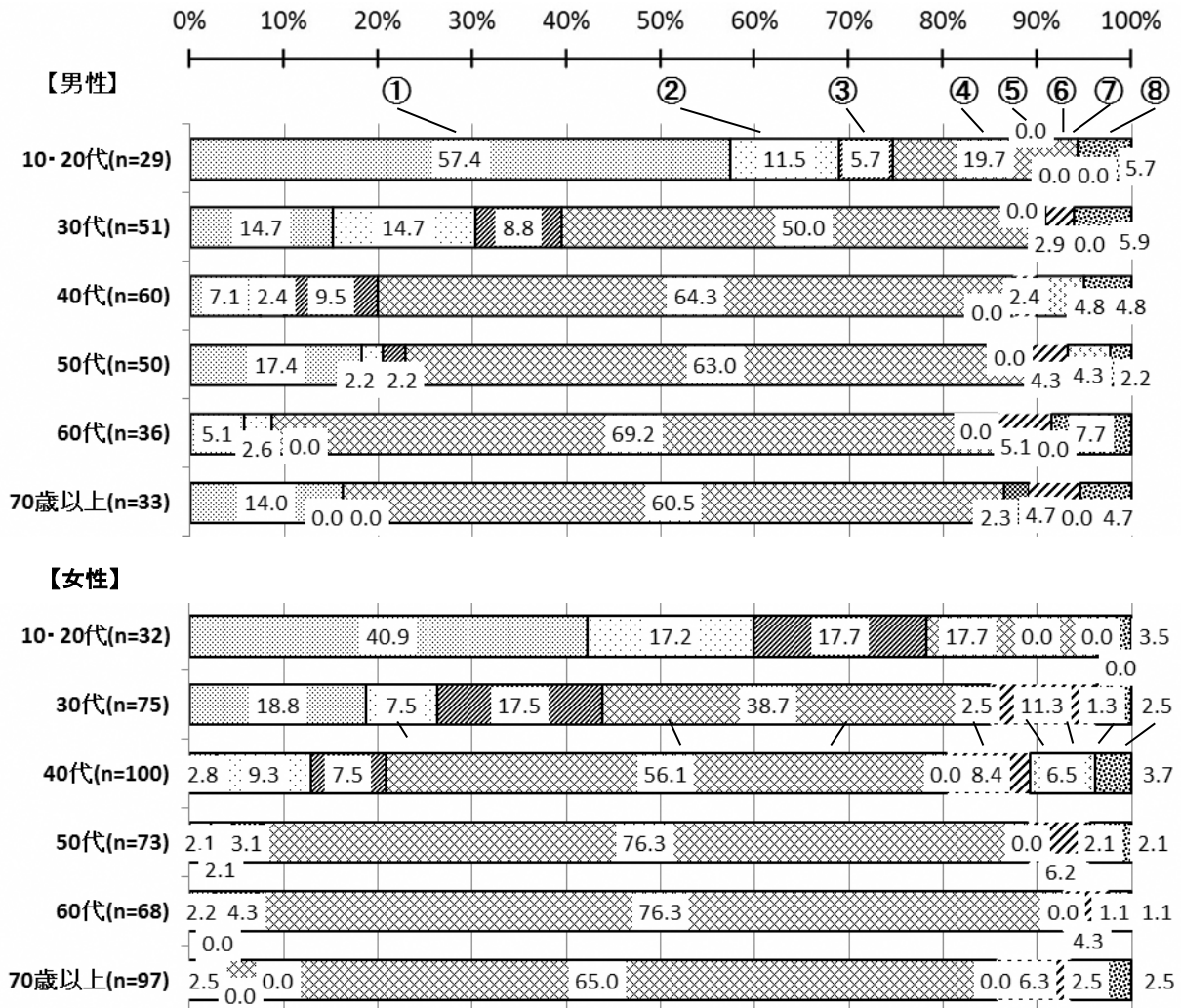
図表5-4 暴力にあたる行為を最初に受けた時期 - 性別



(1) 暴力にあたる行為を最初に受けた時期 - 性・年代別

性別にみても、男性、女性ともに、最初に暴力を受けた時期は「結婚（同居・同棲）後」が圧倒的に多い。

図表 5-4-① 暴力にあたる行為を最初に受けた時期 - 性・年代別



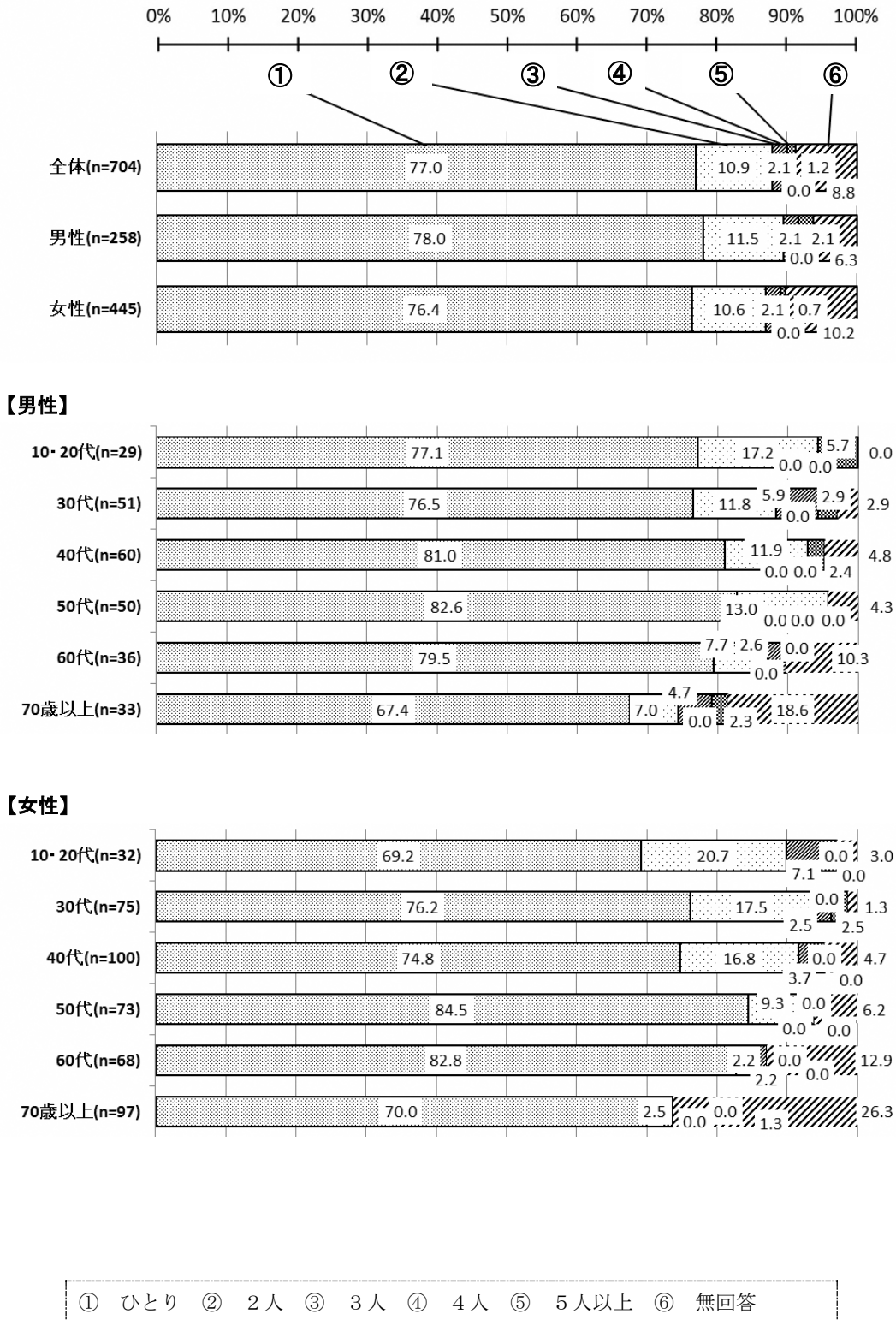
- ① 中学・高校在学中から    ② 専門学校・大学在学中から    ③ 卒業後
- ④ 結婚（同居・同棲）後    ⑤ 妊娠中    ⑥ 出産後    ⑦ 別居・離婚前後
- ⑧ その他    ⑨ 無回答

## 5 DV行為を複数から受けたことがあるか（問 20-2）

問 20 ②の暴力にあたる行為を「1、2度あった」および「何度もあった」と回答した人（704人）に、その行為を複数の配偶者やパートナー、交際相手から受けたことがあるかたずねた。

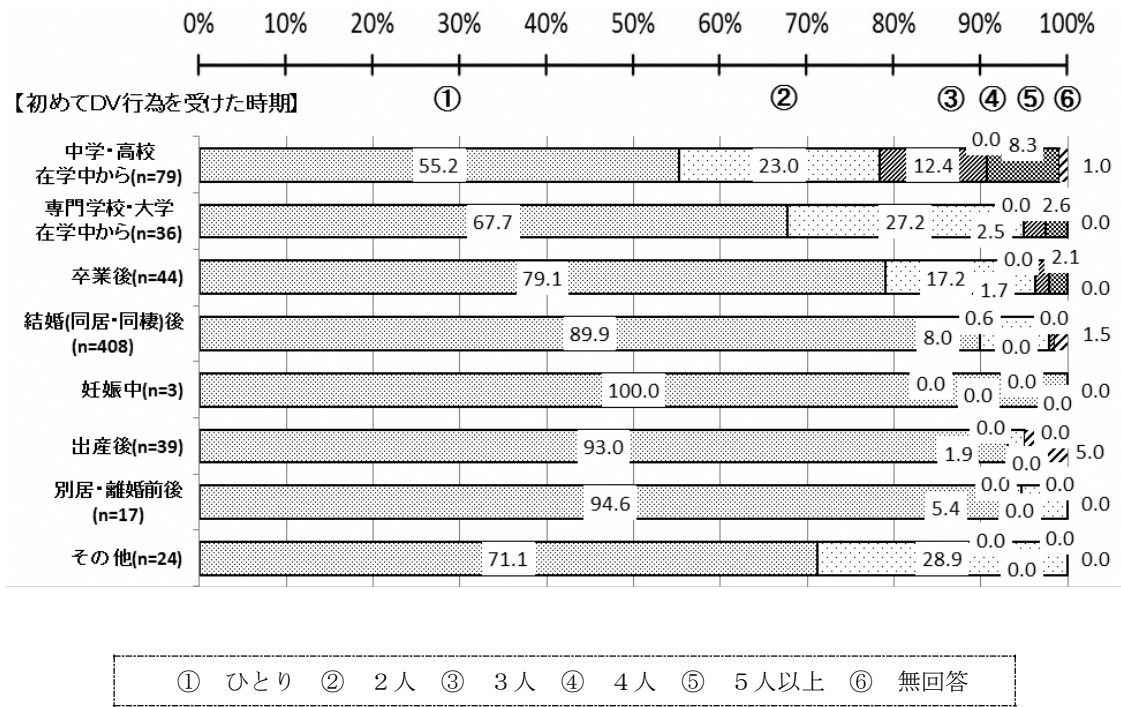
全体、男性、女性いずれも、「ひとり」が最も多い。2人以上と回答した合計は全体で14.2%となっている。

図表5-5 DV行為を複数から受けたことがあるか — 性・年代別



(1) DV 行為を複数から受けたことがあるか 【最初に受けた時期別】

図表 5-5-1 DV 行為を複数から受けたことがあるか - 最初に受けた時期別



## 6 暴力にあたる行為を受けた後の相談（問 20-3）

### （1）相談の有無

配偶者やパートナーから暴力にあたる行為を受けた人（704人）に対し、「そのような行為を受けたことについて、だれかに打ち明けたり、相談したりしたか」についてたずねた。

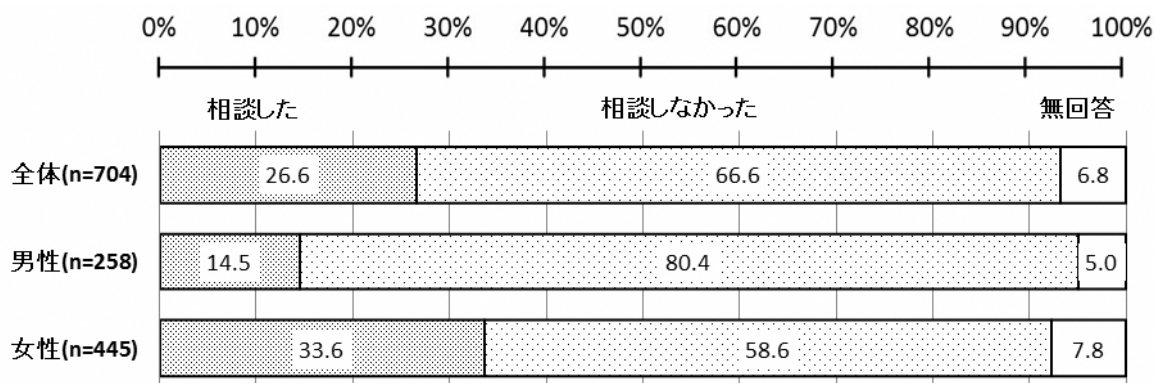
全体では6割以上（66.6%）が、「相談しなかった」と回答した。

性別にみると、「相談した」は男性14.5%に対し女性は33.6%、「相談しなかった」は男性80.4%に対し女性は58.6%と、男女で大きく差がある。

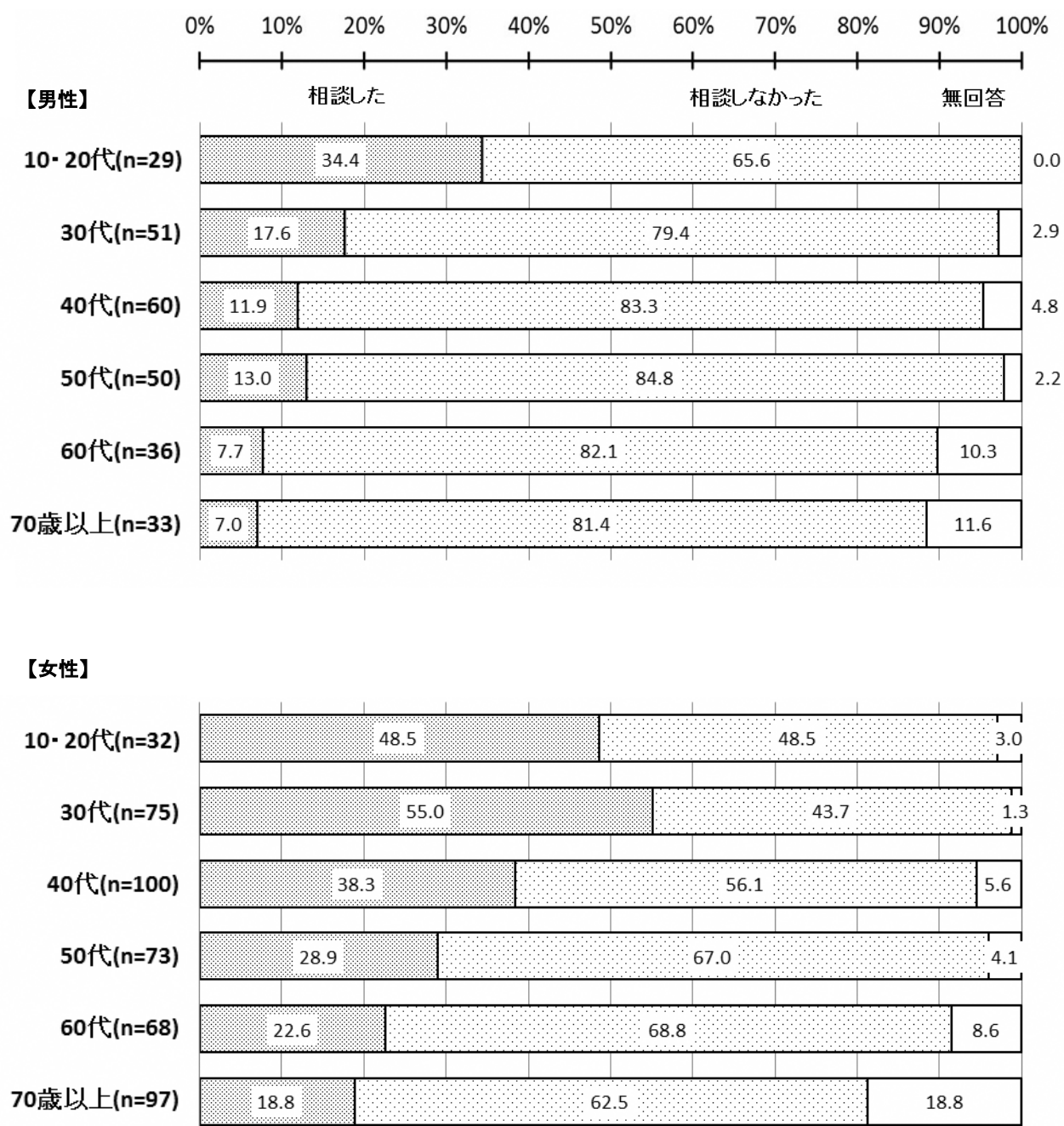
女性を年代別にみると、「相談した」は10・20代が48.5%、30代が55.0%と高く、以降は年代が上がるにつれ相談する率が下がっている。

過去の調査との比較では、「相談した」割合が全体、男性、女性全てで上がっている。

図表5-6 暴力にあたる行為を受けた後の相談 - 性別

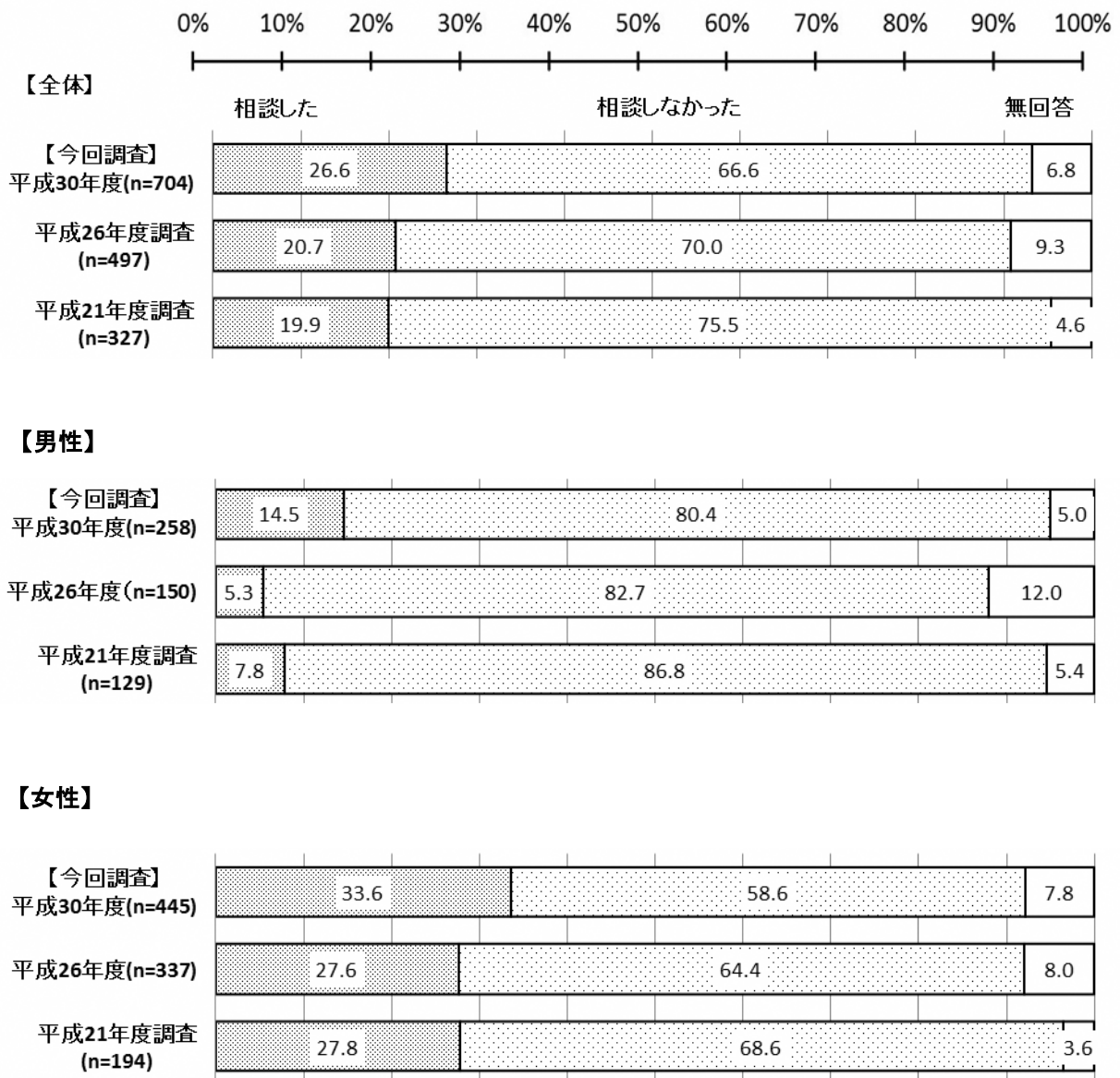


図表5-6-① 暴力にあたる行為を受けた後の相談 - 性・年代別





図表5-6-② 暴力にあたる行為を受けた後の相談 [経年比較]



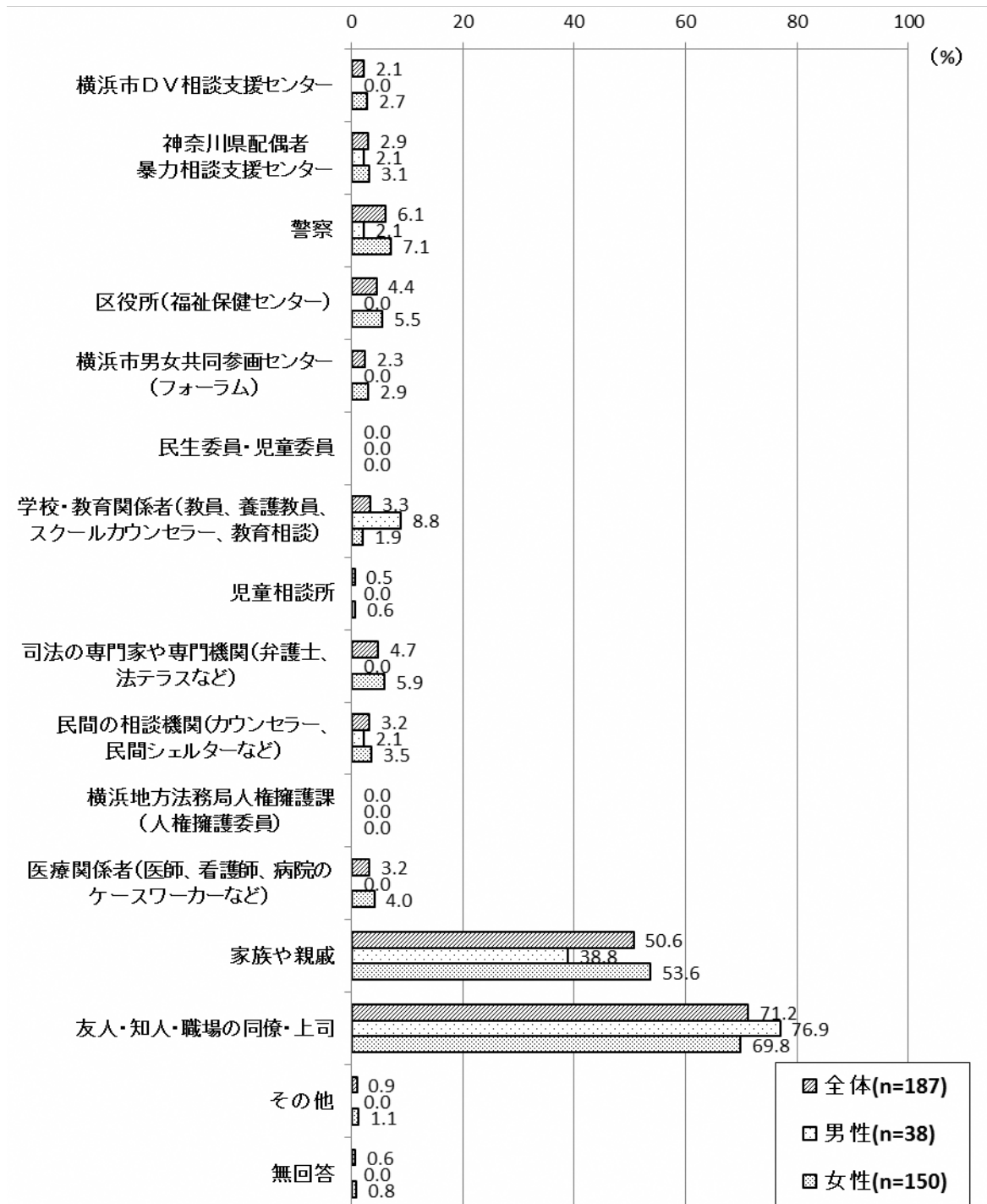
(注) 今回の調査から、集計結果を横浜市の年齢構成比に合わせウエイトバック集計をかけています。平成26年度以前の調査結果は参考値となります。

## 7 相談した先（問 20-4）

問 20-3 で「相談した」と回答した人（187 人）に、相談した先をたずねた。

全体では「友人・知人・職場の同僚・上司」（71.2%）と「家族や親戚」（50.6%）が高い割合になっており、身近な人への相談が多い。次いで、「警察」（6.1%）、「司法の専門家や専門機関（弁護士、法テラスなど）」（4.7%）、「区役所（福祉保健センター）」（4.4%）の順になっている。

図表 5-7 相談した先（複数回答）



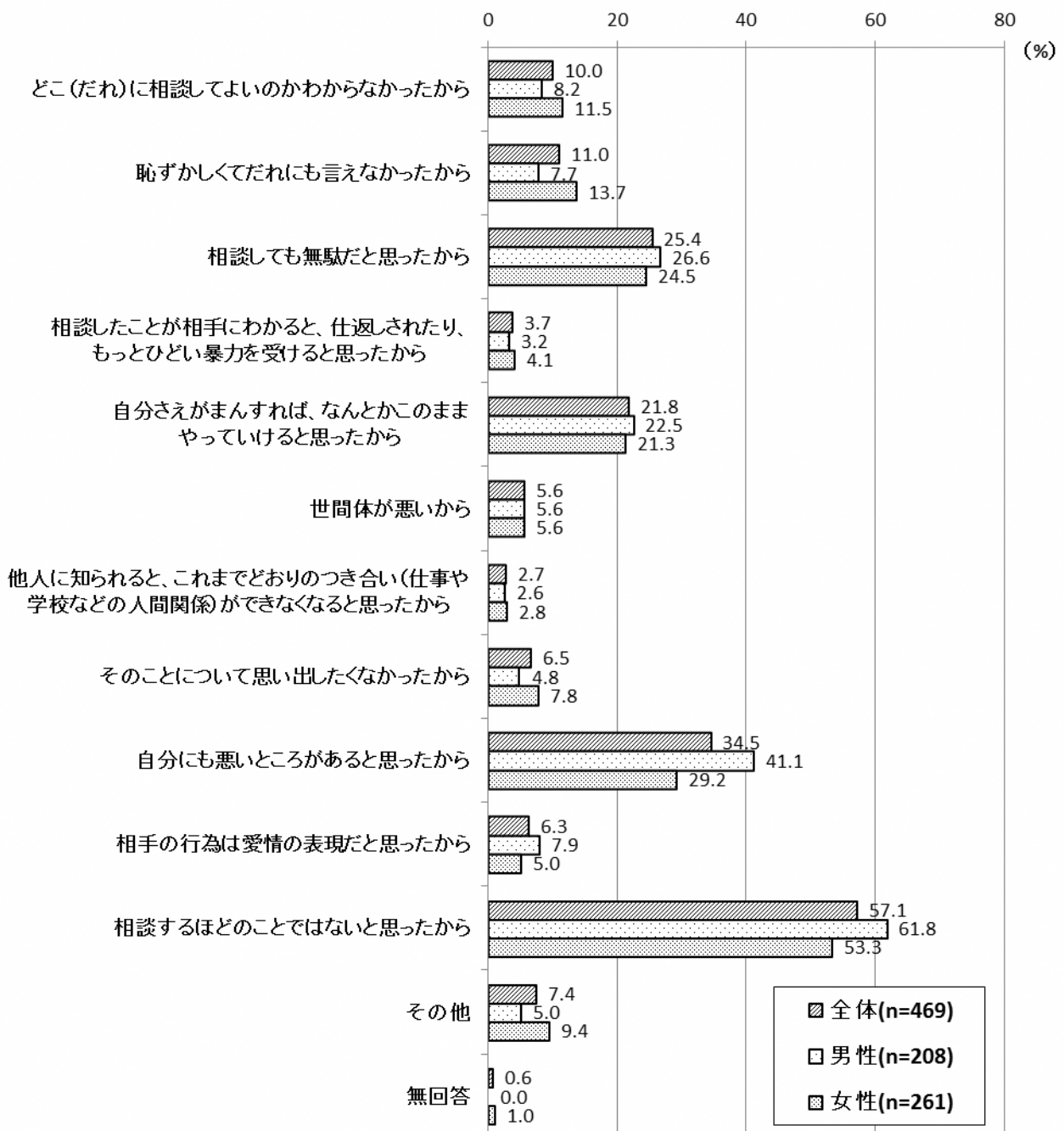
## 8 相談しなかった理由（問 20-5）

問 20-3 で「相談しなかった」と回答した人（469 人）に対して、相談しなかった理由をたずねた。

全体、男性、女性いずれも、「相談するほどのことではないと思ったから」が最も多く（57.1%）、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」（34.5%）、「相談しても無駄だと思ったから」（25.4%）、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていたら」（21.8%）となっている。

男女の差が大きいのは「自分にも悪いところがあると思ったから」（男性 41.1%、女性 29.2%）、「相談するほどのことではないと思ったから」（男性 61.8%、女性 53.3%）などであった。

図表 5-8 相談をしなかった理由（複数回答）

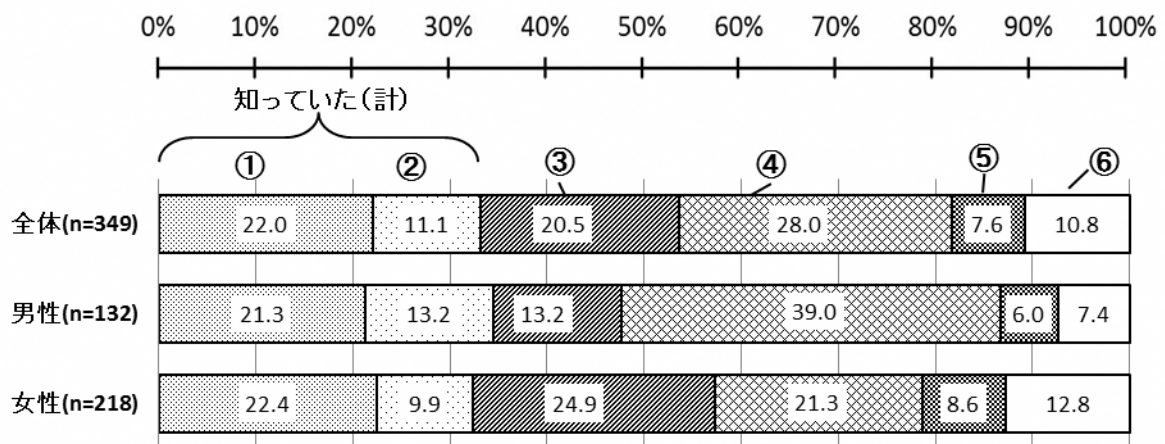


## 9 子どもによる目撃（問 20-6）

暴力にあたる行為を受けた経験のある人のうち、子どものいる人（349人）に、暴力にあたる行為を受けるところを、子どもが知っていたかについてたずねた。

全体では、子どもは知っていた（「子どもはあなたが暴力を受けたところを見ていた」と「子どもはあなたが暴力を受けたところを見ていなかったが物音や声、様子から知っていた」と回答した人の合計）と回答した人は、33.1%だった。一方、「子どもが知っていたか、知らなかったかは、わからない」と回答した人は28.0%、「子どもはあなたが暴力を受けたことを知らなかった」は20.5%であった。

図表5-9 子どもによる目撃



- ①子どもはあなたが暴力を受けるところを見ていた
- ②子どもはあなたが暴力を受けたところを見ていなかったが、物音や声、様子から知っていた
- ③子どもはあなたが暴力を受けたことを知らなかった
- ④子どもが知っていたか、知らなかったかは、わからない
- ⑤その他
- ⑥無回答

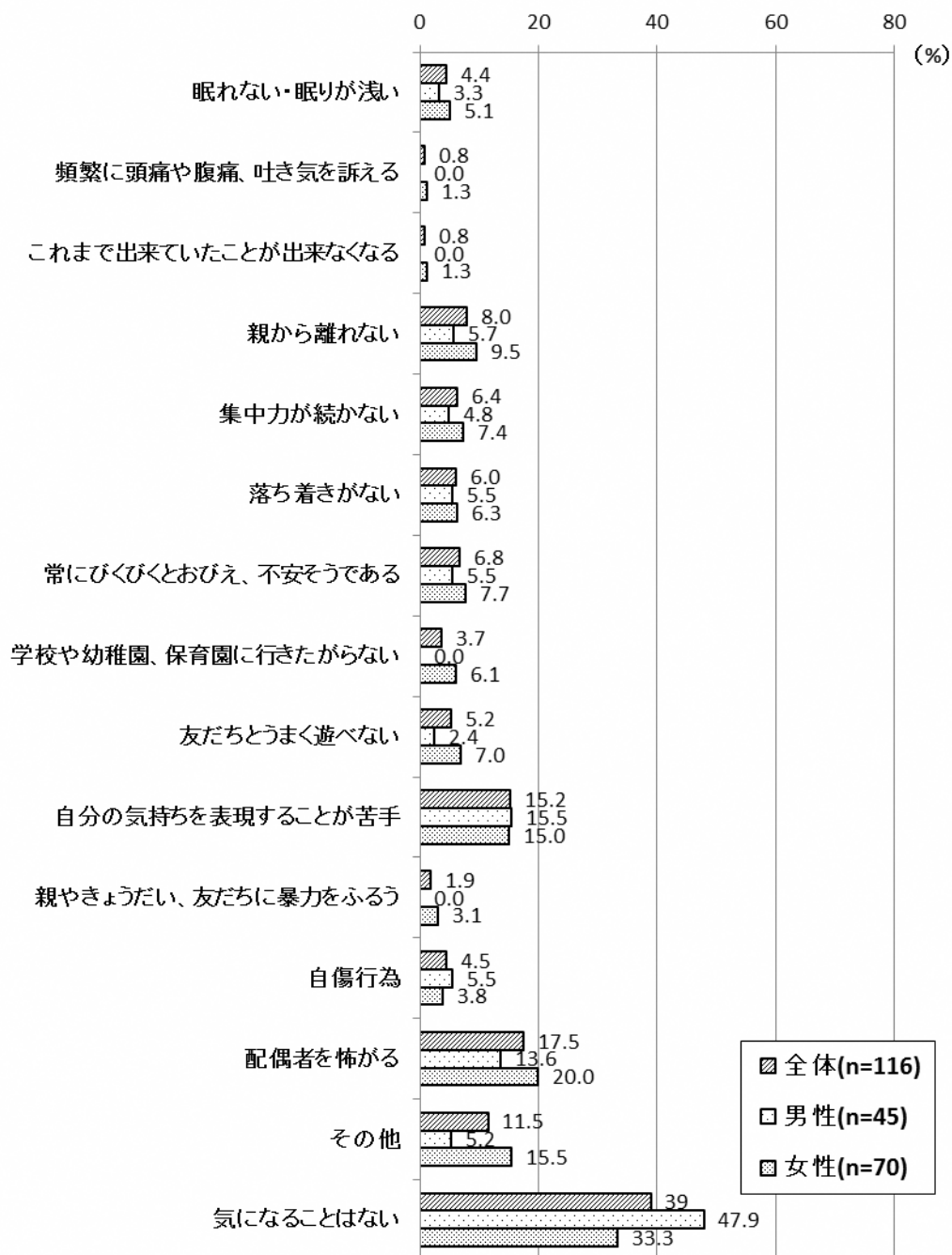
## 10 子どもの様子で気になること（問20-7）

問20-6で、暴力にあたる行為を受けるところを子どもが知っていたと回答した人（116人）に、子どもの様子で気になることをたずねた。

全体では、「配偶者を怖がる」が最も多く（17.5%）、次いで「自分の気持ちを表現することが苦手」（15.2%）、「親から離れない」（8.0%）となっている。

性別にみると、「気になることはない」は、女性33.3%に対し、男性47.9%と差がみられる。

図表5-10 子どもの様子で気になること（複数回答）



## 1.1 配偶者やパートナーに暴力にあたる行為をした経験（問 21）

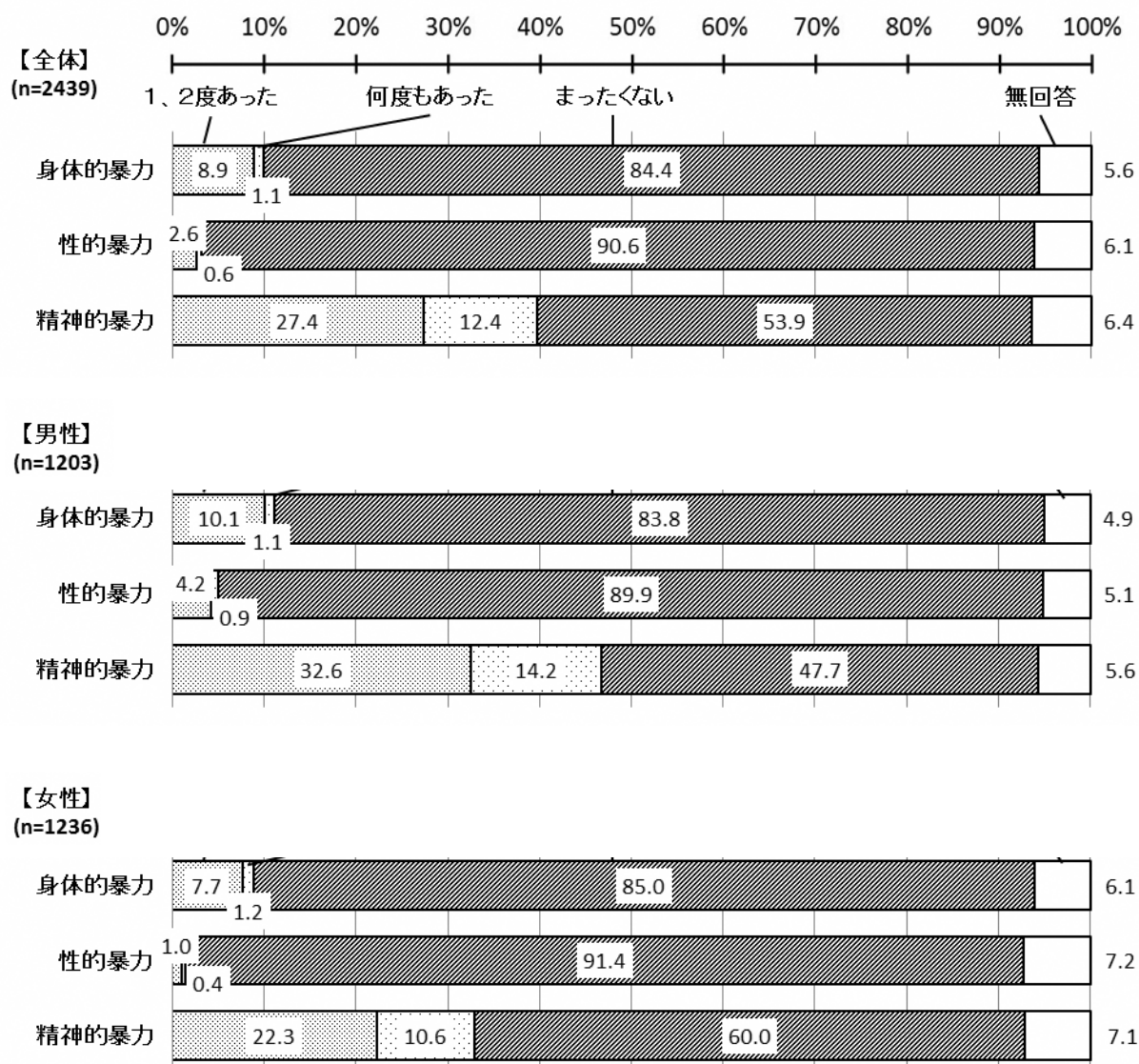
### （1）身体的暴力、精神的暴力、性的暴力の類型別経験

配偶者やパートナーへの暴力にあたる行為を、身体的暴力、性的暴力、精神的暴力の3つに分類してみる（分類は問 20 参照）。

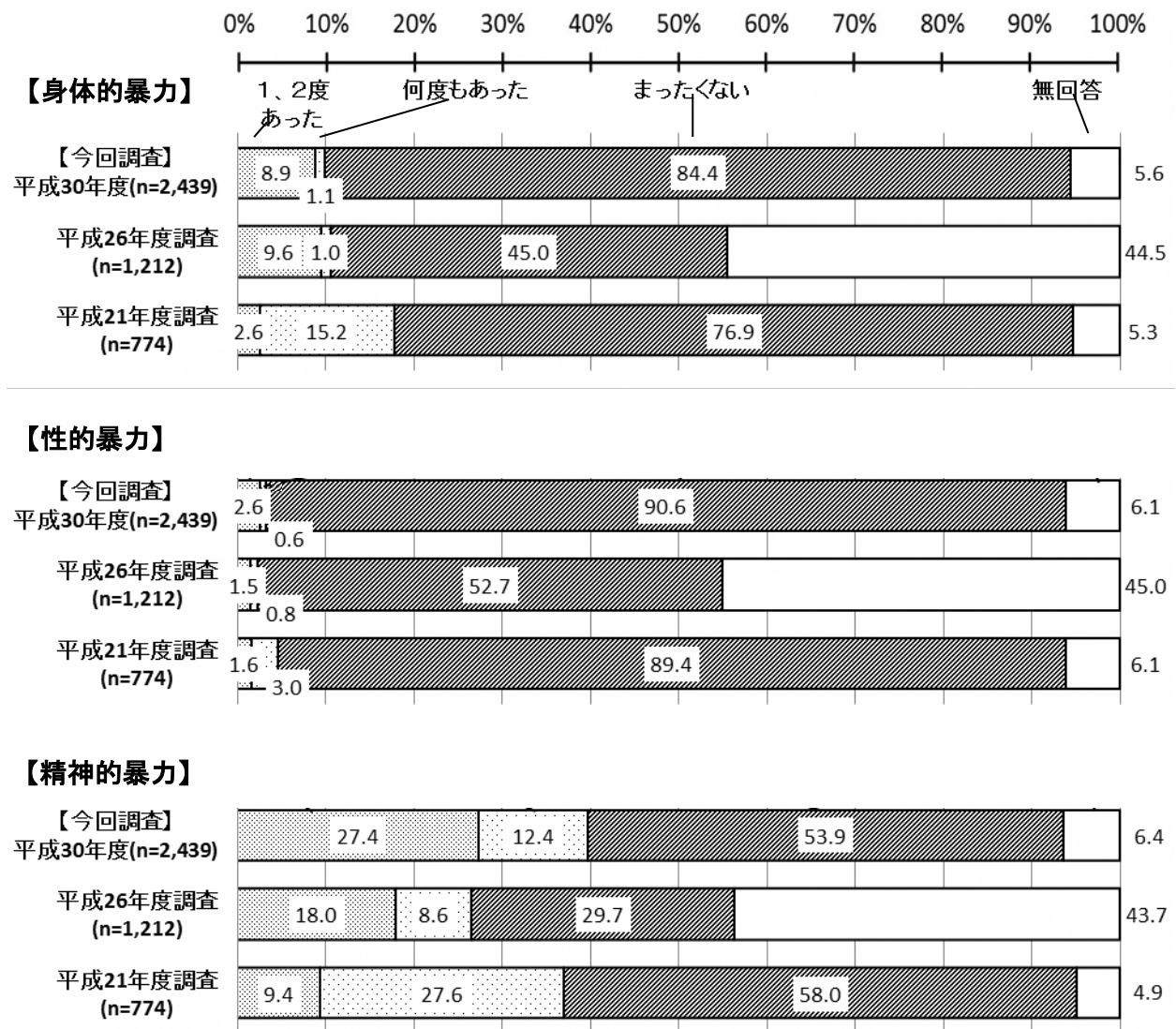
全体では、配偶者やパートナーに暴力にあたる行為をしたと答えた人（「1、2度した」と「何度もした」と答えた人の合計）は、身体的暴力では10.0%、性的暴力では3.2%、精神的暴力では39.8%となっており、精神的暴力にあたる行為をした人が最も多い。

性別にみると、身体的暴力、性的暴力、精神的暴力のいずれにおいても、男性の方が女性よりも暴力にあたる行為をした割合が高くなっている。

図表 5-11 配偶者やパートナーに暴力にあたる行為をした経験 — 性・類型別



図表5-11-1 配偶者やパートナーに暴力にあたる行為をした経験 [経年比較]



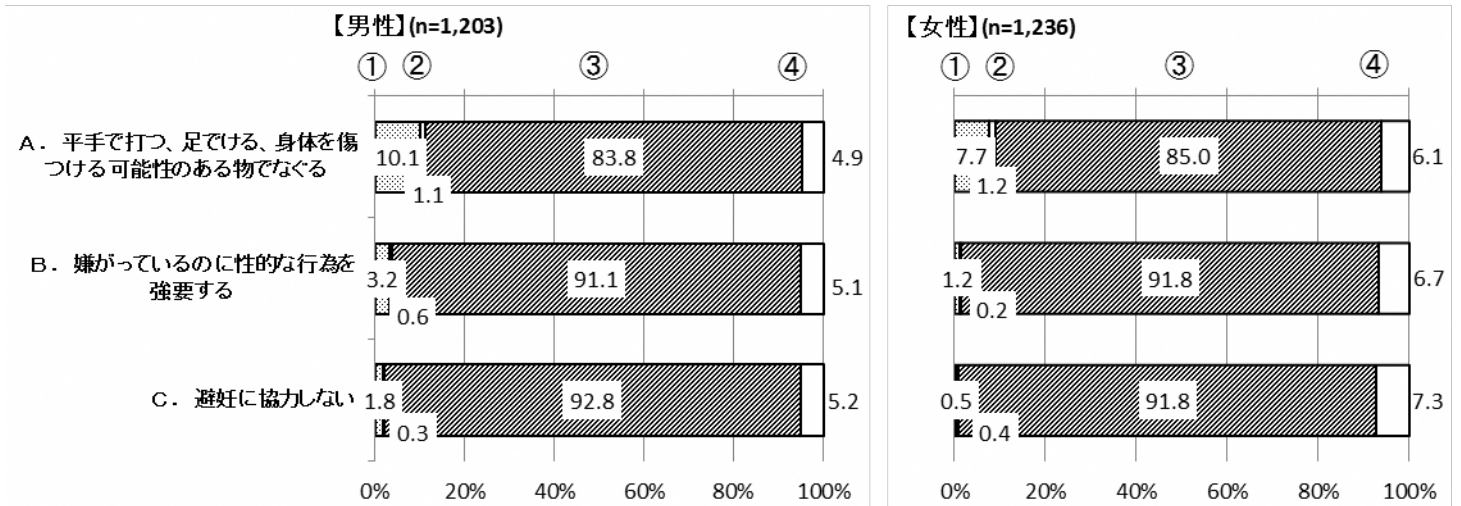
(注) 今回の調査から、集計結果を横浜市の年齢構成比に合わせウエイトバック集計をかけています。平成26年度以前の調査結果は参考値となります。

(2) 配偶者やパートナーに暴力にあたる行為をした経験 [性・行為別]

性別にみると、暴力にあたる行為をしたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）の割合は、ほとんどの項目で女性よりも男性の方が高くなっている。

回答の多かった行為で、男女差がみられるものは、「避妊に協力しない」（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計が男性 43.4%、女性 28.3%）などである。

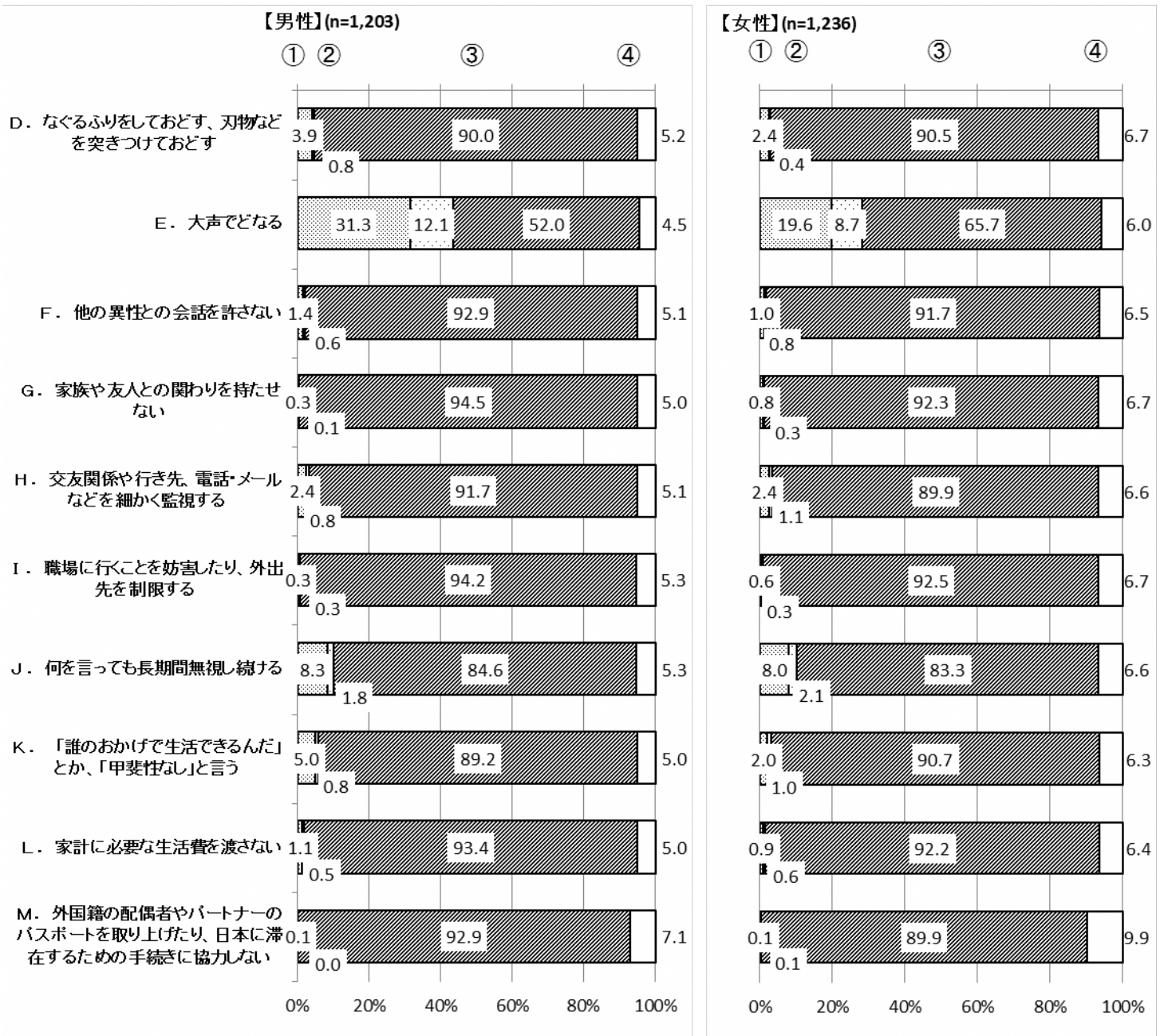
図表 5-11-2-1 配偶者やパートナーに暴力にあたる行為をした経験 — 性・類型別 (1/2)



① 1、2度あった ② 何度もあった ③ まったくない ④ 無回答



図表 5-11-2-2 配偶者やパートナーに暴力にあたる行為をした経験 ー 性・類型別 (2/2)



② 1、2度あった ② 何度もあった ③ まったくない ④ 無回答

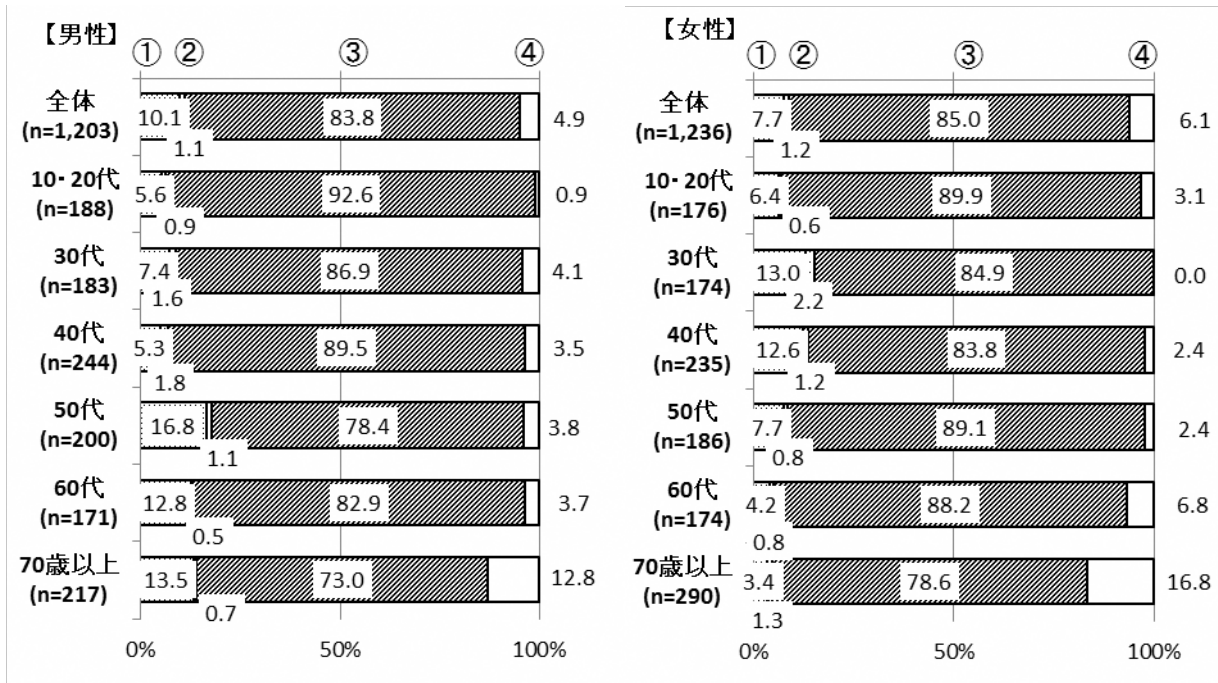
(3) 配偶者やパートナーに暴力にあたる行為をした経験 [性・年代別]

A 「平手で打つ、足でける、身体を傷つける可能性のある物でなぐる」

性別にみると、「平手で打つ、足でける、身体を傷つける可能性のある物でなぐる」行為をしたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）の割合は、男性11.2%に対し女性は8.9%で、男性の方が高くなっている。

性・年代別にみると、50代の男性で、行為をしたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）が17.9%と全体の中で最も高い。

図表5-11-3-1 配偶者やパートナーに暴力にあたる行為をした経験  
A 「平手で打つ、足でける、身体を傷つける可能性のある物でなぐる」  
(身体的暴力) - 性・年代別 (1/13)



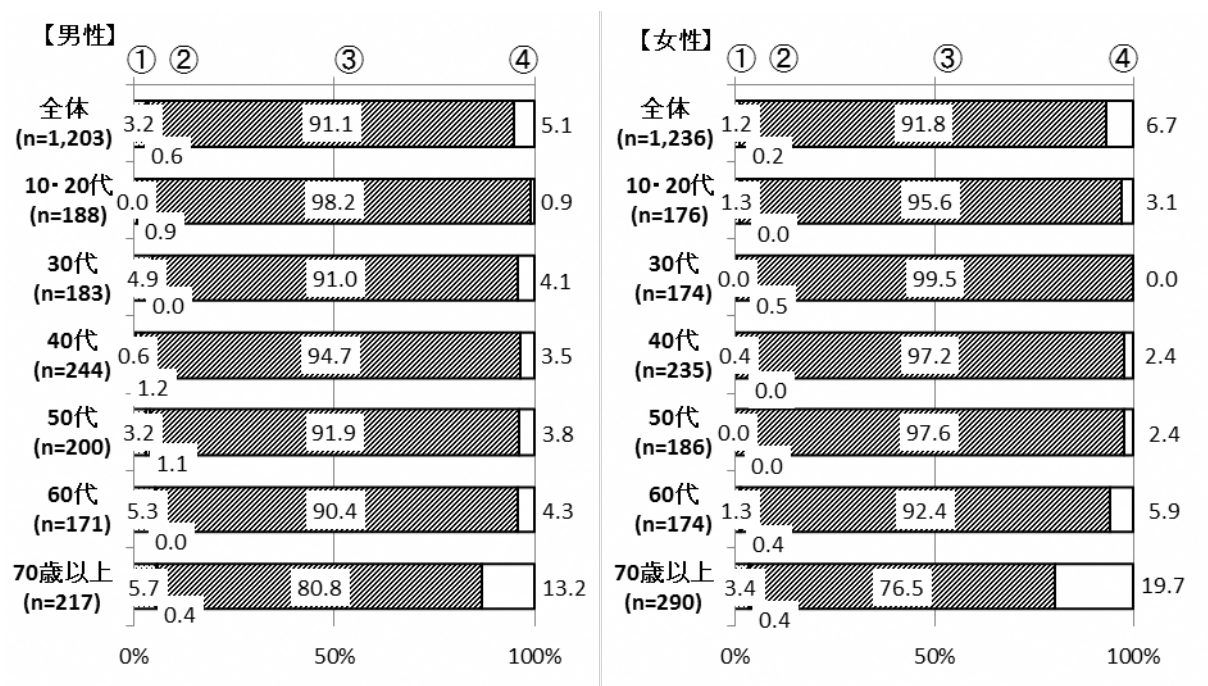
① 1、2度あった ② 何度もあった ③ まったくない ④ 無回答

**B「嫌がっているのに性的な行為を強要する」**

性別にみると、「嫌がっているのに性的な行為を強要する」行為をしたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）の割合は、男性3.8%に対し女性は1.4%で、男性の方が高くなっている。

性・年代別にみると、70歳以上の男性で、行為をしたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）が6.1%と全体の中で最も高い。

図表5-11-3-2 配偶者やパートナーに暴力にあたる行為をした経験  
**B「嫌がっているのに性的な行為を強要する」**  
 (性的暴力) - 性・年代別 (2/13)



① 1、2度あった    ② 何度もあった    ③ まったくない    ④ 無回答

### C 「避妊に協力しない」

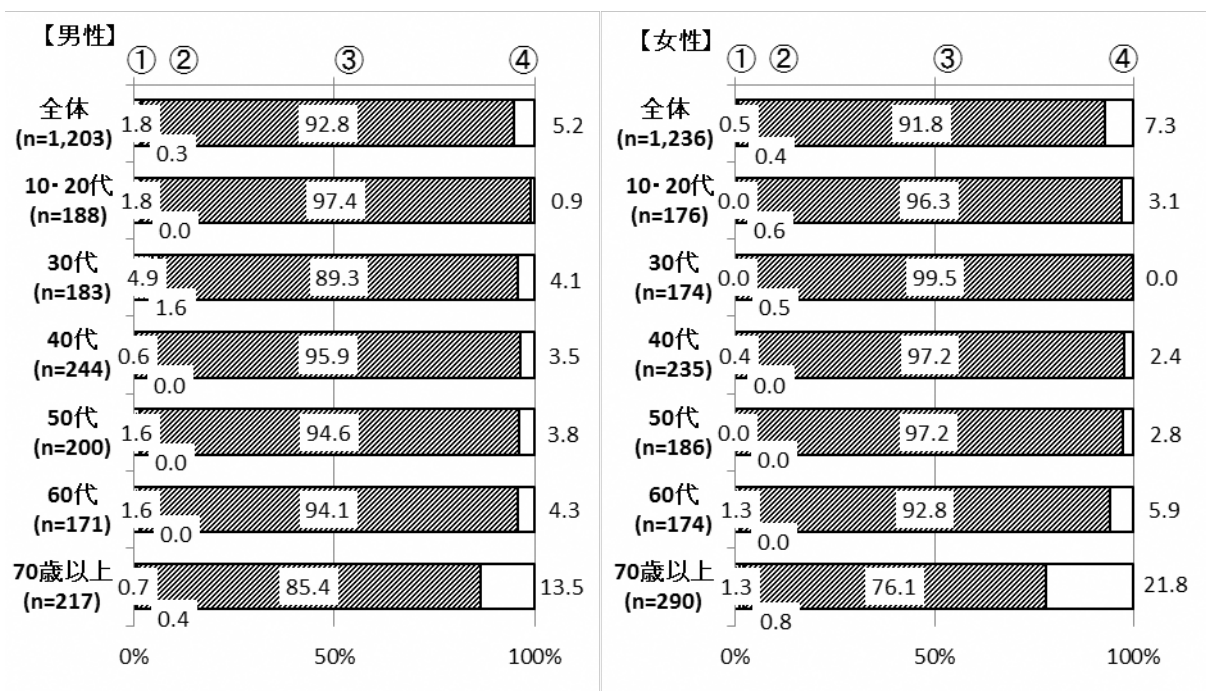
性別にみると、「避妊に協力しない」行為をしたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）の割合は、男性2.1%に対し女性は0.9%で、男性の方が高くなっている。

性・年代別にみると、30代の男性で行為をしたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）が6.5%と全体の中で最も高い。

図表5-11-3-3 配偶者やパートナーに暴力にあたる行為をした経験

#### C 「避妊に協力しない」

(性的暴力) - 性・年代別 (3/13)



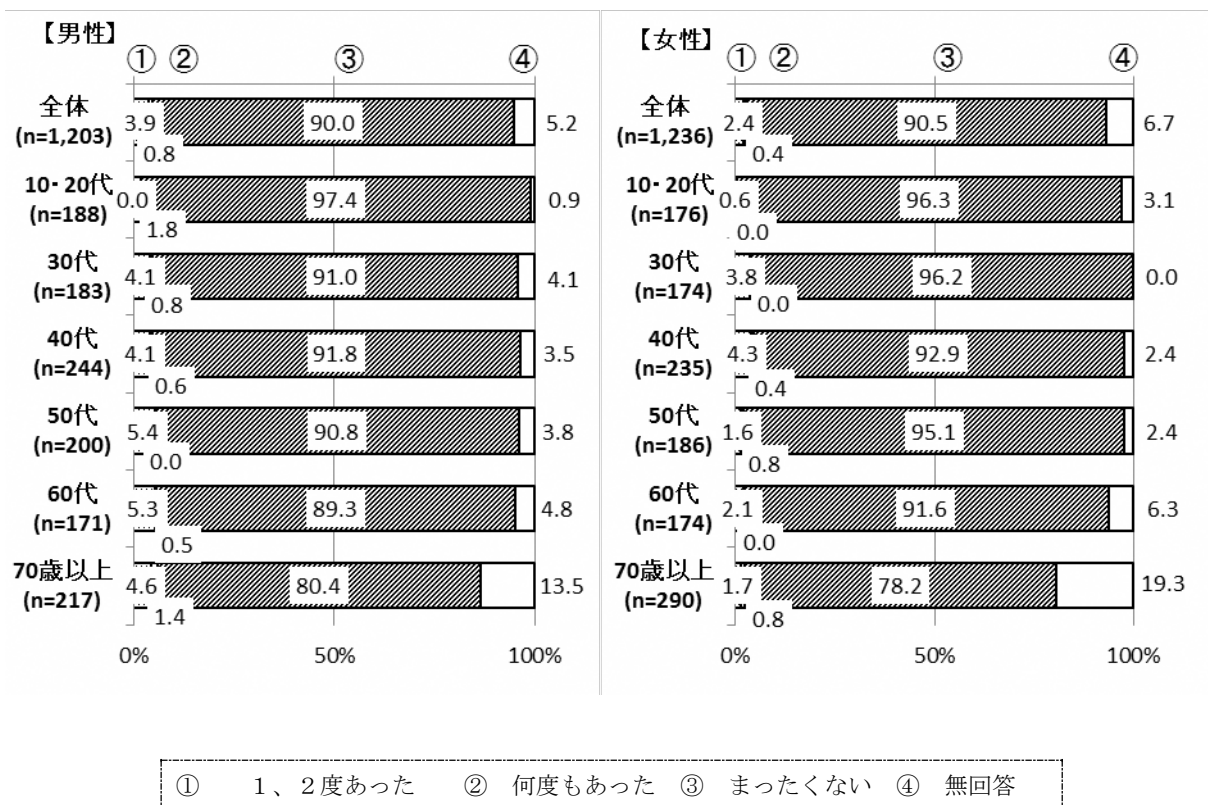
① 1、2度あった ② 何度もあった ③ まったくない ④ 無回答

D「なぐるふりをしておどす、刃物などを突きつけておどす」

性別にみると、「なぐるふりをしておどす、刃物などを突きつけておどす」行為をしたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）の割合は、男性4.7%に対し女性は2.8%で、男性の方が高くなっている。

性・年代別にみると、70歳以上の男性で行為をしたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）が6.0%と全体の中で最も高い。

図表5-11-3-4 配偶者やパートナーに暴力にあたる行為をした経験  
D「なぐるふりをしておどす、刃物などを突きつけておどす」  
(精神的暴力) - 性・年代別 (4/13)



### E 「大声でどなる」

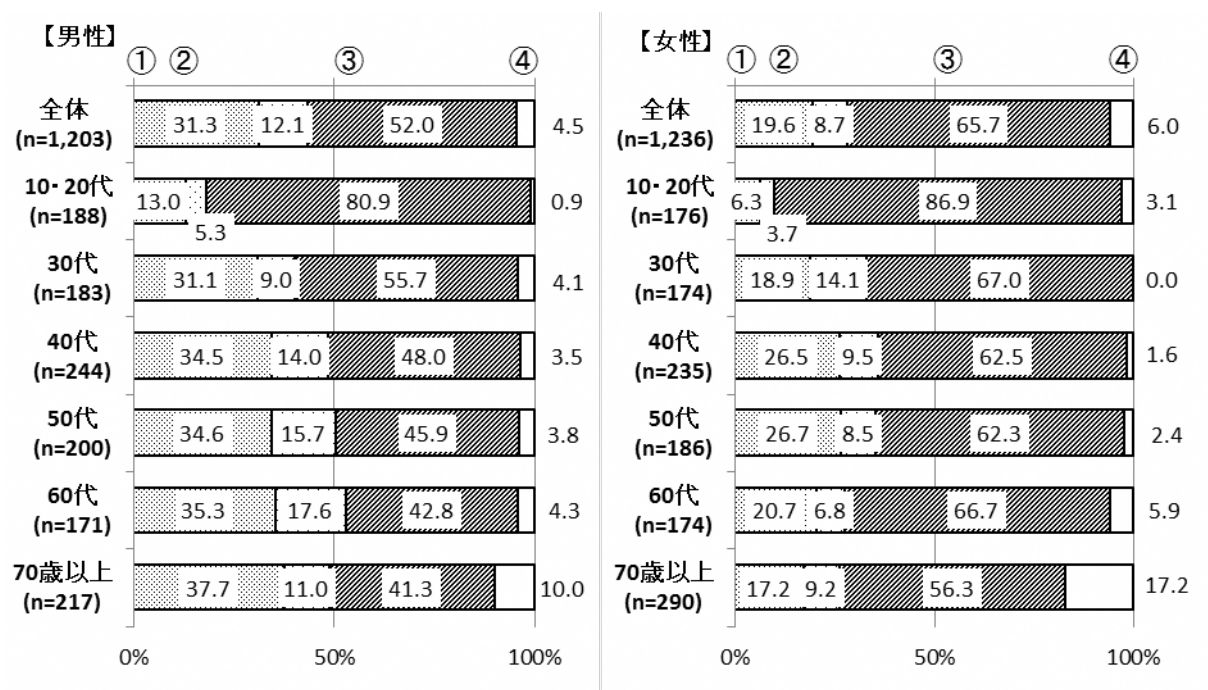
性別にみると、「大声でどなる」行為をしたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）の割合は、男性43.4%に対し女性は28.3%で、男性の方が高くなっている。

性・年代別にみると、60代の男性で行為をしたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）が52.9%と全体の中で最も高い。

図表5-11-3-5 配偶者やパートナーに暴力にあたる行為をした経験

#### E 「大声でどなる」

（精神的暴力）－ 性・年代別（5/13）



① 1、2度あった ② 何度もあった ③ まったくない ④ 無回答

## F 「他の異性との会話を許さない」

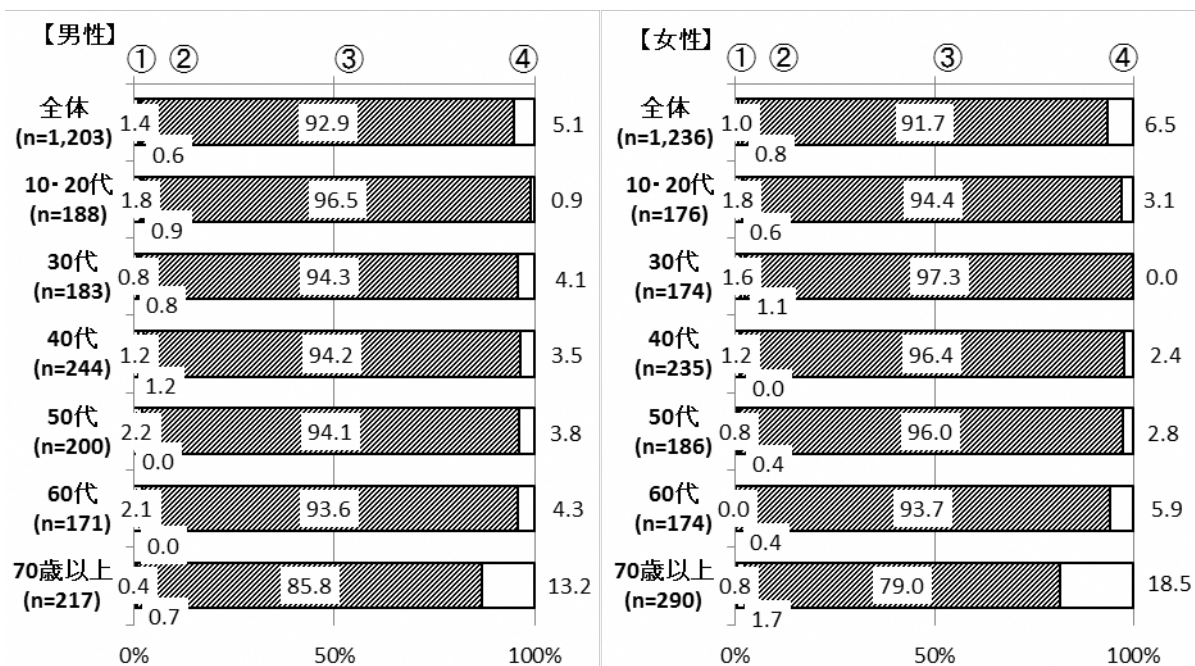
性別にみると、「他の異性との会話を許さない」行為をしたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）の割合は、男性2.0%に対し女性は1.8%で、男性と女性の差はほとんど無い。

性・年代別にみると、10・20代の男性と30代の女性が同率で、行為をしたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）が2.7%と全体の中で最も高い。

図表5-11-3-6 配偶者やパートナーに暴力にあたる行為をした経験

### F 「他の異性との会話を許さない」

（精神的暴力）－ 性・年代別（6/13）



① 1、2度あった ② 何度もあった ③ まったくない ④ 無回答

### G 「家族や友人との関わりを持たせない」

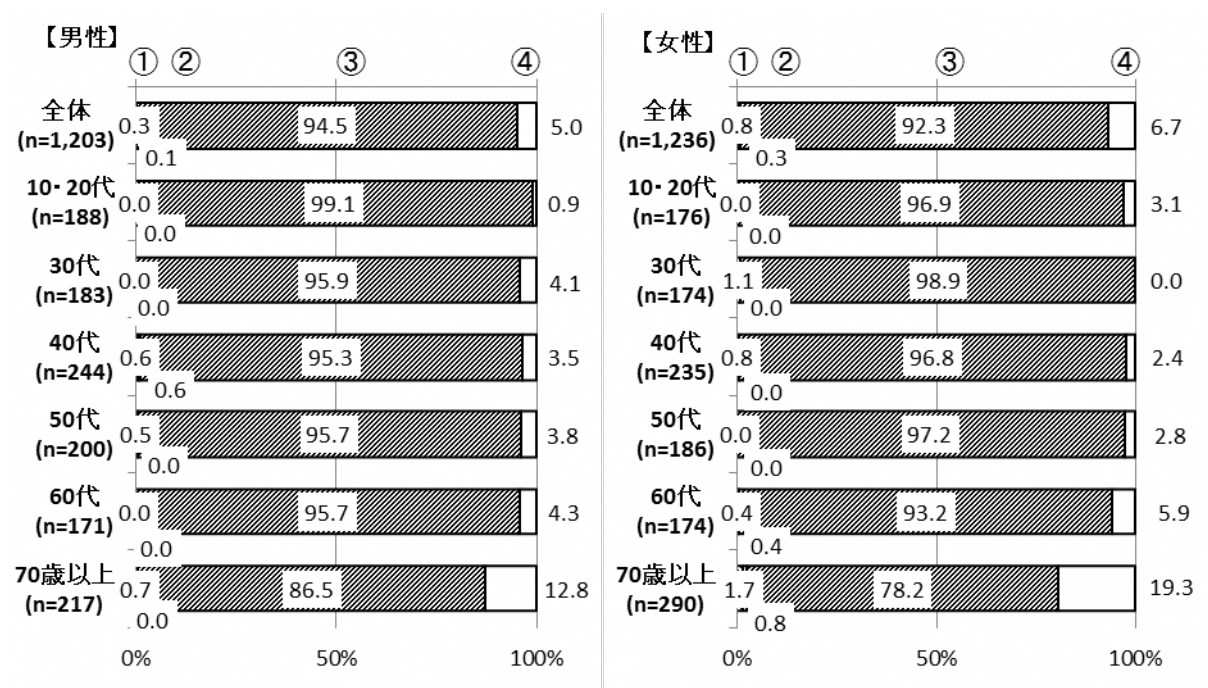
性別にみると、「家族や友人との関わりを持たせない」行為をしたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）の割合は、男性0.4%に対し女性は1.1%で、男性と女性の差はほとんど無い。

性・年代別にみると、70歳以上の女性で行為をしたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）が2.5%と全体の中で最も高い。

図表5-11-3-7 配偶者やパートナーに暴力にあたる行為をした経験

#### G 「家族や友人との関わりを持たせない」

（精神的暴力）－ 性・年代別（7/13）



① 1、2度あった ② 何度もあった ③ まったくない ④ 無回答

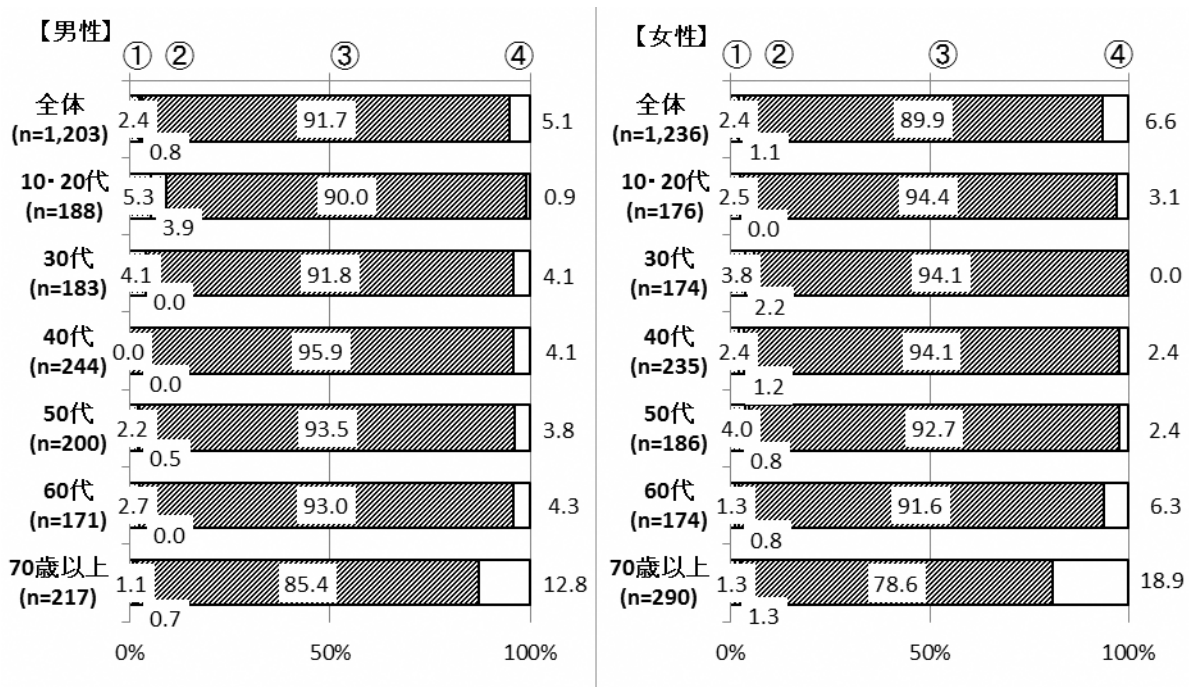


## H「交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する」

性別にみると、「交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する」行為をしたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）の割合は、男性3.2%に対し女性は3.5%で、男性と女性の差はほとんど無い。

性・年代別にみると、10・20代の男性で行為をしたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）が9.2%と全体の中で最も高い。

図表5-11-3-8 配偶者やパートナーに暴力にあたる行為をした経験  
H「交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する」  
(精神的暴力) - 性・年代別 (8/13)



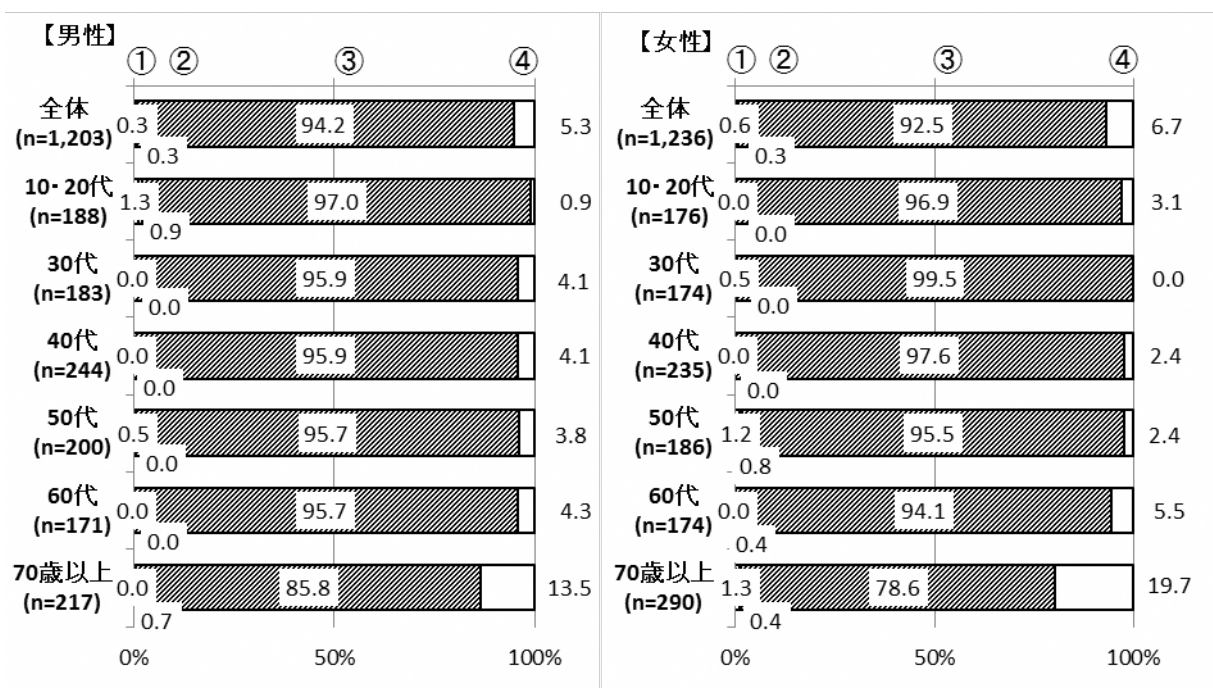
① 1、2度あった ② 何度もあった ③ まったくない ④ 無回答

### I 「職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する」

性別にみると、「職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する」行為をしたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）の割合は、男性0.6%に対し女性は0.9%で、男性と女性の差はほとんど無い。

性・年代別にみると、10・20代の男性で行為をしたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）が2.2%と全体の中で最も高い。

図表5-11-3-9 配偶者やパートナーに暴力にあたる行為をした経験  
I 「職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する」  
(精神的暴力) - 性・年代別 (9/13)



① 1、2度あった ② 何度もあった ③ まったくない ④ 無回答

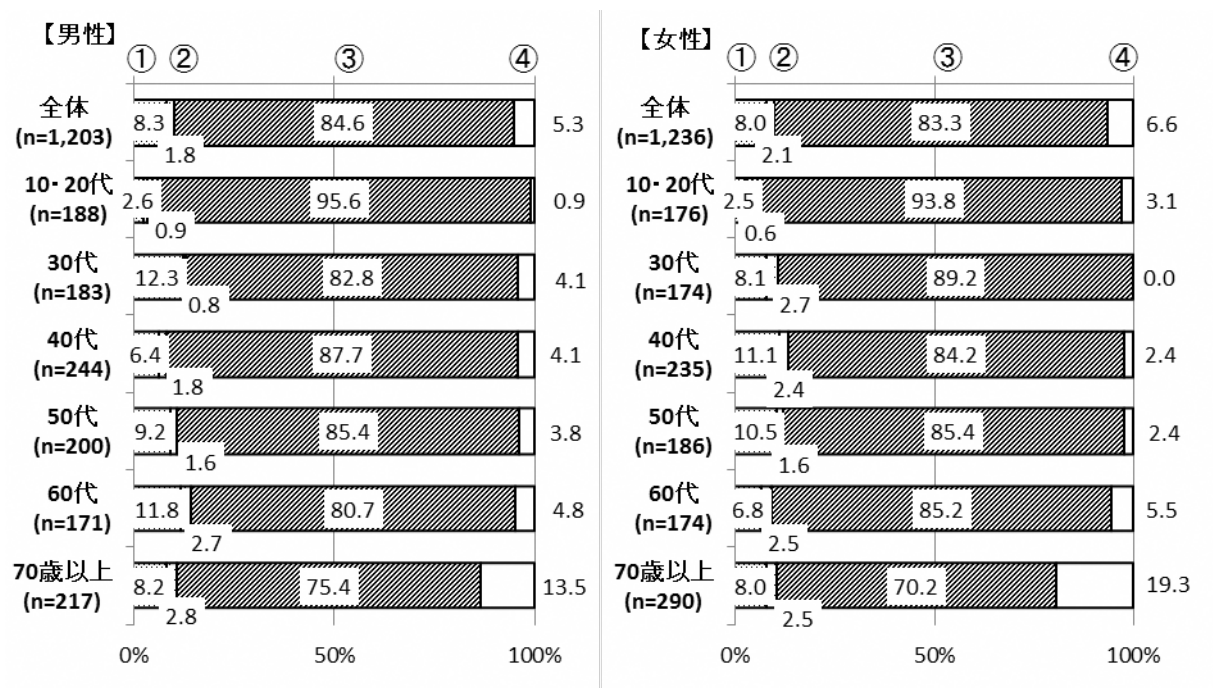
## J 「何を言っても長期間無視し続ける」

性別にみると、「何を言っても長期間無視し続ける」行為をしたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）の割合は、男性、女性ともに同率で10.1%となっている。

性・年代別にみると、60代の男性で行為をしたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）が14.5%と全体の中で最も高い。

図表5-11-3-10 配偶者やパートナーに暴力にあたる行為をした経験

### J 「何を言っても長期間無視し続ける」 (精神的暴力) - 性・年代別 (10/13)



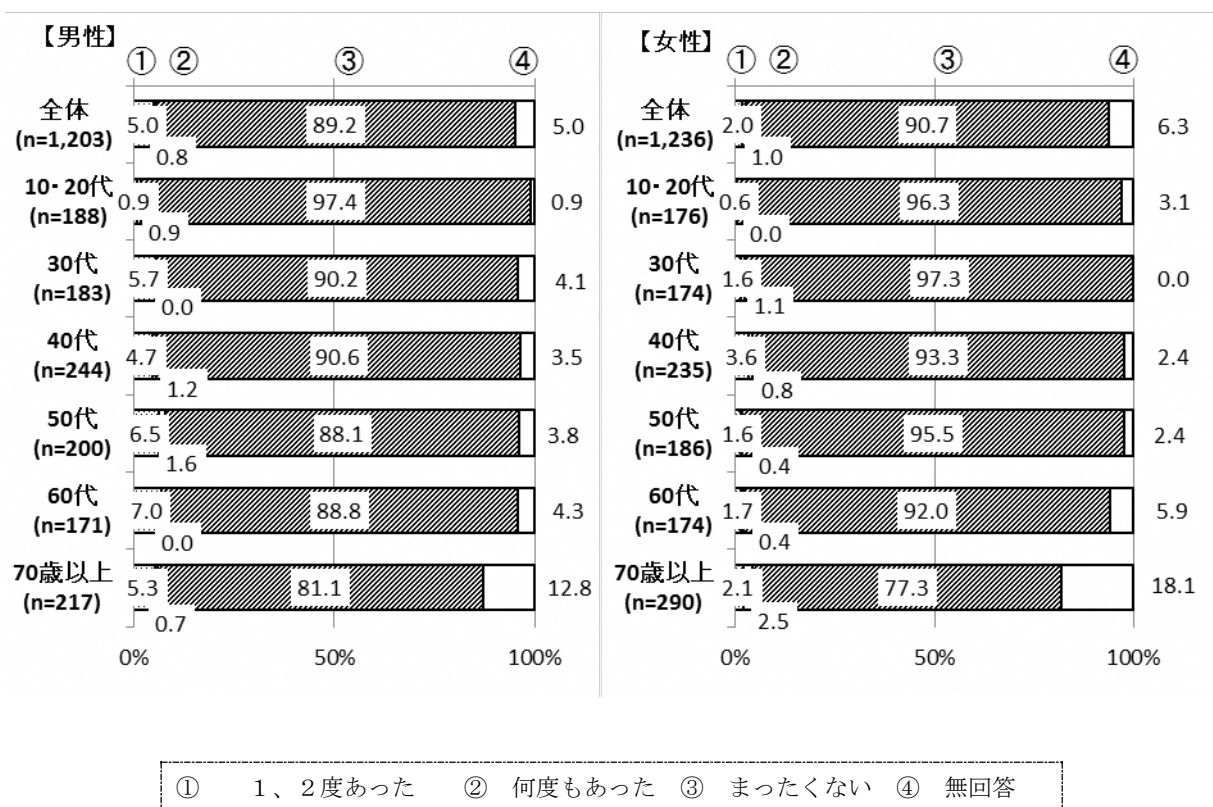
① 1、2度あった ② 何度もあった ③ まったくない ④ 無回答

### K 『誰のおかげで生活できるんだ』とか、『甲斐性なし』と言う

性別にみると、『誰のおかげで生活できるんだ』とか、『甲斐性なし』と言う」行為をしたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）の割合は、男性5.8%に対し女性は3.0%で、男性の方が高くなっている。

性・年代別にみると、50代の男性で行為をしたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）が8.1%と全体の中で最も高い。

図表5-11-3-11 配偶者やパートナーに暴力にあたる行為をした経験  
K 『誰のおかげで生活できるんだ』とか、『甲斐性なし』と言う  
(精神的暴力) - 性・年代別 (11/13)



## L 「家計に必要な生活費を渡さない」

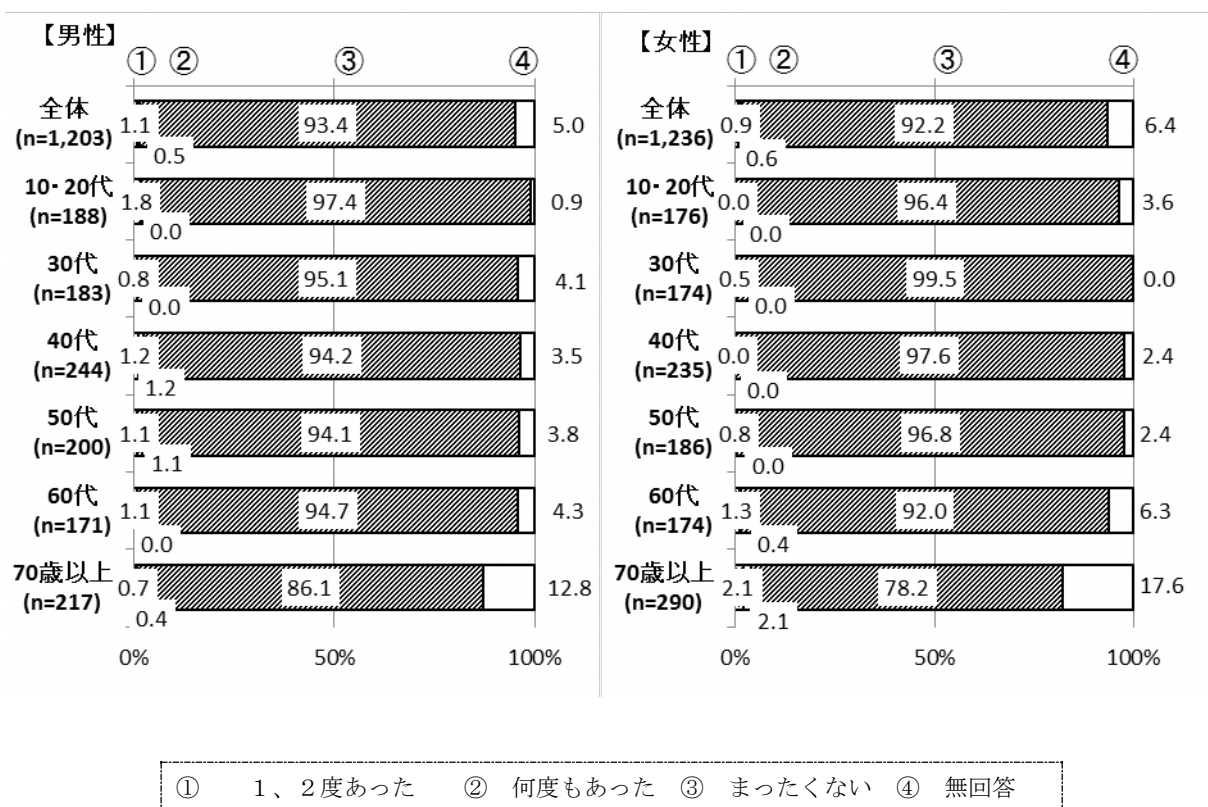
性別にみると、「家計に必要な生活費を渡さない」行為をしたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）の割合は、男性1.6%に対し女性は1.5%で、男性と女性の差はほとんど無い。

性・年代別にみると、70歳以上の女性で行為をしたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）が4.2%と全体の中で最も高い。

図表5-11-3-12 配偶者やパートナーに暴力にあたる行為をした経験

### L 「家計に必要な生活費を渡さない」

（精神的暴力）－ 性・年代別（12/13）



M 「外国籍の配偶者やパートナーのパスポートを取り上げたり、

日本に滞在するための手続きに協力しない」

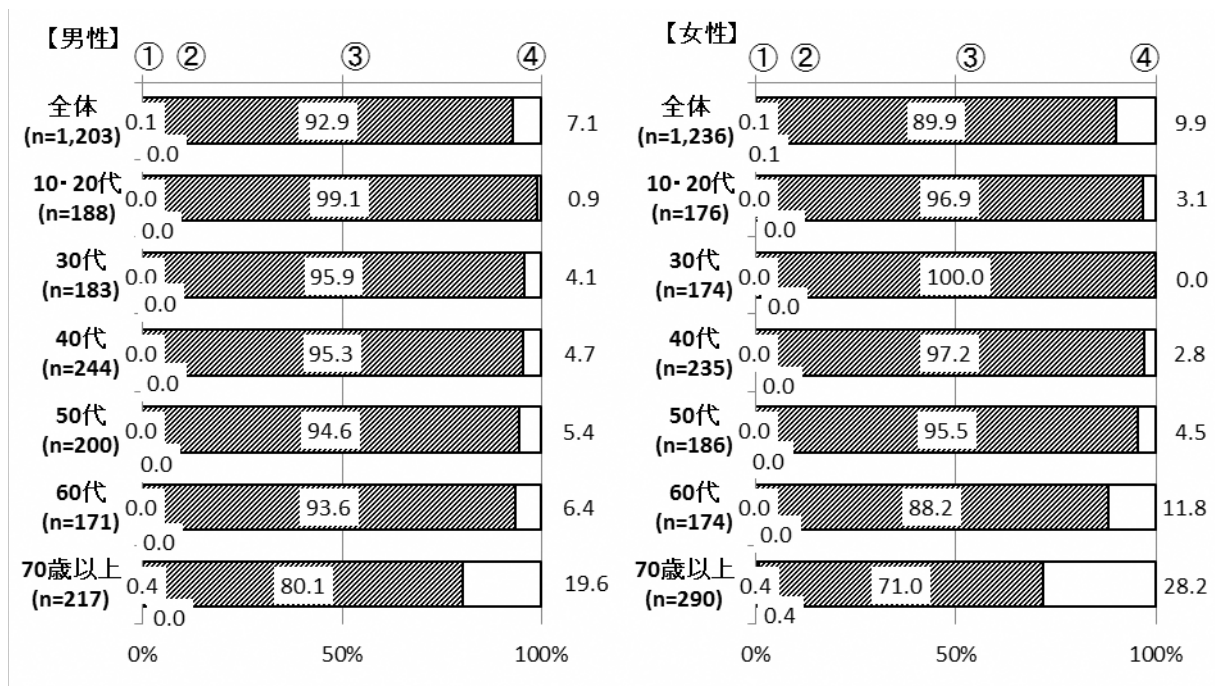
「外国籍の配偶者やパートナーのパスポートを取り上げたり、日本に滞在するための手続きに協力しない」行為をしたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）の割合は、女性が0.2%、男性が0.1%となっている。

図表5-11-3-13 配偶者やパートナーに暴力にあたる行為をした経験

M 「外国籍の配偶者やパートナーのパスポートを取り上げたり、

日本に滞在するための手続きに協力しない」

（精神的暴力）－ 性・年代別（13/13）



① 1、2度あった ② 何度もあった ③ まったくない ④ 無回答

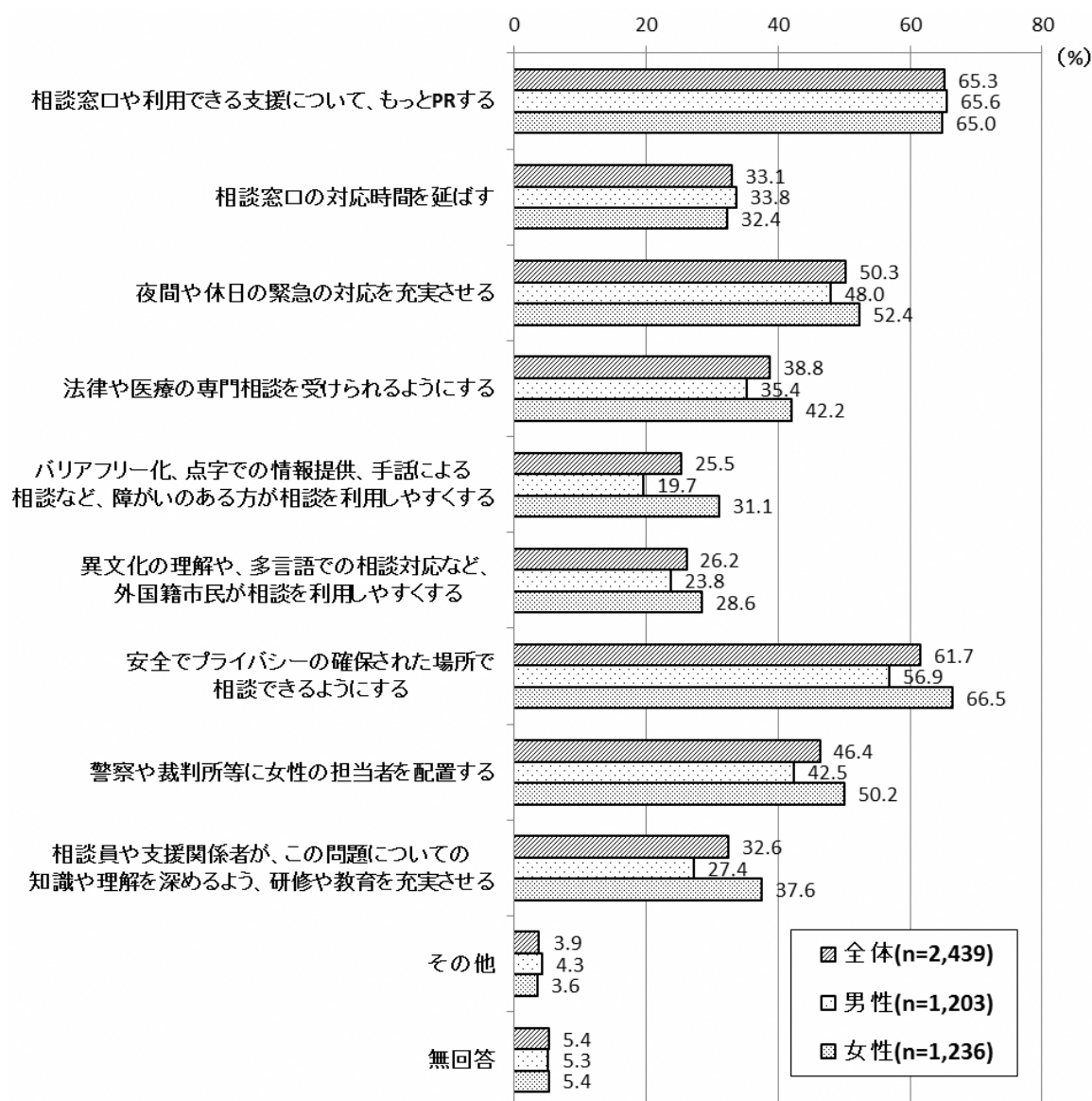
## 1.2 配偶者やパートナーからの暴力の被害の相談をしやすいようにするために必要なこと（問22）

配偶者やパートナーから暴力の被害を受けた方が、暴力についての相談をしやすいようにするために必要なことについてたずねた。

全体では、最も多かったのは「相談窓口や利用できる支援について、もっとPRする」（65.3%）で、次いで「安全でプライバシーの確保された場所で相談できるようにする」（61.7%）、「夜間や休日の緊急の対応を充実させる」（50.3%）となっている。

性別にみると、男女差が大きいのは、「バリアフリー化、点字での情報提供、手話による相談など、障がいのある方が相談をしやすいようにする」（男性19.7%、女性31.1%）、「相談員や支援関係者が、この問題についての知識や理解を深めるよう、研修や教育を充実させる」（男性27.4%、女性37.6%）、「安全でプライバシーの確保された場所で相談できるようにする」（男性56.9%、女性66.5%）などになっている。

図表5-12 配偶者やパートナーからの暴力の被害の相談をしやすいようにするために必要なこと  
（複数回答）



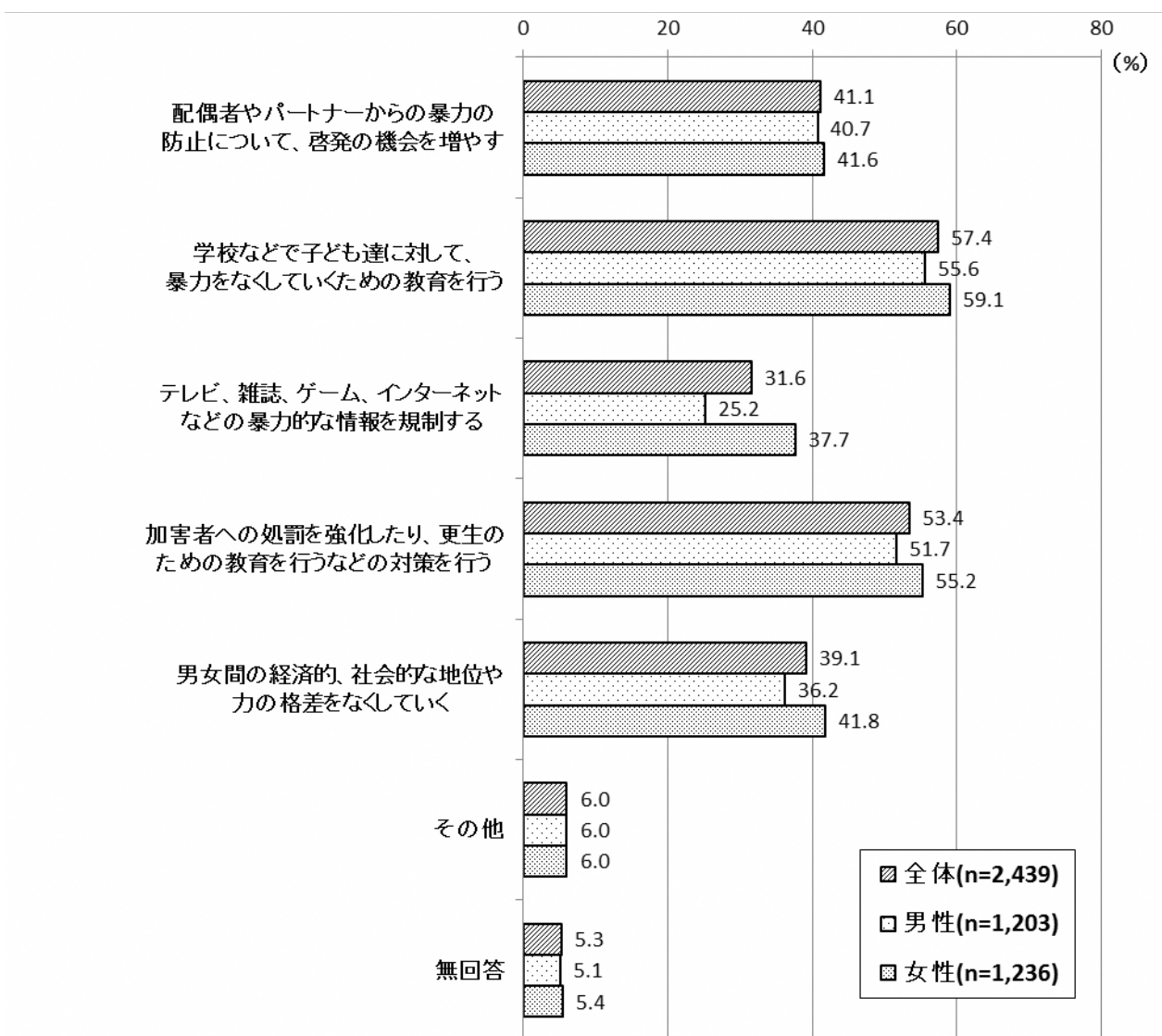
### 1.3 配偶者やパートナーからの暴力をなくすために必要なこと（問 23）

配偶者やパートナー、交際相手からの暴力をなくすためには、どのようなことが必要だと思うかたずねた。

全体では、「学校などで子どもたちに対して、暴力をなくしていくための教育を行う」（57.4%）が最も多く、次いで、「加害者への処罰を強化したり、更生のための教育を行うなどの対策を行う」（53.4%）となっている。

性別にみると、「テレビ、雑誌、ゲーム、インターネットなどの暴力的な情報を規制する」（女性 37.7%、男性 25.2%）で、女性の回答の割合が男性に比べ、10ポイント以上高くなっている。

図表 5-13 配偶者やパートナーからの暴力をなくすために必要なこと（複数回答）





## 第6章 男女共同参画について

### 1 男女共同参画社会の実現に向けて重点的に取り組むべきこと（問24）

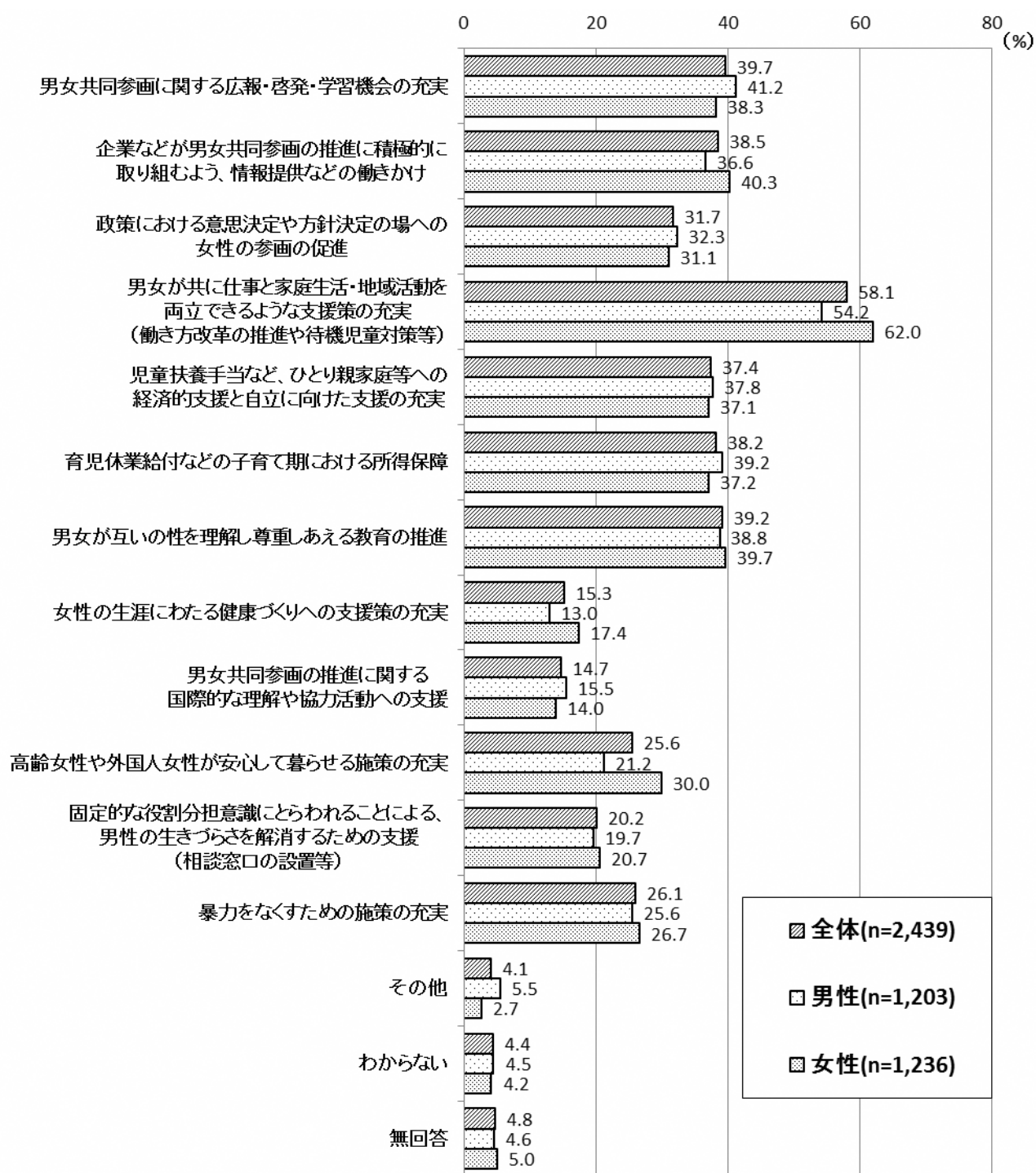
男女共同参画社会の実現に向けて、国や自治体が重点をおいて取り組むべきと思うことをたずねた。

全体、男性、女性いずれも、「男女が共に仕事と家庭生活・地域活動を両立できるような支援策の充実（働き方改革の推進や待機児童対策等）」の割合が圧倒的に高く（全体 58.1%、男性 54.2%、女性 62.0%）、男女共同参画社会の実現のために「仕事と家庭生活・地域活動を両立」が重要であると多くの人が考えていることがわかる。

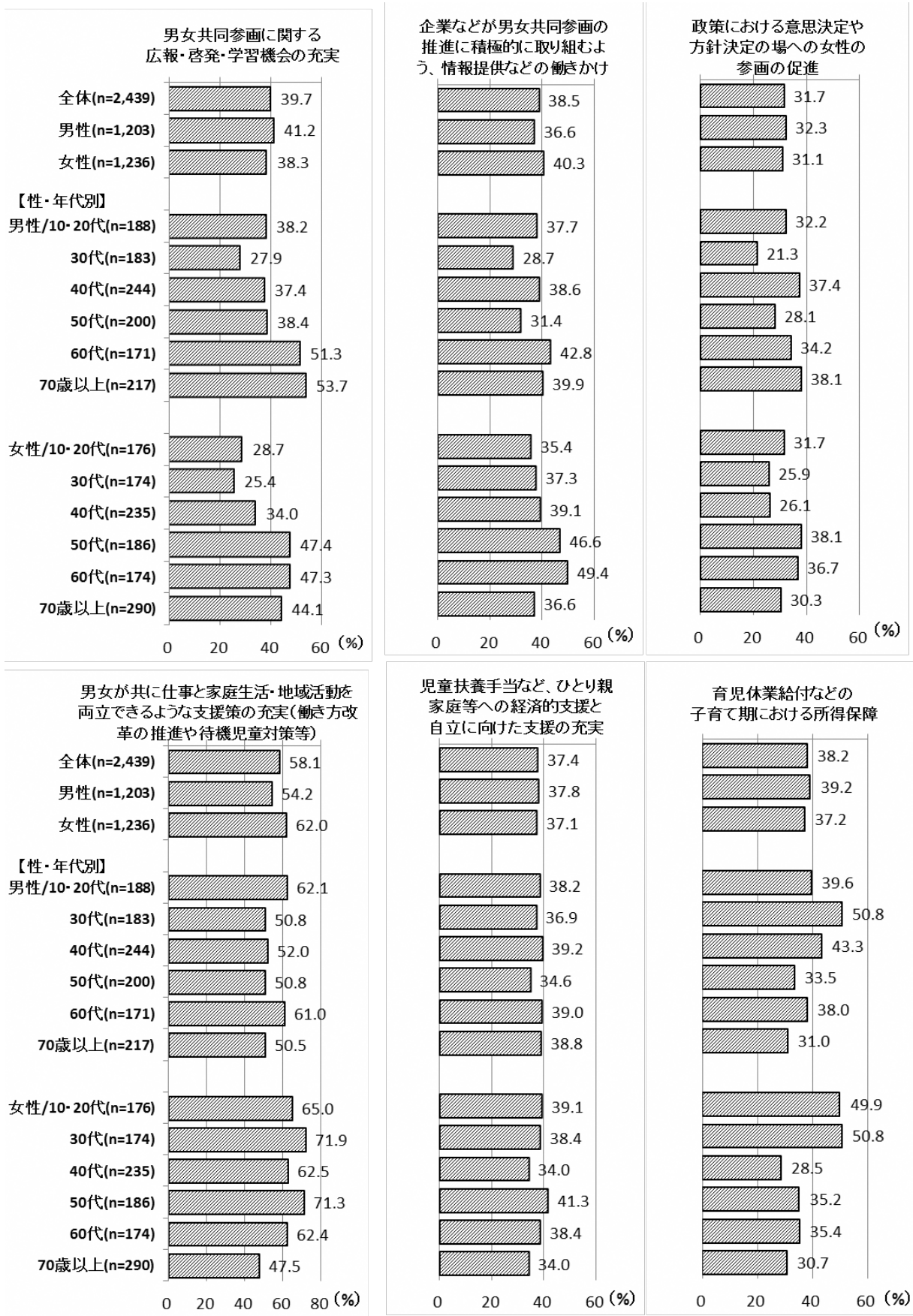
全体では、上記に次いで「男女共同参画に関する広報・啓発・学習機会の充実」（39.7%）、「男女が互いの性を理解し尊重しあえる教育の推進」（39.2%）の順となっている。

性別にみると、男性は上記に次いで「男女共同参画に関する広報・啓発・学習機会の充実」（41.2%）、「育児休業給付などの子育て期における所得保障」（39.2%）の順になっている。女性は上記に次いで「企業などが男女共同参画の推進に積極的に取り組むよう、情報提供などの働きかけ」（40.3%）、「男女が互いの性を理解し尊重しあえる教育の推進」（39.7%）の順になっている。また、性・年代別にみると、「男女が共に仕事と家庭生活・地域活動を両立できるような支援策の充実（働き方改革の推進や待機児童対策等）」は、女性の30代と50代で高く、7割以上となっている。

図表6-1 男女共同参画社会の実現に向けて重点的に取り組むべきこと（複数回答）

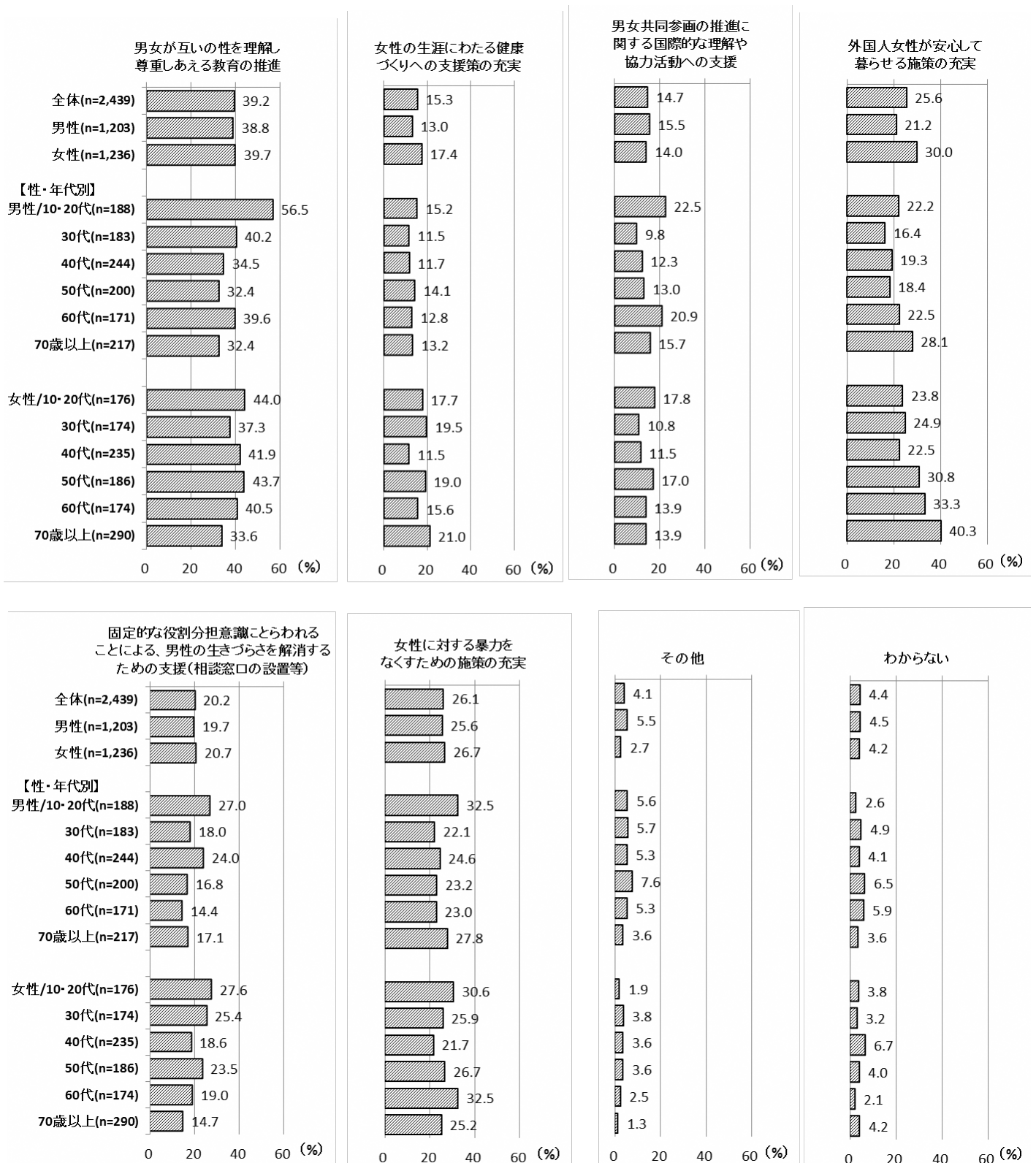


図表6-1-① 男女共同参画社会の実現に向けて重点的に取り組むべきこと（複数回答）  
性・年代別（1/2）



図表6-1-① 男女共同参画社会の実現に向けて重点的に取り組むべきこと（複数回答）

性・年代別（2/2）



## 第7章 自由意見

### 1 男女共同参画についての自由意見（問 25）

男女共同参画についての意見を自由回答形式で求めたところ、599人から回答があった。主な意見は次の通りである。

#### （1）家庭、学校における教育が重要であるという意見（39件）

- 小さい頃から、男女に区別はなく、同等であり、協力し合う事の大切さを教える。
- 幼児期からの取り組みが必要。小・中・高・大学でも学ぶ時間を設けるべきと思います。大人・高齢者も学ぶ機会を設けるべきと思います。
- 常に「ありがとう」がお互い自然に出るように、子供の時からの教育が必要。
- 子供の時から、学校や家庭で、男女が対等な社会や、家庭での構成員であるとの教育が大事と思う。
- 男性女性の性を尊重する教育を、小さい時からしっかり教育してほしいと思います。
- 企業などへの協力を求めることは、指導することも必要だとは思いますが、やはり教育が大事なのではないかと思う。小・中・高・大と、それぞれのレベルに合うよう、男女の平等、個性の尊重等、教えるべきと思う。

など

#### （2）男女間の平等や個人の尊重、男女の役割に関する意見（105件）

##### ア 男女間での平等について（43件）

- 最近では、女性の方が強くなってきていると思う。以前のように女性を守るという意識を捨て、対等であると認識すべきだと思う。
- 日本において、未だに「男だから」とか「女だから」とか、何かにつけて“性”を意識させられる場面が多くあるように感じる。確かに肉体的や意識の差はあっても、いずれ多くの場で「男女共同参画」が推進され、男・女を意識しない平等な社会になることを望む。
- 今は女性を優先しなければならない部分が多いと思いますが、そちらに気をとられすぎて、男性に対する扱いが粗末になるのも防いでほしいです。平等ということのを忘れずに。
- 男女平等意識の基本の徹底と啓発と、男女それぞれの自覚が必要。
- 男性・女性、それぞれ得意・不得意があるので、完全に平等にすることは難しいと思うが、性によるハンディキャップを行政や企業がカバーしていくことで、お互いが認めあつて、共に暮らしていくことができるのではと思う。
- 男女共同参画を意識しすぎて、女性がやたら優遇されていることもある気がする。

など

#### イ 性別ではなく個人・個性を尊重することが必要という意見（31件）

- 女性の登用と言われていますが、私は、男性・女性ではなく、その方の能力に応じた仕事や役職に就いたら良いのではないかと思います。
- 性別によって、得意・不得意を分けるのではなく、“個人”として対応していけば、もう少し変わるかなと思います。
- いろいろ区別する前に、全員が、同じ、人、人間である事を、広く理解してもらえそうな社会を目指してほしい。
- 男女を区別するのではなく、個人の能力に合わせての社会参加ができる社会が理想。
- 個人は差別されるべきではない。個人はその能力に従い、処遇されるべきで、性差により遇されるべきではない。ただし、性差は体力及び性的役割の差異によるものであるが、これを埋める制度設計が必要と考える。

など

#### ウ 男女の役割分担や適性について（33件）

- 男性と女性にはお互い持っている力が違います。偏見があれば、それを正し、明るい社会になればいいなと思います。
- まず、女性への差別を無くすのは前提ですが、女性に対して、すべき区別としないべき区別を明確にしないと、あれもこれも女性が女性がとなると、男性側から反発があると思う。
- 性差はある。性差による得手、不得手はある。共同とか平等とかの議論・対策は必要ですが、性差があるということも念頭においてしかるべき。その中で役割分担ができるのは、必然だと思います。
- 男女それぞれの役割分担は違っていると思う。無理に男女平等などと表に出さず、いち人間としての尊重があれば、解決できるものはできると思う。

など

#### （3）女性の結婚・出産・家庭のあり方など意見（9件）

- 結婚をしたいという気持ちはあるが、結婚という制度は社会の縮図でもあり、女性側の負担（家事、仕事、育児）が大きいと思います。まずは制度から見直し（例えば税制など）を行い、女性が結婚しても不利にならないようにする必要性を感じます。
- 女性は妊娠・出産がある限り、男性と対等に働くのは困難だと思う。
- 女性の場合は、結婚して子どもを授かってからが、男性と平等でなくなる実感が大きいように思います。

など

#### (4) 男女の地位や役割についての固定的・伝統的な考え方に関する意見 (20 件)

- 男だから、女だから、という観念がなくなると良いと思う。
- さまざまなところで、性別関係なく、一人一人の人間として活躍できるのが理想ですが、いろんな年代の方がいる会社等では、古い考え方から抜けられない人もいます。
- 男女が均等的に、社会や文化などの利があることはとてもいいことだと思います。昔からの固定概念を払拭し、新しい社会を生み出す良い機会だと思います。

など

#### (5) 相互理解、相手を尊重し合うこと (19 件)

- 男・女共に活躍できる社会になってほしい。男・女の質には違いがあるので、お互い尊敬し、認め、受け入れることが大切だと思います。
- 男性、女性、それぞれ特長・良いところがあるので、それは尊重されなければならない、社会生活を行う上で、他者をフォローしなければならないと思います。何も全て同じ事をするのではなく、相手を理解し合い、互いに補っていく事だと思います。
- 男らしさ、女らしさ、それぞれの「らしさ」を大切にしつつ、互いに尊重し、協力し合えるような形が良いと思います。
- 互いの考え方を尊重し、協力して物事を進めていく中で、新たな方向性が見えてくるのではないかと思います。

など

#### (6) 女性の社会参画に関する意見 (50 件)

- いろんな職業に女性の比率を多くしていくと、世の中も変わっていくと思います。
- 昔から比べれば、女性が社会への進出が多くなりましたが、まだいろいろな意味で壁が高いと思います。
- 子供がいても女性が安心して働けるような社会であってほしい。
- 新しい考え、新しいモノに対する抵抗感をなくすことが、女性の社会参加を促進するのではないのでしょうか。女性自身も、自ら学ぶ、自立することを選び続けることが大事なのでは、と思います。
- 女性が働きやすい社会にしてほしい。短時間パートタイマーなどの充実。
- 男女共同参画については、よい事だと思いますが、女性のリーダーにありがちな、思い込みの被害者意識や、慣れないリーダーに融通が利かず、四角四面になってしまう、経験が足りない方が多い。もっと女性も学習が必要。

など

(7) 男女の就労・労働環境・企業の役割に関する意見 (56 件)

- 男性が育休をとりやすいような社会になってほしいです。
- 男性も育児休暇が取りやすくなった方がいいと思う。また、女性が子育てが終わってからでも、また正社員になれるようにしてほしい。
- 育児休暇は、父子家庭等も対象を広げるべきだと思います。シングルファザーもシングルマザーと同等の支援を受けられるべきだと思います。
- 大企業と中小企業の環境が違いすぎる。
- 近年うたわれている男女共同参画は、ただ女性を優遇しているだけのようにも見える。育児休暇が取りやすくなるのは、女性だけでなく男性にも適用されるべきだし、それでこそ“男女共同参画”が実現すると思う。
- 性別による賃金の差や、妊娠出産による社会的地位、昇格チャンスが阻まれる事がないよう、取組んでほしい。
- 性別に関係無い業務配分の実施。

など

(8) ワーク・ライフ・バランス、家事・育児・介護の役割と分担に関する意見 (5 件)

- 家事、育児、介護は女性が行い、男性は働き続けられなければならない会社が固定化している。例えば、育児休職のフル取得の義務化などして、男性への参加を促し、女性の苦労を理解させなければならないと思う。

など

(9) 子育て支援に関する意見 (18 件)

- 子育て支援における休暇取得促進において、半日、時間単位取得の制度は必要と思うが、通勤の労力を考えると、できるだけ全日休んだほうが効率的だと感じる。
- 子育て期間に気持ち良く働けるように、制度をしっかりと作ってほしい。
- 女性が仕事と家庭生活が充実できる環境を促進し、子育ての間は育児休業の保障、経済的支援を充実させる。今や子育ても女性ばかりではなく、男性も積極的に講習会などに参加する機会を、地域で推進する。
- 改善されてきていると思いますが、まだまだ女性の負担が多い状況です。子育てしながら、会社で役割を持って働く事の困難さを、定年までずっと感じてきました。結果、管理職にはチャレンジできませんでした。女性が元気に生きていける社会を望みます。

など

(10) DV (ドメスティック・バイオレンス)・性差別・性教育に関する意見 (25 件)

- 言葉も暴力になる認識が少ないと思う。モラルハラスメントなども暴力であることを知ってほしい。
- パワーハラスメントに対する抑止も、この政策に必要だと思いました。
- 被害者の方へのケアを重点してやっていくべきだと思う。

など



(11) 男女共同参画についてのPR、意識啓発の必要性に関する意見（42件）

- 多くの方が認識できるよう、告知やセミナーをたくさんやるべきだと思います。
- 日本社会が男性主体で動いており、女性に対しても責任を求める（活躍する場）機会が少ないため、PRの場をもっと増やし、認識する機会を増加させる必要があるのでは。
- 広く認知されていない。もっとPRすべき。
- 公共機関での「男女共同参画」をもっと推進すべきである。
- 男女共同参画という言葉が、もっとメディアで取り上げられたら良いと思いました。
- 男女共同参画の推進の事をもっとわかりやすく説明してほしい。  
など

(12) 男女共同参画の意味を知らない（34件）

- 男女共同参画という言葉は、周りでまったく聞いたことが無いので、知名度はとても低いのではないかと思います。
- あまり聞いたことがなかったが、これを機に調べてみようと思いました。
- 具体的にどんな活動をしているのか、イメージが湧きにくいです。
- “男女共同参画”という言葉がわかりにくい。もっと誰にでもわかりやすい表現を使うほうがいいのではないか。
- 具体的内容がわからない。  
など

(13) 男女共同参画全般について（40件）

- 以前よりも格段に取り組みられていると思うので、今後も継続していくべきだと考える。
- この政策は良いと思いますが、少子化の原因になっていないのかと心配になります。
- これから社会に定着させるために、様々な取組を更にすべきだと思います。
- これからもっと具体的な制度や、働き方改革に、役立って行ってほしいと思います。
- 男女共同参画は良いと思うけど、強制とか支配は良くないと思う。年齢的な意見の違いもあるかもしれないが、徐々に男女共同参画の時代へなっていくと思う。
- 大変良い共同参画だと思います。今の時代は、プライバシーの問題という難しさがあり、なかなか踏み込んで住民に入れられないという事があり、哀しい事件がたくさん起こり、そう問題がなくなったら、住み良い社会になると思います。  
など

(14) 社会制度・法・施策などについて (77 件)

- 家族、仕事、地域活動の場で、男女が対等に、互いに協力していくためには、社会の支援（法の支援）が必要だと思います。
  - 心身共に健やかで生活できるような社会の仕組みを構築する。
  - 社会の変化が必要である。まずは、行政が変わらないと、男女共同参画は進まない。
  - 共同参画という言葉が先行しており、社会や会社の環境が整っていない。
  - 男女が平等な国になる良い政策だと思います。
  - 性差別のガイドラインや具体例を明確に提示していくべき。
- など

(15) その他 (58 件)

- 時間にゆとりがあれば実現できるかと思う。
  - 全ての人が住みやすい、生活しやすい世の中になってほしいです。
  - どのような立場の人でも困った時に助け合える仕組みになれば良いなと思います。
  - 性別に関係なく、自分の望む生き方ができる社会になれば良いと思う。
  - 老若男女分けへだてなくみんなが活躍できる世界が実現しますように。
- など

## 2 配偶者やパートナーからの暴力の根絶と被害者への支援についての意見（問 26）

配偶者やパートナーからの暴力の根絶と被害者への支援についての意見を自由回答形式で求めたところ、391 人から回答があった。主な意見は次の通りである。

### （1）DV（ドメスティック・バイオレンス）の原因に関して（73 件）

- 言葉の暴力というものが存在していることの、男性の認識の低さが問題。
- 暴力＝家庭環境＋持って生まれた性格だと思う。性格を直すのは難しいが、環境を整えてあげれば、素直に育つと思う。家庭が安定するよう、生活環境を整える事ができれば、暴力も減っていくと思う。
- 配偶者からの暴力の要因が、相手を責めたり、プライドを傷つけたりすることが考えられます。暴力に至る原因の追究もお願いいたします。
- 何よりも、当事者の意識が暴力の原因だと思うので、ここを変えていくしかないと思う。
- 暴力はよくないが、それをする原因を追究するべき。そこを解決しないと、本当の解決にはならない。
- 暴力を受けるに至った根本原因を究明し、解決していかないと、根絶できないと思う。
- 配偶者やパートナーの育った環境に問題があると思われまますのと、テレビ、マンガ、ゲーム等の規制を願っています。

など

### （2）発見や解決には、近隣の見守りや社会環境が重要（31 件）

- 周囲の人間が気付いてあげられるよう、地域社会との接点を築いていくことが重要だと思う。
- 相談しやすい環境を作ることが大事になってくると思います。
- 実際に暴力を受けている人は、なかなか声を出すことができないし、相談できる人もいない。気になる人がいれば、周囲の人達が暖かく声をかけ合える環境になればいいと考えます。
- 被害者本人が誰にも話せず、と聞きます。本人が言わなかったら、気付きも出来ないのでは。まずは言える環境を整える事が重要になると思います。スーパーや銀行などにチラシを置くなど、身近な所に SOS があると良い気がします。
- 暴力は最低行為です。周りの人に相談できるように、普段より近所付き合いをしておく。

など

### （3）被害者の保護・支援について（30 件）

- 加害者からの暴力を逃れるためのシェルターの充実と、経済的自立の支援。
- 弱い立場の人の経済的支援。加害者の課外の事実認定の判断基準の明確化。加害者への罰則強化などが重要と考えます。
- 法律の専門家だけでなく、カウンセラーやソーシャルワーカーなど、気持ちの整理や解決を、ソフト面でも支援する人がいればいいと思います。
- 暴力を受けている、これから受けるかもしれない人の身の安全を守ってあげられるように、支援が充実してほしい。
- DVについては、犯罪などに発展しているケースもあるので、きちんと対処されるべき支援が必要だと思います。

- 現在、問題となっているのは、被害者支援が満足にできていないことである。このためには、解決するためには、今以上の支援機関の充実が必要。
- もっと被害者を守るべき。相談するだけでなく、保護することも重要。
- パートナーからの暴力があったら、まずは逃げる場所を確保すべきである。  
など

#### (4) 家庭や学校での教育が重要 (44 件)

- 幼い時から、家庭で、学校で、相手に対して、嫌がっている事はやらない、自分と違う相手を尊敬する事を教えたら良いのでは、と思います。
- 学校、家庭、地域、それぞれからアプローチをして、性に対する教育の機会を増やす。性について、正しい教育が行われるような環境作りの促進。
- 個人の人格の問題。子供の頃からの教育が必要。大人になって人格が形成されてからは、なかなか治らない。
- この問題は、小さい頃からの教育に問題があると思います。親のしつけが大事だと思います。
- 幼少時より、父親が手を上げて教育するような風土を改善してほしい。親にされたことは、妻にも自分の子供にも、ためらわずに行います。母親の教育、子供に対する育て方の教育をしてゆくべきだと思う。
- 幼児期からの教育が必要だと思う。被害者は徹底的に安全に守られなくてはならないと思う。
- 暴力防止のプログラムを、子ども達と保護者向けに行う等、早い段階から、正しい知識を得られるようになれば良いと思う。  
など

#### (5) 加害者への刑罰やケアについて (29 件)

- 暴力をする側への継続的カウンセリングや治療ができる専門の施設や病院をつくることも大事かと思います。
- 加害者の罰をさらに厳しくするべきであると思う。
- 暴力をしてしまう側の人に対する支援や背景の理解も必要かなと思います。
- DV 加害者への罰を重くし、被害者へも、パートナーへの依存をやめるよう、心を強くする支援を行うとよいかと思う。
- 被害者の安全の完全確保。暴力に対する処罰を重くする。
- とにかく、罰則を重くするべきだと思います。更生プログラムの充実化や、被害者が安心して生活できる政策、支援の充実が必要だと思います。  
など

#### (6) 相談体制 (54 件)

- いつでもどこでも気軽な気持ちで相談出来る環境を整えるべき。
- 被害者が相談しやすい環境をもっと増やす。
- DV が起こらないような教育をしていく事も必要ですが、被害者がいつでも相談できるような窓口を増やすことも必要だと思います。

- 相談できる窓口をもっと知らしめること。どんな些細なことでも相談してよいところがあること。被害者が、大したことないと思わないこと。非常事態であるという意識が持てるようになること。
  - 被害者が、困っている時に、親身になって相談出来る場所が簡単にわかるといいですね。
  - 被害者支援として、相談した人の心のケアが大切。その場だけでなく、長期にわたってケアが出来れば尚良いと考えます。
- など

#### (7) 啓発活動・PR (30件)

- 「夫婦・恋人間であっても、暴力は犯罪」という事を、もっと広くPRして欲しいです。
  - DVだと気がついていない人が、DVを受けている人である事が多いような気がする。PRと教育の充実、施設の広報をされるといいと思います。
  - 相談窓口をわかりやすく、「困ったらまずここへ」という広報を広く行くと良いと思う。
  - 電話やメールなどで簡単に相談できる事をもっとPRしてほしい。
  - 知人に配偶者から暴力をうけた人がいるが、家族や友人など、周りの人が助けようとしても、現実には難しいので、相談支援センターなど、多くの人の目に触れるようPRしてほしい。
  - DVは犯罪であることの周知を徹底すること。DVは個人間の問題である、との間違った認識を改善するために、市の広報紙等で、もっと広報・啓発に取り組んで欲しい。被害者の支援に関して、民間のボランティア、NPO等の力も借りて、協力して取り組んで欲しいです。
- など

#### (8) 被害者支援と加害者対応の双方についての意見 (11件)

- 被害者の支援と、加害者への指導の方が重要だと思います。
  - 加害者への処罰を強化。被害者への公的機関の迅速な対応。
  - 暴力は絶対認められません。被害者の今後と、安全生活への保障と共に、加害者への厳罰を望みます。
  - 被害者の支援も大切だが、加害者を減らすことも大切だと思う。加害者となってしまう前に抑止する教育が必要。
- など

#### (9) その他 (89件)

- 男女は常に対等であり、どちらかがガマンするような状況にならないようになることを望みます。
  - 今後、今より、より住みやすい社会に期待しています。
  - 根絶するのは不可能だと思うので、問題の早期発見やその真偽を見極めるための措置に注力した方が良いと思う。
  - 当事者と配偶者だけの世界に閉じこもらないような社会作りが大切だと思います。
  - DVを受けてシェルターなどに入ってる人の情報がよそにもれないようにしてあげてほしい。
  - パートナーに限らず、互いが互いにありがとうと言える社会であれば、と願います。
- など